

2020（令和2）年度 石巻専修大学
自己点検・評価報告書（教員活動編）

石巻専修大学

2020（令和2）年8月

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	教授	氏名	足立 岳志	就任年度	1990（平成 2）年度
----	------------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目	材料工学、自動車材料、材料強度学、機械設計製図Ⅱ、機械工学実験Ⅰ・Ⅱ、機械工学実験Ⅲ・Ⅳ、機械工学実験Ⅴ、機械工学演習Ⅰ、機械工学演習Ⅱ、卒業研究
2.大学院担当科目	エネルギーシステム工学特論、物質工学特別研修Ⅰ、Ⅱ、物質工学特別演習・実験Ⅰ、Ⅱ、機能材料システム工学特論、機械システム工学セミナー、物質機能工学博士特別演習・実験
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。)	
特記事項なし	

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
令和2年4月～令和3年3月	日本機械学会東北支部第57期商議員
令和2年9月26日	日本機械学会東北支部第56期秋季講演会フェロー審査委員
令和3年1月～	第61回原田奨励賞選考委員
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
令和2年4月～令和3年3月	理工学部教務委員会委員	
令和2年4月～令和3年3月	解放センター委員	
令和2年4月～令和3年3月	研究助成専門委員会委員	
平成31年4月～令和3年3月	工作センター長	
平成31年4月～令和3年3月	試験センター長	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）非対面授業のため、新たに資料を作成した。配布資料を別途配った。	
（実験）非対面授業のため、新たに資料を作成した。実験を行っているように感じてもらえるように、画像を多用した	より分かり易くするため、可能ならば動画も検討したい。
（ゼミナール・卒業研究・演習）演習は非対面で行う時間が多かったため、添削を行うのが中心になった。WEBで行うことも考えたが、その場で行うのは難しいため断念した。卒業研究は時間が限られたため、実験を絞って行った。	演習、卒研は非対面は難しい。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	教授	氏名	阿部 知顕	就任年度	2004（平成 16）年度
----	------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 動物発生学、神経生理学、生化学、食品微生物学、フレッシュマンセミナー（分担）基礎理数演習Ⅰ（分担）、生物学実験（分担）、バイオサイエンスコミュニケーションⅠ（分担）、バイオサイエンスコミュニケーションⅡ（分担）生物科学実験Ⅰ（分担）、生物科学演習Ⅰ（分担）、生物科学実習Ⅰ（分担）、生物科学実習ⅡB（分担）、動物学実習（分担）、生物科学特別科目Ⅳ（分担）、生物科学演習Ⅱ、生物科学演習Ⅲ、卒業研究
2.大学院担当科目 分子遺伝学特論、生体情報学特論、生命科学特別研修Ⅰ、生命科学特別研修Ⅱ、生命科学特別演習・実験Ⅰ、生命科学特別演習・実験Ⅱ、発生遺伝学特論、生命環境科学博士 特別演習・実験
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2008(平成20)～継続中	ナショナルバイオリソースプロジェクト「細胞性粘菌」運営委員会委員
2018(平成30)～継続中	ナショナルバイオリソースプロジェクト「細胞性粘菌」運営委員会委員長
2019(令和元)～継続中	日本細胞性粘菌学会評議員
2018(平成30)～継続中	宮城県立石巻西高等学校評議員
2014(平成26)～継続中	日本産業カウンセラー協会産業カウンセラー
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020（令和2）～継続中	キャンパス・ハラスメント防止委員会委員長	
2019（令和元）～継続中	個人情報業務責任者	
2018（平成30）～継続中	高大連携・石巻西高等学校担当委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 本年度はコロナ禍による非常事態宣言等により、遠隔授業をせざるを得ない状況や、対面授業再開後も公共交通機関を使った通学への不安をかかえる学生や、体調不良の学生より遠隔授業の併用が希望されたことから、対面授業をオンラインで同時配信することにより、授業の質を維持しながら学生の置かれた状況に対応した。	オンライン授業で用いた Zoom は、通信環境が劣悪な場合でも、ある程度画像や音声を途切れさせずに通信できる信頼性が確保できたが、学生の用いる機器の違いや設定の違いにより、音量や画質に差が出ることが避けられない。対策として、ライブの授業を後からダウンロードして再確認できるよう、録画・録音データを活用したい。
（実験） 本年度はコロナ禍により、特に対面での指導が必要な実験科目の指導が困難であった。遠隔授業の期間中はデモンストレーション動画の配信とデータの配布により、データ分析を中心とする指導により、できるだけ実験科目としての指導の質の維持に努めた。	対面授業でない限り、やはり実験科目の指導は難しい。可能な限り対面授業を継続できるよう、さらなる感染症対策の徹底を行いたい。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 実験科目と同様に、本年度はコロナ禍により、特に対面での指導が必要な演習・卒業研究の指導が困難であった。遠隔授業の期間中はデモンストレーション動画の配信やデータの配布により、データ分析を中心とする指導により、できるだけ演習の指導の質の維持に努めたが、卒業研究については指導に限界を感じた。	対面授業でない限り、特に卒業研究の指導は難しい。可能な限り対面授業を継続できるよう、さらなる感染症対策の徹底を行いたい。
（その他特記すべき事項） コロナ禍における遠隔授業の実施や感染症対策の徹底について、大学全体としての取り組みによるサポートが受けられたことで、困難な状況下でも可能な限り滞りなく授業が進行できたことはありがたい。	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	教授	氏名	泉 正明	就任年度	2003（平成 15）年度
----	------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 流れ学、設計法、情報システム概論Ⅰ、情報システム概論Ⅱ、流体機械
2.大学院担当科目 計算機援用工学特論、熱流体シミュレーション特論、高機能化プロセス工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020（令和2年度）	キャンパスハラスメント防止委員会委員	
2020（令和2年度）	FD 委員会委員	
2020（令和2年度）	物質工学専攻主任	
2020（令和2年度）	大学院資格審査委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） ・本年度は Zoom 授業が主であったため、内容が予め分かっていた方が安心かと思い、講義資料を事前配布した。資料内の大事な部分は空欄としておき、時間を与え、空欄を埋めさせた。 ・プログラミングを行う授業に関しては、1行1行説明しながら作成し、完成させた。	・空欄を開けた講義資料の事前配付は比較的良好のようであった。 ・プログラミングなどの実技形体の授業で Zoom を使用した場合、実際に PC に触れず、フラストレーションがたまったようである。プログラミングの結果も事業後配布すべきと考える。
（実験） 化学実験も Zoom で行ったが、前半は原理を説明し、ノートを取らせ、休憩時にノートを提出させた。後半は、実験の各過程を写真で示しながら説明した。その後課題を提出させた。	実験なので、学生に実際に器具の操作をさせることが理想であるが、Zoom でもある程度目的を達成できたようである。
（ゼミナール・卒業研究・演習） コロナ禍の中、状況により対面、非対面授業が随時変わるため、研究テーマ等を変更して対応した。	Zoom で対応可能なテーマに変更したことにより、卒研、演習を完遂させた。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	教授	氏名	梅山 光広	就任年度	2020（令和 2）年度
----	------------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 自動車工学Ⅰ・Ⅱ、自動車整備Ⅱ、工作・測定作業実習、自動車整備実習Ⅰ・Ⅱ、カーエレクトロニクス、機械工学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
2.大学院担当科目 材料強度システム特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1. 教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 自動車の開発・設計にかかわる次代の自動車づくりを担う人材の育成	2020（令和 2 年）8 月	みやがカーインテリジェント人材育成センター研修 自動車の機能・構造のオンライン講義、オンラインビデオ実習
2. 作成した教科書、教材、参考書 オンライン講義・オンラインビデオ実習（事前にビデオ収録し使用）	2020（令和 2 年）8 月	オンライン講義：自動車の歴史と環境技術 ビデオ実習：車体・エンジンの分解と部品・センサー類の機能説明
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 学内の実習には、事前学習用の録画ビデオと、ライブ中継を併用	2020（令和 2 年）5 月	ビデオによる事前学習とライブ中継の組み合わせは、専門家自らの映像が分かりやすく、後の対面実習で目覚ましい学習効果が確認できた。
4. その他教育活動上特記すべき事項 図を主体のオンライン講義と実習のオンライン化が好評だった。		受講者が倍増、いち早く実習のオンライン化にチャレンジしたことが 宮城県議会で好評を博した。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
石巻市 SDGs モデル都市指定に伴い、						
「将来型グリーンスローモビリティ研究」を実施						
成果を共創研究センター報告書に掲載	単著	2021(令和 3年)4月	石巻専修大学	梅山光広	2 ページ	無し
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020（令和2年）12月8, 9, 10日	石巻西高校 地域課題探究型フィールドワーク「SDGｓ未来都市 石巻市の交通の問題点と対策案を提言しよう！」を実施。
	牡鹿半島の現地視察、問題点発見、対策案の提案を、高校生4名を指導しながら実施し、高校側より高く評価された。
2020（令和2年）11月20日	石巻地域コンソーシアムにて、新メンバー構成で討議の参加
2020（令和2年）9月9日	志津川高校大学訪問（自動車の歴史と将来モビリティ講義）
2020（令和2年）8月4日	好文館高校出前授業（自動車の歴史と将来モビリティ講義、高校取り組みプロジェクト討議）
2021（令和2年）3月22日	石巻市 SDGｓ シンポジウムにパネラとして参加。ハイブリッド車用電動部品リユース、電動車両自動運転、再生エネルギー活用研究と石巻専修大学 SDGｓ グリーンモビリティタウン実証などを紹介
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 当初疑問視されていた実習のオンライン化に、関係者の協力でチャレンジ。対面実習との組み合わせでより高い学習効果があることが分かった。説明に沿った撮影、見たいところをアップする専門家の技術が鍵である。	平時でも予習にビデオを活用するなど、学習効果を高める方法がありそうなので、次年度もビデオを活用し、さらなる学習効果アップの方法を探っていく。
（実験） エンジン性能試験が、ベンチトラブルで後半実施できなかった。データを準備した性能計算は十分でなかった	エンジン性能ベンチを復旧して実験体験を習得できるようにする。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究は構内立ち入り制限が大きく思うように実施できなかったが、時間を見つけて部品を触る体験はできた。	対面を基本にスタートを早め、中身の濃い研究を進めることを研究室内で確認した。時間は限られるが、自動運転やAIの技術についての体験を織り込んで、将来人材の育成に注力する。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	教授	氏名	尾池 守	就任年度	2002（平成 14）年度
----	------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 航空宇宙工学、トライボロジー、機械工学演習Ⅰ、機械工学演習Ⅱ、卒業研究
2.大学院担当科目 システム流体工学特論、流れシステム工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2016(平成 28)年度～継続中	みやぎ工業会顧問
2016(平成 28)年度～継続中	七十七ビジネス振興財団評議員
2016(平成 28)年度～継続中	石巻商工会議所顧問
2018(平成 30)年度～継続中	東北工業大学外部評価委員
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2016(平成 28)年度～	学長	

VI その他特記すべき事項

「時報」2020 年 9 月号（第 62 巻 9 号）2020.9.1 に「地域で実践した理論から普遍性ある価値創造を実現」（pp.78-83）と題したインタビュー記事が掲載された。

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（学部授業） 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、Zoom による非対面授業を行った。理解度を確保するため Zoom 授業終了時に毎回レポート課題を課した。メール等で提出された解答に対しては、添削後コメントや解答例を添付して返信し、次回の Zoom 授業の冒頭において問題の解説をすることで、学修成果の向上を目指した。 （大学院授業） 健康管理に万全を期した上で対面授業を行った。英文の配布資料に基づき、輪講を主体とする対話形式で進め、質疑応答を通じて疑問点の解消と理解度の向上を図った	学生や院生が、授業に対してより主体的に関与するための動機付けが求められる。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	教授	氏名	太田 尚志	就任年度	2014（平成26）年度
----	------------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目： プランクトン学、海洋生態学、水圏微生物学、情報活用法Ⅰ、コンピュータ活用Ⅰ、基礎理数演習Ⅰ、フレッシュマンセミナー、バイオサイエンスコミュニケーションⅠ・Ⅱ、生物科学特別科目Ⅳ、生物科学演習Ⅰ、生物科学演習Ⅱ、生物学実験、生物科学実験Ⅱ、生物科学実習Ⅰ、海洋生物学実習、生物科学演習Ⅲ、生物科学実験Ⅲ、卒業研究
2.大学院担当科目： 海洋浮遊生物学特論、海洋浮遊生物生態学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 教員への CoursePower 活用事例紹介	2020（令和2）年4月21日	学内新教育研究システム説明会でICTツール（CoursePower）の活用事例を学内教職員向けに紹介
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2019（令和元年）年度～継続中	東北マリンサイエンス拠点形成事業女川湾調査検討委員
2019（令和元年）年度～継続中	仙台一高井戸沢小屋管理委員
～ 2021（令和2年）年	仙台一高山の会幹事長
2019（令和元年）年度～継続中	北上町大須生活改善センター運営委員長
2019（令和元年）年度～継続中	北上地域まちづくり委員会委員
2019（令和元年）年度～継続中	北上地域自治システム運営委員
2020（令和2年）年9月9日	模擬授業（志津川高校）
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018（平成30）年度～継続中	就職指導委員会	
2019（令和元年）年度～継続中	生物科学科クラス担任	2年次クラス担当
2019（令和元年）年度～継続中	新学科構想ワーキンググループ	座長

VI その他特記すべき事項

令和2年度教育活動表彰

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）コロナ対応のため、前期、後期ともに非対面形式で授業を実施した。事前学習としてオンライン講義で使用する資料を CoursePower で配布し（オンデマンド）、目を通しておくように指示。講義では Zoom で配布した資料の概説を行い、不明な点については講義中に質問等を受け付けて対応。事後学習には、その日の講義内容についての確認小テストを Forms で実施し、教員から学生へのフィードバック強化として、確認小テストや定期テストの解答説明と質疑応答に力を入れた。	授業評価アンケート評価点はすべて平均以上であった。次年度は、非対面授業にならないことを願いたい。非対面となった場合は、今年試みた工夫点をさらに微修正しながら、改善に取り組む。また、対面授業が再開した場合も、今年度行ったオンデマンド式の事前資料配布や確認テストを取り入れたい。
（実験）前期は非対面形式、後期は一部対面式で実施した。事前学習として実験使用する資料を CoursePower で配布し（オンデマンド）、目を通しておくように指示。実験レポートの提出には LMS(CoursePower) を利用した。	レポート提出に CoursePower を利用したことで、期限内のレポート提出率が 95% 以上に達した。今年も対面、非対面にかかわらず、事前資料配布やレポート提出に LMS (inCampus) を積極的に利用したい。
（ゼミナール・卒業研究・演習）コロナ対応のため、研究室の演習はオンライン (Zoom) 形式で行ったが、卒業研究指導はコロナ感染予防対策を徹底しながら対面式で行い、個別指導の時間をできるだけ多くするよう心がけた。	卒業研究指導は、学生人数が多いためタイムスケジュール作りに苦慮した。次回は指導に LMS やメールを積極的に活用しながら個別対応の質を高めていきたい。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	教授	氏名	角田 出	就任年度	1989（平成元）年度
----	------------	----	----	----	------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 （理工学部 生物科学科） 海洋脊椎動物学、 魚類生理学（水族生理病理学）、 卒業研究、 基礎理数演習Ⅱ、 生物科学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、 生物科学特別科目Ⅱ・Ⅳ、 フレッシュマンセミナー、 バイオサイエンスコミュニケーションⅠ・Ⅱ 生物学実験Ⅰ・Ⅱ、 生物科学実験Ⅰ、 生物科学実習Ⅰ、 生物科学実験ⅡB、 （理工学部 情報電子・機械工学科） 基礎化学A （人間学部） 自然環境論
2.大学院担当科目 （理工学研究科 修士課程） 魚類生理学特論、生命科学特別研修Ⅰ・Ⅱ、生命科学特別演習・実験Ⅰおよび実験Ⅱ
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む）		特記事項なし
2.作成した教科書、教材、参考書		特記事項なし
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記事項なし
4.その他教育活動上特記すべき事項		特記事項なし

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
オゾンファインバブルを用いたマボヤの高品質化	共著	2020年8月	日本水産学会、日本水産学会誌、86巻4号	高瀬清美・末永寛太・ 角田 出	328-334	有り
【その他】(報告書など)						
締め方の違いがニジマスの品質に及ぼす影響	共著	2021年2月	石巻専修大学研究紀要、32巻	角田 出・高瀬清美	31-41	無し
地域特産オリーブを活用したオリーブ銀鮭の開発	単著	2021年3月	2020年度 石巻専修大学 開放センター・共創 研究センター活動報告	角田 出	28-29	無し
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
生物資源の投与が魚類の高温ストレス耐性に及ぼす影響	共同	2020年6月	日本海水学会年会 第71年会	高瀬清美・角田 出(本人)		
酵母由来RNAを投与したギンザケの生体防御活性増強	共同	2020年6月	日本海水学会年会 第71年会	角田 出(本人)・細井 恒汰・高瀬清美		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2003（平成 15）年 4 月～現在に至る	日本海水学会 ； 環境・生物資源研究会 代表
2012（平成 24）年 6 月～現在に至る	日本海水学会 ； 評議委員
2018（平成 30）年 4 月～現在に至る	日本農芸化学会； 東北支部会 参与
2018（平成 30）年 4 月～現在に至る	公益財団法人塩事業センター研究開発外部評価委員 ； 環境分野，分析分野
2018（平成 30）年 5 月～現在に至る	石巻市北限のオリーブ研究会 委員， 同 6 次化部会 委員
2004（平成 16）年 9 月～現在に至る	宮城県水産高等学校と魚介類の生産や品質に係る技術指導・同校発表の支援 等
2011（平成 23）年 9 月～現在に至る	魚介類の高品質化，魚介類の寄生虫症対策等に係わる地域・企業の研究開発支援 等
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2019(平成 31)年 4 月～継続中	公報委員会委員	
2020(令和 2)年 4 月～継続中	開放センター委員	
2020(令和 2)年 4 月～継続中	個人情報業務責任者	
2020(令和 2)年 4 月～継続中	図書館委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 受講生には授業の目標や到達点として示されたことを達成すべく努力することを求めているが、そのために以下のことを周知・徹底するように心がけている：① 授業の意図を十分に伝え、理解を促す。② 講義の終わりや次講義の始めには、学生の理解度・立ち位置を認識させる。③ 身近な不思議が、さまざまに絡み合って、新たな発見に繋がることを気付かせる。これらを併用することで、学生達の学習意欲を高め、授業への前向きな参入を促すとともに、全体および個人のレベルアップを図るように努めている。また科目によっては、④ 出身地域と大学のある石巻圏域の現状を知り、学生生活・勉学に活かすこと、および同地域への定着を促すために、関係する情報をこまめに発信する。 具体的な授業スタイルは、教科書を用いず（参考書として関連する図書は提示済み）、パワーポイント並びに同冊子体と関連資料を配布しつつ授業を進める形式である。そのため、理解すべき配布資料は沢山ある。ただし、講義を良く聴くこと、授業内容で理解できない部分や不明な点があれば訊いて理解につなげることが基本であることを繰り返し伝えており、また、毎回、前回と当会の講義に関する質疑応答の時間も設けている。なお、板書に関しては、今後の社会生活を意図して、キーワードを中心に板書するもその他の記述はあくまで補足的な説明に止めたものと位置付けていることを、講義当初および途中で繰り返し述べている（2020年度はコロナ感染症対応のため Zoom 経由の講義であるため、パソコンのパワーポイント画面上でキーワード等を追加記載することで対応）。 受講生各位には、意識を高くして授業に集中し、その内容理解や応用につなげる努力をする、すなわち、説明をよく聞いてノートをとりながら（少なくともキーワードを開き逃さずに記録をとる）、不明な点は質疑応答の時間に解決したり、自身にとっての課題を明らかにしつつ、自宅学習を通して覚えていったり（それでも不明な点は翌週の講義の質疑応答時間には解決できるようにする等）と、常に前向きに授業に臨む必要のあることを伝えて、それをベースとした上で授業を進めている。	所見 全体の合格率は60～70%強であるが、成績には所属学科や学年の違いも反映されていることから、講義内で発した質問・課題や不明点の解消等に向けた各自の取り組み方の違いが大きく出ていると感ずる。 全体的にみて、自宅学習の時間が短いことは非常に気になるが、それにもまして、試験の正解を配布しても、その内容を理解し、その解がもたらされる筋道を考え、さらに、自身の文章として記述するまでに至っていない受講生が多いことは改善すべき点である。 今後、ハードルを余り下げることなく、講義毎に到達すべきレベルを明示する等して、受講生にも一定の学習成果や達成感が得られる（自身で現状が把握できる）ように検討していきたい。すなわち、講義時間毎にポイントを分かり易く伝えるとともに、小課題を出す等して、受講生に自身の現状や到達度を評価する仕組みを導入するとともに、自宅学習の充実に向けた課題提示や講義枠ごとの確認試験の追加等を検討するとともに、科学的な考え方の習得や文章化のスキルアップに向けて、他の授業との協働を含め、考えていきたい。
（実験） 上記①～④の事象を周知・徹底させることは当然ながら、実験に臨む態度、器具の取り扱い、準備から実際の実験実施までの各ポイントを確認・意識させつつ、基礎から応用に向けたステップアップを図るように努めている。特に、近年は学生が高等学校までの義務教育期間を通じて、実験に参加する機会が極めて少なく、また、基本的な実験の考え方や操作に止まらず、科学に関する基本的な知識が希薄かつ具体性が無い（バーチャルに慣れ過ぎている）ため、実体験を通じた学習を根付かせる事の必要性を強く感じている。それにも係わらず、その解消・改善に費やす実験関連の時間が非常に短	所見 実験に臨む態度、器具の取り扱い、準備から実際の実験実施までの各ポイントを確認・意識させつつ、基礎から応用に向けたステップアップを図るように努めている。また、適切なレポート作成に向けた指導を含めて実施するように心がけている。 従って、実験期間も後半になると、個々人のスキルが高まる事のみでなく、考え方や班内での協調性が高まっていると感じることができるようになる。ただし、一貫したかつ持続的な実験・講義が繋がっている訳ではないこともあり、これも一過性で終わっているように感じる。これは、卒業研究

いことに大いなる懸念を感じている。すなわち、個々人が実験を通して学生と向かい合う時間は極めて短く、また、限られており、学生達のレベルやモチベーションの持続性等を考えると、今後、システムの最適化（担当者を限定したり、テーマの統一・関連性についての配慮を高めたりする）を急ぐ必要性の高さを感じている。	への事前講義や演習、実験に際して常を感じることであり、非常に残念かつ対応の難しさを感じているところである。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 学生達の共同実験、および、個別実験を併用しつつ、自身の現状および到達点を常に意識させるとともに、進取の気質を持って物事に取り組むように指導している。また、近年の学生諸君には、基本的な科学的知見やスキルの欠如が目立つようになってきているため、それらに気付き、それを身につけることができるように、繰り返し基礎的かつ基本的な知識・技術の習得に励んでもらっている。その上で、学生には自己の現状、および、地域の現状等を自覚しつつ、自己啓発に努め、課題解決に向けて進めるように、彼らの様子を見ながら適度な負荷を掛け続けるとともに、彼らの自立を目指して、できるだけ自身の力で解決に向けてステップアップできるようにその進捗度を見守りつつ、最後のところではこまめかつ丁寧にサポートをするよう心掛けている。 また、共創センタープロジェクト事業や企業等との共同研究に積極的に参加させたり、近隣の高等学校（宮城県水産高等学校のフードビジネス系や栽培系等）の学生指導や共同研究・研究支援等への参加、関連学会や研究会への参加等を通して、在学中に習得すべきスキルや知識を習得させたりすべく努めている。学生達にとっては、かなり大変な時期を過ごしたことになると思うが、将来的には必ずやここで培った知識や技術、考え方等に必要性を感じてもらえるものと信じて進めている。 ただし、2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大によって対面実験可能な期間が著しく制限されたこともあり、繰り返しを含む、段階を踏まえた長期的な研究遂行には至らなかったことから、忍耐力や課題解決に至る各種知見や技能の習得に絡んでは不足部分がかなり残った感是否めない。加えて、学会等の開催時期がこちらの予定に合わなかったり、新型コロナウイルス感染症の拡大によってWeb 経由での開催となったこともあり、対面下で国内の関連学会や研究会で発表したり、質疑応答に混ざる機会を得られ与えられなか。また、地元高等学校等との共同研究（研究支援）結果として支援先の高等学校学生達が学会や科学系の大会等で発表したりすることも適わなかった。	所見 共同実験を通して基礎的知見や技術の習得と協力・協調性の大切さを、個別実験を通して自身の現状を把握しながら、問題解決に至る道の見つけ方ややり方の習得を目指している。また、到達点を常に意識し、かつ、進取の気質を持って物事に取り組むように指導している。 ただし、学生個々人の基礎学力や経歴、やる気等に大きな差が生じてきているため、全員に一定レベルの到達を課すことにはハードルが高くなっていると感じており、当該課題をクリアさせる方法の導きと早期実施が最重要と考えている。また、個人研究については、多少のレベル低下を甘受したとしても、彼らの充実度・充実感を高めつつ、その歩みを支える方法を探る必要のあることも感じてはいるが、これは学生個々人で対応を変える、あるいは、時期によって対応・負荷圧等を変えることで、できるだけ学生の質を落とすことなく、ゼミ・卒業研究等を通してでないと身につかない知識やスキルの習得を目指して欲しいという思いがあり、また、それが達成できるように努めることを考えている。なお、2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、対面下での実験実施や細かな指導ができ（Web 経由では行き届か）なかったこともあり、今度は危急時における指導のありかたについても準備の必要性を痛感した。 なお、共創センタープロジェクト事業や企業等との共同研究、近隣の高等学校の学生指導や共同研究・研究支援等への参加を通じた。啓発や知識やスキル向上については、今年に関しては、諸事情により、残念ながら当該目的は半ばで潰えることとなったが、今後も、彼らの実情を踏まえつつ、全員でなくとも、その機会を可能な限り活かせるようにしていきたい。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	教授	氏名	亀谷裕敬	就任年度	2010（平成 22）年度
----	------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1. 学部担当科目 情報活用法Ⅱ、機構学、計測工学、機械力学、振動工学《以上は専任》 フレッシュマンセミナー、物理実験、機械工学実験ⅢとⅣ、機械工学演習ⅠとⅡ、工作実習、卒業研究《以上は分担》
2. 大学院担当科目 機械動力学特論、構造システム振動特論
3. 非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1. 教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） オンラインのメリットを最大限に活用しつつデメリットを最小化するくふう	R2 年度中	チャット機能を活用したミニテストを30分に1回繰り返した。 宿題の添削指導で内容理解度を把握し授業にフィードバックした。
2. 作成した教科書、教材、参考書 各担当科目のワークシート、課題（宿題帳）	R2 年度中	各科目毎60ページを作成し履修前に配布 留学生向けには日本語、ふりがな、英語の専門用語対応表を配布
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
4. その他教育活動上特記すべき事項 オンライン補習塾で勉強が苦手で脱落しそうな学生を支援	R2 年度中	正規の時間外にオンライン（ほぼ1対1）で苦手なところ、理解できなかったところを詳しく説明し、例題を解けるまでフォローした。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
なし						
【論文】						
なし						
【その他】(報告書など)						
なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
令和2年度	日本設計工学会 東北支部 副支部長
【その他研究活動上特記すべき事項】	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
令和2年度	就職指導部長	コロナ対応

VI その他特記すべき事項

--

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）オンライン授業に対応した資料（パワーポイント約70ページ）を毎回の授業用に作成した。アニメーション機能を活用して、視覚に印象づける理解しやすいことを心がけた。授業アンケートでは好評だった。	更なる改良を重ね「見ればわかる教材」をめざす。
（実験）教材、テキストを改良、改定し理解しやすさを向上した。レポートは1名1名に改善点を指摘し理科系として恥ずかしくないレポートを書けるよう指導した。	引き続き、教育効果向上に努める。
（ゼミナール・卒業研究・演習）演習の前半はオンラインであったため、教材を工夫対面と変わらない効果を実現できた。後半はコロナで中断もあったが集中して進めるなど不利益がないところまで挽回した。	引き続き、機械工学の理解度アップを第一に実践する。
（その他特記すべき事項） 機構学、計測工学ならびに機械力学について補習塾を毎週開催	通常の講義や課題に対応できない学生向けに実施、教育効果を向上できた。

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	教授	氏名	亀山 充隆	就任年度	2016(平成 28)年度
----	--------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 情報システム概論 IA、プログラミング論 II、情報技術者専門科目 II、組み込みソフトウェア、情報社会論、フレッシュマンセミナー、情報電子工学実験Ⅳ・Ⅴ、情報電子工学演習、卒業研究
2.大学院担当科目 博士特別演習・実験（物質機能工学）
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Selecting Algorithms Without Meta-Features	共著	2021(令和3 年)1月	Lecture Notes in Computer Science、 Vol. 12664. Springer、Cham.	M. Lukac、A. Bayanov、 A. Li、K. Abiyeva、 N. Izbassarova、 M. Gabidolla、 <u>M. Kameyama</u> (本人)	607-621 15 頁	有
Optimization of LNN Reversible Circuits using Analytic Sifting Method	共著	2021(令和3 年)発行予 定	Journal of Circuits、Systems、and Computers.	M. Lukac、P. Kerntopf、 <u>M. Kameyama</u> (本人)	22 頁	有
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2005(平成 17)年 5 月～継続中	電子情報通信学会集積回路研究専門委員会顧問
1994(平成 6)年 9 月～継続中	Associate Editor 、 MVL Journal and Soft Computing
2014(平成 24) 年 4 月～継続中	一般財団法人青葉工業会常任理事
2014(平成 24)年 4 月～継続中	日本工学教育協会教育士審査委員
2019(令和 2)年 1 月～継続中	IEEE Sendai Section Life Member Affinity Group Vice Chair
2019(令和 2)年 1 月～継続中	トーキン科学技術振興財団理事・審査委員長
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017（平成 29）年 4 月～継続中	入試委員会委員	
同上	進学サポート奨学生選考委員会委員	
同上	研究助成専門委員会委員	

VI その他特記すべき事項

11 月 9 ～11 日に開催された 2020 IEEE 50th International Symposium on Multiple-Valued Logic (ISMVL)において、 50th Anniv. Event（50 周年記念イベント）での Short Speech を行った。

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） オンライン授業のために、わかりやすくかつ見やすい資料を作成し、それを用いた画面共有で説明を行ったつもりである。授業内容の理解を深めるために多くの演習問題を課しながら授業を行っている。ほぼ2回の授業ごとにレポート問題も課している。	演習をやらないうで提出しない学生が多い。特に、オンライン授業では、いかにして学生自らやる気を起こさせるかが課題である。
（実験） 実験結果のまとめ方やレポート記載方法、さらに発表会でのプレゼンテーション方法について具体的な指導を行った。	その効果は顕著であり、発表時間は7分ではあるが実験Ⅳ発表会では多くの学生が立派なプレゼンをすることができた。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 令和2年度研究室配属学生2名の卒業研究及び大学院博士後期課程学生1名を指導した。博士後期課程学生については、研究討論を行うと共に、博士論文学位取得のための学会投稿論文原稿の指導も行った。その研究成果を今後学会論文誌に投稿する予定である。また、学部生2名についても、卒業研究、演習等を精力的に指導した。	博士後期学生の研究成果は顕著なものがあり、学会論文誌への投稿が期待される。卒業研究内容についても実用製品につながる成果であり、充実したものであると思われる。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	教授	氏名	川島純一	就任年度	2009(平成 21)年度
----	------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 燃焼機関，自動車工学Ⅰ・Ⅱ，機械設計製図Ⅰ，自動車整備Ⅰ，機械演習Ⅰ・Ⅱ，機械工学実験Ⅴ，卒業研究
2.大学院担当科目 応用熱工学特論，熱エネルギーシステム工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 自動車工学（八戸工業大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む）		
2.作成した教科書、教材、参考書		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4.その他教育活動上特記すべき事項		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
【論文】						
【その他】（報告書など）						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2010(平成 22)～2012(平成 24) 年度	日本機械学会商議委員
2016(平成 28) 年度～2018(平成 30) 年度	日本機械学会エンジンシステム部門代議員
2018(平成 30) 年度	日本機械学会エンジンシステム部門企画委員会副委員長
2019(令和 1) 年度	日本機械学会エンジンシステム部門企画委員会委員長
2009(平成 21) 年度～2019(令和 1) 年度	自動車技術会東北支部参与
2020(令和 2) 年度～継続中	自動車技術会東北支部理事
2009(平成 21) 年度～継続中	石巻市企業誘致アドバイザー
2009(平成 21) 年度～継続中	みやぎ高度電子機械人材育成センター運営委員
2010(平成 22) 年度～継続中	電気自動車エコラン競技大会実行委員
【その他研究活動上特記すべき事項】	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2011(平成 23)～2012(平成 24) 年度	就職指導委員	2011(平成 23)～2012(平成 24) 年度
2010(平成 22) 年度～2018(平成 30)	大学開放センター委員	2010(平成 22) 年度～2018(平成 30)
2009(平成 21) 年度～2011(平成 23)	理工学部クラス担任	2009(平成 21) 年度～2011(平成 23)
2017(平成 29) 年度～2019(令和 1)	理工学部クラス担任	2017(平成 29) 年度～2019(令和 1)
2017(平成 29) 年度～継続中	大学教務委員会委員	2017(平成 29) 年度～継続中
2013(平成 25) 年度～2019(令和 1)	機械システム工学専攻主任教授	2013(平成 25) 年度～2019(令和 1)
2013(平成 25) 年度～2019(令和 1)	大学院資格審査委員会委員	
2019(令和 1) 年度～2020(令和 2)	機械工学科主任	

VI その他特記すべき事項

--

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 自動車整備講習会において，全面的に course power を活用した e-learning を実施。	
（実験） カーボン FRP 焼成用の電気炉導入（電気自動車作製用） 電気自動車設計用の SolidWorks を 2 式導入 モーター回生試験機製作 計測，解析制度向上のため，車載風速計，傾斜計，GPS ロガー，デジタルデータロガー，小型電流電圧電力計導入 車両機械部品製作に当たり，マシニングセンタを全面的に活用 登坂能力事前評価のためのスロープ試験法導入	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究：2012 年度より継続していた SUGO 電気自動車エコラン競技会が新型コロナウイルスの影響で中止となったため，車両性能の事前評価法の開発を行った。	
（その他特記すべき事項） 2017 年度卒業生：自動車整備士二級国家試験 5 名合格 2018 年度卒業生：自動車整備士二級国家試験 10 名合格 2019 年度卒業生：自動車整備士二級国家試験 6 名合格(2009 年度より 113 名合格) 2020 年度卒業生：自動車整備士二級国家試験実技免除資格取得 8 名	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	教授	氏名	工藤すばる	就任年度	1989（平成元）年度
----	--------------	----	----	----	-------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 電気回路 A、電気回路 B、信号処理基礎論、シミュレーション工学、フレッシュマンセミナー、情報電子工学実験 I～V、卒業研究、情報電子工学演習
2.大学院担当科目 修士課程 音響デバイス工学特論、情報デバイス工学特論、物質工学特別研修 I、II（情報科学）、物質工学特別演習・実験 I、II（情報科学） 博士課程 弾性波デバイス工学特論、知能情報工学特論、物質機能工学博士特別演習・実験
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 情報科学（石巻赤十字看護専門学校）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Improvement of structure of requencey-change-type three-axis acceleration sensor	共著	令和2年6月	Japaness J. Appl. Phys. 59, SKKC13	Sumio Sugawara and Subaru Kudo	pp.1~9.	有
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
Frequency Response Characteristics of Piezoelectric Complex Bar Resonator using Longitudinal-torsional Vibration Converter	単独	令和2年11月	第41回超音波エレクトロニクスシンポジウム			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
1998(平成10)年～継続中	電子情報通信学会ソサイエティ論文誌編集委員会査読委員
2001(平成13)年～継続中	日本音響学会編集委員会査読委員
2007(平成19)年～継続中	日本音響学会評議員
2004(平成16)年～継続中	超音波シンポジウム運営委員会論文委員
2004(平成16)年～継続中	Japanese Journal of Applied Physics Ultrasonic Electronics 特別編集委員
2012(平成24)年～継続中	東北大学電気通信研究所共同プロジェクト研究会プロジェクトメンバー
2015(平成27)年～継続中	電子情報通信学会超音波研究専門委員会専門委員
2020(令和2)年度	技術相談受付2件, 石巻ソフトテニス協会副会長
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2015(平成27)年4月～2021(令和3)年3月	情報教育研究センター長	
2015(平成27)年4月～2021(令和3)年3月	個人情報保護委員会(個人情報部門責任者), 個人情報保護運営会議委員	
2019(令和元)年4月～継続中	自己点検・評価運営委員会委員長	
2019(令和元)年4月～継続中	理工学部教務委員会委員	
2019(令和元)年10月～2021(令和3)年3月	専修大学情報セキュリティポリシー策定に関わるワーキンググループ	オブザーバー(石巻専修大学教員代表者)

VI その他特記すべき事項

これまでに参加した教育研究集会 私立大学情報教育協会 第11回産学連携人材ニーズ交流会 2021年3月5日開催(ON LINE) 大学評価研究所「公開研究会」: 大学の質保証の行方を考える 2021年3月15日開催(ON LINE) 大学基準協会
--

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 電気回路 A、B は、全て ON LINE で授業を実施した。個別の質問に対しては、オフィスアワーを ON LINE で行うことにより対応した。また、信号処理基礎論、シミュレーション工学では、コンピュータ室を利用するため対面と ON LINE を組合わせた授業を行った。LMS である Course Power とメールを使うことで、対面で授業をしながら同時に ON LINE でも授業ができるハイブリッド方式の授業もできることが確認できた。	電気回路 A、B の授業評価アンケート結果と昨年度の結果を比べると、予習・復習の時間は多少増えているものの、1 時間前後程度であり必修科目に対しては短すぎると感じます。また、授業内容の理解度も昨年度と比べると低下していることが明らかとなったので、対面式及び ON LINE でのオフィスアワーで積極的に質問を受け付け理解度の向上につなげたいと考えています。
（実験） 情報電子工学実験Ⅰ・Ⅱでは、「電気回路」の実験テーマを担当した。前期は ON LINE での実験となったが、複数の Web カメラを利用して各種の実験装置を組合わせることで教育効果をあまり落とすことなく実験できる環境を構築した。情報電子工学実験Ⅲ・Ⅳでは、「回路素子と電気・電子回路実験」を担当したが、一部の実験テーマにおいて実験教材を学生の自宅に送り ON LINE での実験を行った。	ON LINE での実験に関してメリットとデメリットが明らかとなったので、実験テーマも含めて効果的な ON LINE での実験の準備もしていきたい。また、実験方法などを動画としてまとめ、より効果的な教育ができるように改善していきたい。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究及び関連する実験・演習を通じて、コンピュータシミュレーション技術や 3 次元 CAD を用いた設計開発手法の基礎的事項を教授することができた。また、卒業研究発表会や卒業論文の執筆を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力及び論文作成能力の向上を図ることができた。	研究室配属による少人数教育のメリットを生かし、学生生活全般や将来の希望など学生の状況を個別に把握することができ、学業や就職活動などに関しきめ細かい支援を行うことができた。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	教授	氏名	坂田 隆	就任年度	1989（平成元）年度
----	------------	----	----	----	------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 栄養学、食と感覚の科学、食品機能科学、食糧問題と資源、子どもの食と栄養、卒業研究、食環境学実験Ⅴ、食環境学演習Ⅱほか
2.大学院担当科目 比較栄養生理学特論、比較栄養学得論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 人の尊厳（慶応義塾大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
たべる つくる 石巻 秋・冬版	共著	2020/10	日本家政学会東日本大震災生活研究プロジェクト	阿部司、小川宣子、佐々井真知、久慈るみ子、野田奈津美、坂田隆、増田拓史	全般	なし
沙漠学辞典	単著	2020/07	「沙漠学辞典」丸善出版		326-327	なし
【論文】						
Japanese Diplomatic Policy and Differences in the Handling of Quinine Supply by the Japanese Government during World War II	単著	2021/03	石巻専修大学研究紀要 第32号		1-23	なし
Current situation and perspectives of ready-to-eat food/meal suppliers	共著	2020/11	Nutrition Reviews 78 (suppl. 3)	Sakata T, Akabane T, Akagaki C, Akamatsu R, Hagiwara T, Hayashi N, Han L, Kato H, Kurotani K, Ishikawa-Takata K, Omoto S, Tanaka T, Yokomukai Y	27-30	あり
ILSI Japan 健康な食事研究会 WG2 食の外部位を担う企業、特に中食企業における健康、栄養の意識の実態 2017 年～2019 年活動報告	共著	2020/09	イルシー 第143号	坂田隆、赤垣智佳子、赤羽文明、赤松利恵、小元俊祐、加藤肇、韓力、黒谷佳代、高田和子、田中高、萩原俊彦、林直樹、横山慶子	58-73	なし

エネルギーとたんぱく質の栄養学を再建しよう 健康な食事研究会に参加して考えたこと	単著	2020/09	イルシー 第143号		1-3	
【学会発表】	単独・共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
東日本大震災生活研究プロジェクト活動報告 全体報告	単独	2020/05	日本家政学会第72回大会			
短鎖脂肪酸研究の注意点	単独	2020/05	第74回日本栄養食糧学会大会			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
企画展「越境する仮面文化ーペルシャ・アラビア湾岸地域の女性たち」	東京外国語大学（オンライン）	2020/10/10 14時-15時	講演 暑熱環境下における湾岸女性の服装の知と実践

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
	所属学会、委員等は前年度と同じ。
2021/03/08	講演「くうがたいせつ」コバルトーレジュニア研修会 学内
2021/01/27	講演「東日本大震災における石巻専修大学の大学運営とボランティアへの対応」、和歌山大学（オンライン）
2021/01/23	講演「惣菜、弁当業界の「健康な食事」に関わる取り組み」第17回郡山女子大学食物栄養学科市民フォーラム（オンライン）
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
	就職指導委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） Zoom と CoursePower を併用した双方向授業を開発した。反転学習で、出した課題を発表してもらい、それをもとに議論をするという形式は有効であった。また、毎回の課題の次週までの添削も有効であった。遠隔授業では、教員が画面に顔を出すことが重要であった。	
（実験） グループ実験から個人実験へと変わったので、新しいテーマを急ぎょ開発した。	きちんと指導をすれば、グループ実験でも危険はないと思われる。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 全てオンラインで行った。卒業研究は、3年生の学生実験を活用した実験や自宅でも行える実験を学生と議論しながら開発した。落球法による粘度測定や、ノイズキャンセリングヘッドフォンと Web 上のホワイトノイズを利用した雑音負荷試験など、かなりの精度で実験をすることができ、学生の達成感も高かった。制約こそが新しい研究方法開発の大きな力であった。	
（その他特記すべき事項） 昨年度までに蓄積していた映像資料が利用できたので、非対面授業になってもとくに大きな負担はなかった。見学はリアルで実行できたが、オンラインを活用した見学も十分に可能である。	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部生物科学科	職名	教授	氏名	佐々木 洋	就任年度	1989（平成 1）年度
----	-----------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 海洋学、生態学、極限環境の生物学
2.大学院担当科目 海洋生産生態学特論、海洋生産環境学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Variations in contributions of dead copepods to vertical fluxes of particulate organic carbon in the Beaufort Sea	共著	R2 年 5 月	Marine Ecology Progress Series, 642	M. Sampei, A. Forest, L.Fortier , T.Yamamoto, H. Hattori, <u>H.Sasaki</u>	67-81	有
高温耐性緑藻 <i>Desmodesmus</i> sp.の単離とその成長特性	共著	R3 年 3 月	石巻専修大学研究紀要、32	佐々木洋、石川（石渡） 由紀、臼井利典、野坂裕 一	43-48	無
ナンノクロプシス添加食が高コレステロール食 給餌ラットの血漿コレステロール濃度に及ぼす影 響	共著	印刷中	宮城学院女子大学環境科学研究所研究報告	後藤知子、川島英里子、 佐々木洋		有
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
令和2年4月	理工学部長	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 新しくオンライン授業を取り入れ、対面授業と両方を可能にした。	必要に応じてオンライン、対面授業を実施することは今後の授業の進め方の幅が広がる。
（実験） オンライン形式の実験を試みた。	オンラインでの実験は難しく、問題点が多い。
（ゼミナール・卒業研究・演習） セミナーや演習において、新しくオンライン授業を取り入れた。	少人数の場合には、オンラインセミナー、演習は有効である。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	教授	氏名	柴田 清孝	就任年度	1992(平成 4)年度
----	------------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 分子生物学、遺伝子工学、サプリメント論、
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2021 年 4 月～2022 年 3 月	遺伝子組換え実験安全主任者	
2021 年 4 月～2022 年 3 月	1 年生クラス担任	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 遺伝子工学、分子生物学：ZOOM によるリモート授業によって講義をおこなった。毎回の小テスト、レポートによって講義内容の理解を深めた。 サボリメント論：対面授業および、レポートによる授業振り替えにより講義をおこなった。2 回に 1 度の小テスト、レポートによって講義内容の理解を深めた。	概ね良好であった。
（実験） 化学実験：タンパク質の定量 食環境学実験Ⅰ：遺伝子工学実験 食品分析演習（3 年生）：対面による実験講義をおこなった。	概ね目標は達成できた。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 就職活動が難航したが、並行して卒業研究をおこなうことができた。	概ね目標は達成できた。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	教授	氏名	島田 了八	就任年度	1989(平成元)年度
----	------------	----	----	----	-------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 熱力学、熱力学Ⅰ、熱力学Ⅱ、伝熱論、応用熱工学、冷凍および空気調和、機械工学実験Ⅴ、機械工学演習Ⅱ、卒業研究、（他実験演習分担）
2.大学院担当科目 熱制御工学特論、伝熱促進工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 非対面授業用に 4 科目 15 回分の資料（パワーポイント等）を新たに作成した。	2020 年	文字の大きさ、図の大きさに注意を払った。留学生用にふりがなを振った。ファイルをコースパワー上に掲載するほかに印刷したものを事前に郵送した。（在学生のみ）

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
渦発生体による狭いダクト内に置かれた突起上の 対流熱伝達促進	共	2021/03	石巻専修大学紀要 第32号	島田了八、木村光平、 高橋智	5	無
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2016(平成28)年4月～2021(令和3)年3月	入学試験委員長	
2019(平成31)年4月～2021(令和3)年3月	大学院委員会委員	
	上記充て職	
	1, 2年生クラス担任	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 非対面授業ではパワーポイントなどによる資料（留学生向けふりがな付き）を事前に送付し、予習復習をし易くした。画面上では必要に応じて描画したり、注意を喚起した。毎回の課題提出により理解度を確かめた。 授業評価も良くなり、成績も向上した。	講義内容を総合的に俯瞰した例題などを用いて応用力を高めていく。
（実験） 学生の主体性を重視しながら監視し、実験データを取る上での注意、データの整理法、まとめかた、レポートの書き方まで丁寧に指導している。学生実験開始前の準備は、時間をかけて安全を確認しながら理解のしやすさに配慮しながら行っている。非対面の実験も行ったが、詳しい資料を事前配布したためレポートの質が上がった。	改善するためには、実験装置のトラブルが多々発生するようになってきたので装置の更新が必要である。教員が応急処置をしたり、測定項目を変更したりしながら対応してきたが、対応が難しくなっている。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究は、各人の個性や主体性を重視しながら、危険なことがないように立ち会い、助言を常に行っている。結果よりも過程を重視している。	高度な機能と精度を持つ実験装置の製作に本学工作センターが人的問題で機能できなくなっているため、実験系の研究を諦めシミュレーションなど研究の仕方を変更していく。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	教授	氏名	高崎 みつる	就任年度	1989（平成元）年度
----	------------	----	----	----	--------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 水質環境工学、淡水資源学、水質浄化工学
2.大学院担当科目 水質環境工学得論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 講義のベース水の物理現象（流れ特性理解）に伴う水質変化を学ぶ。 理論と現実の経験を経て水質環境の理解を進める	講義開始 ～終了	水の諸物理現象の理解から生物生息条件への繋がりを説明。学内のワンド化した遊水池の微生物から小動物の捕食―被食関係を、時間軸への水質変化と、ワンドの水流れの特殊性を念頭に理解を進める
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項無し		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項無し		
4.その他教育活動上特記すべき事項 体験学習の導入 講義で伝えた物理現象を含むフィールド経験を通し水質と生物の相互関係を（目と手と顕微鏡）感じ学ぶこと	2021 年 6/19	水質を決める要素の中で水の運動の理解は、大河川河口に近い感潮域に接続するワンド生態系形成に必要。その現状の理解とワンド生態系理解と遷移の方向を現状から考察する

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項無し			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項無し						
【論文】						
Stratification of Sulfur Species and Microbial Community in Launched Marine Sediment by an Improved Sulfur-Fractionation Method and 16- rRNA Gene Sequencing.	共	34 巻 (2019) 2 号	Microbes and Environments			
【その他】（報告書など）						
特記事項無し						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項無し						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項無し			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項無し	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項無し	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
令和2年4月～	共創研究センター委員会 委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項無し

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 基礎学力向上を体験的に覚えることを目指し、土曜集中で学内遊水池を利用した水質調査と顕微鏡観察を行った	今後より質の高い、学生にプラスとなる講義を調査を織り交ぜて進めたい。
（実験） 従前の分析中心から、スクーリングと通し沿岸水域の生態系を健全な魚介類生産へ繋がる内容へと変更し、小研究の方向性で進めた	実験時間の短縮
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項無し	
（その他特記すべき事項） 特記事項無し	

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	教授	氏名	玉置 仁	就任年度	2003（平成15）年度
----	------------	----	----	----	------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 食環境特別科目Ⅰ(分担), 環境調査法, 生物環境工学, 生物環境統計学, 食環境学実習Ⅰ(分担), 水環境実習(分担), 化学実験(分担), 食環境学実験Ⅰ, Ⅱ(分担), 食環境学演習Ⅰ, Ⅱ(分担), 食環境学実験Ⅲ, 食環境学演習Ⅲ, 卒業研究, 自然環境論(分担)
2.大学院担当科目 沿岸生態工学特論, 生命科学特別研修Ⅰ・Ⅱ, 生命科学特別演習・実験Ⅰ・Ⅱ, 生態工学特論, 環境・生態学セミナー, 生命環境科学博士特別演習・実験
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。)

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む）		
2.作成した教科書、教材、参考書		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4.その他教育活動上特記すべき事項		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
大規模災害の水環境への影響	共著	印刷中	水環境の事典(第Ⅲ部2-4), 朝倉書店	玉置仁(本人), 村岡大祐, 田中周平	348~351	無
【論文】						
【その他】(報告書など)						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
地形変化が見られた人工干潟の底生生物の増加に及ぼす流動環境の影響	共同	2020(令和2)年9月	第23回 日本水環境学会シンポジウム	高橋直也, 玉置仁, 小瀬知洋, 坂巻隆史		
海水流動のある場所に造成された干潟における生態系の発達過程に関する研究	共同	2021(令和3)年3月	第55回 日本水環境学会年会	高橋直也, 玉置仁, 小瀬知洋, 坂巻隆史		
宮城県波津々浦湾および干潟における沈降物の堆積挙動	共同	2021(令和3)年3月	第55回 日本水環境学会年会	澁谷直人, 小瀬知洋, 坂巻隆史, 玉置仁		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2009(平成 21)年 4 月～継続中	(公社)日本水環境学会東北支部幹事
2012(平成 24)年 4 月～継続中	環境省 生態系監視調査 アマモ場調査グループ 万石浦サイト・松島湾サイト代表者
2019(平成 31)年 4 月～継続中	国土交通省東北地方整備局宮城ブロック総合評価委員会委員
2020(令和 2)年 4 月～継続中	宮城県環境審議会水循環保全基本計画(第 2 期)策定専門委員
2020 年 8 月～継続中	北上川・名取川流域水循環計画策定検討委員会委員
【その他研究活動上特記すべき事項】	
アウトリーチ:宮城県漁業協同組合石巻湾支所と石巻地区支所の水産多面的機能発揮対策事業に有識者として参加	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017(平成 29)年 4 月～	入学試験委員会委員	
2019(平成 31)年 4 月～	石巻専修大学大学院理工学研究科生命科学専攻主任	
2019 年(令和元年)11 月 1 日～	石巻専修大学理工学部学科改組等にかかわる設置検討委員会 作業部会	

VI その他特記すべき事項

--

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 図書館を活用した文献検索	
（実験） 図書館を活用した文献検索，体験することを重視した実験の展開	
（ゼミナール・卒業研究・演習）	
（その他特記すべき事項）	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	教授	氏名	中込 真二	就任年度	1989（平成元）年度
----	--------------	----	----	----	-------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 フレッシュマンセミナー、電子回路、電気・電子回路応用、集積回路工学、センサ工学、情報電子工学実験Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ、情報電子工学演習、卒業研究
2.大学院担当科目 集積回路工学特論、機能デバイス工学特論、電子機能素子工学特論、半導体機能デバイス工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Crystal Orientation of Cubic NiO Thin Films Formed on Monoclinic β -Ga ₂ O ₃ Substrates	共著	2020 年（令和 2 年）5 月	Wiley, Physica Status Solidi B, 257,	<u>Shinji Nakagomi</u> （本人）, Takashi Yasuda, Yoshihiro Kokubun	1900669	有
Electrical Conductivity Studies in Sol-Gel Derived Li-Doped NiO Epitaxial Thin Films	共著	2020 年（令和 2 年）12 月	Wiley, Physica Status Solidi B, 257,	Yoshihiro Kokubun, <u>Shinji Nakagomi</u> （本人）	202000330	有
【その他】（報告書など）						
ゾル・ゲルディップ法による NiO のエピタキシャル成長	共著	2021 年（令和 3 年）3 月	石巻専修大学 研究紀要、第 32 号	安田隆, <u>中込真二</u> （本人）	pp 55-59	無
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
Ga ₂ O ₃ 基板上への NiGa ₂ O ₄ 薄膜の形成	共著	2021 年（令和 3 年）3 月 18 日	第 68 回応用物理学会春季学術講演会、講演要旨集、18p-Z33-13	<u>中込真二</u> （本人）, 國分義弘		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
1999（平成 11）年度～継続中	電気化学会 化学センサ研究会委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2019（令和元）年 4 月～継続中	理工学研究科長	専攻主任会議の設置、推薦基準の見直しの申し合わせ改定
2014（平成 26）年 4 月～継続中	研究助成審査委員会 委員長	

VI その他特記すべき事項

(1) 科学研究費補助金「全て酸化物からなる新規ワイドバンドギャップヘテロ pn 接合作製のための基盤技術開発」2017 年 4 月～2021 年 3 月。（1 年延長）
(2) 令和 2 年度 I S U 研究助成「酸化ニッケルの成膜方法に関する研究」の実施。
(3) 大学基準協会 自己点検評価報告書 執筆担当（大学院関連、教育研究等環境、社会連携・社会貢献）、及び、実地調査への対応。

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 新型コロナ感染予防のために前期授業は最後の数回（試験を含む）を除き、Z o o mを使いパワーポイントによる説明、チャットによる質問回答、画面共有を使って回答させる、など新たな試みを導入した。準備の労力はたいへんであったが、概ね好評であった。少なくとも文字や絵が見やすいというのはあっただろう。	授業用のパワーポイントを修正改善し、通常の対面授業でも使用することを予定している。黒板での説明と併用することでより分かりやすくなることを期待している。
（実験） 3 年生の実験では必要なものを学生に送っておいて、実験の時間にはリモートで相談に応じるという形式をとった。しかし、こちらから進捗状況が見えていないことで、最後になってあまり進んでいなかった学生もいたりした。2 年生の前期の化学実験では実験をライブ配信しながら、学生に測定器の計測をさせる工夫をして、実際にやっているかのような体験をさせた。	通常の対面授業（実験）で行う場合は大きな変化はないが、再びオンラインでの実験となった場合には、進捗を頻繁に確認することをしていきたい。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 大学で学生に実際にやらせることが前期はできず、想定していた進捗は得られなかった。後期に学生が来られるようになってからも、多数の授業がある学生に関しては、あまり進めなかった。データを送って整理させることは行ったが、意思疎通が十分できない面がある。	4 年生でも多数の授業を履修しなければならない学生に対して、どのように卒業研究を進めていくべきか難しいところもある。できるだけ時間のかかる部分を自分がやり、学生には短時間でできる内容や自宅などでもできる内容をやらせることで対応していくつもりである。
（その他特記すべき事項） なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	教授	氏名	根本 智行	就任年度	1999（平成 11）年度
----	------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 多様性生物学、植物系統分類学、保全生物学、フレッシュマンセミナー、バイオサイエンスコミュニケーションⅡ、自然環境論、生物科学実習Ⅰ、生物科学実習ⅡA、植物学実習、生物学実験、生物科学実験Ⅰ、生物科学実験Ⅱ、生物科学実験Ⅲ、生物科学演習Ⅰ、生物科学演習Ⅱ、卒業研究
2.大学院担当科目 系統分類学特論、系統進化学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 生物学実験Ⅱ（宮城教育大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Phylogenetic analyses for a new classification of the <i>Desmodium</i> group of Leguminosae tribe Desmodieae 4. <i>Desmodium</i> and <i>Oxytes</i> in Oceania.	共著	2020 (令和2) 年 10 月	The Journal of Japanese Botany 95(5)	Kazuaki Ohashi, Hiroyoshi Ohashi, <u>Tomoyuki Nemoto</u> and Koji Nata	259-272	有
Phylogenetic analyses for a new classification of the <i>Desmodium</i> group of Leguminosae tribe Desmodieae 5. Last <i>Desmodium</i> native to Asia and Australia.	共著	2021 (令和3) 年 2 月	The Journal of Japanese Botany 96(1)	Kazuaki Ohashi, Hiroyoshi Ohashi, <u>Tomoyuki Nemoto</u> and Koji Nata	1-18	有
【その他】 (報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動 (芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2007(平成 19)年度～継続中	植物研究雑誌編集委員
2007(平成 19)年度～継続中	石巻市環境審議会委員（委員長：2020(令和 2)年 7 月 1 日～）
2011(平成 23)年度～継続中	河川水辺の国勢調査アドバイザー
2020(平成 2)年度～	鳴瀬川総合開発環境検討委員会委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2013(平成 25)年 4 月～2020(令和 3)年 3 月	自己点検・評価運営委員	
2019(平成 31)年 4 月～	理工学部教務委員会委員長	
2019(平成 31)年 4 月～	全学教務委員会教務委員	
2019(平成 31)年 4 月～	個人情報保護運営会議委員	
2020(令和 2)年 4 月～	共創研究センター長	
2020(令和 2)年 4 月～	石巻地域連携協力推進会議委員	
2020(令和 2)年 4 月～	石巻専修大学における公的研究費の運営・管理に関わる部局責任者	
2020(令和 2)年 4 月～	研究活動等コンプライアンス委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） Zoom によるオンライン授業を実施した。授業はパワーポイントを使用し、学生には、毎回、スライドの大部分について PDF ファイルとして配布した。授業開始時にその日のポイントを明示し、終了直前にはポイントのまとめを行っている。スライドには重要度（＝復習時のポイント）を示すマークをつけた。また事後学習のために、毎回、練習問題や章末問題を提示した。さらに、Microsoft Forms を用い、事後学習としての課題小テストを実施した他に、3 回のまとめ試験をオンライン授業中に実施した。	配布資料、パワーポイントの見やすさについては、学生の評価は比較的高く、取り組みの成果は上がっていると考ええる。ただし、オンライン授業では資料のページ数がどうしても多くなり、印刷しようとする費用がかさみ、学生の負担増につながった可能性がある。対面授業になれば、これまでと同様に授業資料は印刷して配布する予定である。 説明やパワーポイントのスライドの切り替えが早すぎるという指摘もあるため、時間配分を見直し、ゆとりをもった授業設計を心がける必要がある。
（実験） 今年度は、前半は Zoom によるオンライン＋オンデマンドによる実験を実施した。観察・スケッチを基本とした実験のため、観察材料となる植物を事前に写真撮影し、画像データシートを準備した。オンラインで説明したほか、テキストあるいは配布資料で、読めばわかるように実験手順をわかりやすく提示するよう心がけた。 なお、後期の 2 年次生物学実験は対面による実験が可能になったため、昨年度に引き続き試行的にループリックを提示して評価の視点を周知した。	オンライン＋オンデマンド実験ではあったが、レポートの内容を見ると、当初の目的はある程度達成できたと思われる。 レポートの内容については、改善点を整理して、実験時間中に、「見せるレポート」作りのためのコツを指導する必要がある。ループリックの導入により、評価の視点を周知したものの、レポートの質の向上にはさらに工夫が必要である。 昨年同様の反省であるが、ループリックによる評価は行ったものの、学生へのフィードバックを行うまでには至らなかった。ループリックの内容も、さらに簡潔で見やすいものに修正する必要がある。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 4 年生には、各自が独立して研究する状況を意図的に設定し、個別の研究テーマを与えている。今年度前半は Microsoft Teams を用いたオンラインでの演習（研究室セミナー）を行い、適切なパワーポイントファイルを作成することを目標に指導した。後期からは、対面による実験・観察方法の指導と、最終口頭発表の指導、未開催に終わったがポスター発表会に向けたポスター作成の指導も行った。	最終口頭発表では、学生は原稿に頼らず、しっかり口頭発表を行うことができた。また、研究成果のダイジェスト版であるポスター作成にまで到達することができた。廊下に展示されたポスターをみている学生の表情から、指導には一定の成果が得られたものと評価している。
（その他特記すべき事項） 2017(平成 29)年度から継続して「生物分類技能検定」の受験指導を正課外授業として実施した。試験直前に、過去の問題を使用して模擬試験を 1 回実施した。また、試験で必須の植物のスケッチ描画の指導を行った。試験の結果、3 級は 8 名中 3 名、4 級は 2 名中 1 名が合格した。	昨年度に比べ受験者数が減少したが、少数でも生物の分類技能に興味・関心をもつ学生がいることがわかるので、この検定の受験を勧めることは有意義と考える。しかし、卒業後の進路に役立てるためには、在学中に 2 級合格を目指すことが重要である。1 年次から 2 級合格を目指し、計画的に自主的な努力をするよう指導していきたい。

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	教授	氏名	福島 美智子	就任年度	1989（平成 1）年度
----	------------	----	----	----	--------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 化学、理工化学、分析化学、食品分析化学、環境放射能測定学（2020(令和 2)年度は非開講）、化学実験、食環境学実験 I、食環境学実験 II、食環境学実験 III、食品分析実習、食環境学演習 I、食環境学演習 II、食環境学演習 III、卒業研究、フレッシュマンセミナー、食環境特別科目 I
2.大学院担当科目 有機材料化学特論、環境物質化学特論、物質工学特別研修 I、物質工学特別研修 II、物質工学特別演習・実験 I、物質工学特別演習・実験 II、資源環境化学特論、機能性物質設計工学セミナー、物質機能工学博士特別演習・実験
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
Multi-element neutron activation analysis of selected Japanese food samples by neutron activation analysis	共	2020.9	KURRI Progress Report 2019	M. Fukushima, T. Maeda, Y. Iinuma	285	無し
国内の食材に含まれる微量元素の多元素分析および消化可能な濃度の評価	単	2021.3	石巻専修大学研究紀要第 32 号		25-29	無し
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020(令和2)年4月1日～	京都大学原子炉実験所共同利用研究委員会委員
2020(令和2)年4月1日～	日本分析化学会東北支部幹事
2020(令和2)年4月1日～	山形県廃棄物処理施設審査委員会委員
2020(令和2)年4月1日～	宮城県廃棄物処理施設専門委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020(令和2)年4月1日～	放射線取扱主任者	
2020(令和2)年4月1日～	放射線障害予防委員会委員長	
2020(令和2)年4月1日～	核燃料物質等管理運営委員会委員	

VI その他特記すべき事項

石巻専修大学共創研究センタープロジェクト事業により、本学から20 kmほど離れている女川原子力発電所に起因する原子力災害が発生した場合の避難計画をわかりやすく説明した冊子体を、本学教職員および学生用、また石巻市民用に作成した。

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 「化学」や「フレッシュマンセミナー」のような1年生を対象にする科目に関しては、基礎学力が不足している学生にも理解できるように、非常に基本的な内容から、演習問題を取り入れながら講義や教育を行った。また、「フレッシュマンセミナー」ではリモートであったが、溶液や粉末の秤取り方のような具体的な実験操作を見せながら、濃度計算の必然性を説明して理解してもらえた。	実行している教育内容で十分に成果をあげているので、改善点は特にない。
（実験） 安全に実験を行うための心がけを学生に理解させるように努めつつ、実施している実験内容を理解しやすいよう工夫した。	実行している教育内容で十分に成果をあげているので、改善点は特にない。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 学生が自分の力で理解して、得られた結果に対して考察できるようなテーマの卒業研究の指導を行った。また、社会人になってからプレゼンテーション能力は大切であると思われるため、より良いプレゼンテーションを準備できるように指導し、口頭での発表方法についても十分な指導を行った。さらに、3年生の演習に関しては、4年生の卒業研究の途中経過を何度か聞かせることで、1年後の卒業研究の導入教育を行った。また、4年生になった時の就職活動の準備のため、入社試験で実施されるSPI試験への準備の指導、スケジュール管理の仕方など、考え方に対する指導なども行った。	実行している教育内容で十分に成果をあげているので、改善点は特にない。
（その他特記すべき事項）	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	教授	氏名	本田 秀樹	就任年度	2018(平成 31)年度
----	--------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目
電磁気学、電子計測の基礎、自動車制御工学、パワーエレクトロニクス、フレッシュマンセミナー、物理学実験、情報電子工学実験Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、情報電子工学演習、卒業研究
2.大学院担当科目
シミュレーション情報学特論、機構デバイス学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。)
特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 ・ 高大連携授業	2020 年 11 月 4 日	専大北上高校にて「停電に強い電力システムの作り方」

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
落雷頻度データを用いた配電線雷事故評価に関する一検討	共同	2019年9月	電気学会 電力エネルギー部門大会	本田秀樹、佐藤智之、小柳遼平		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020年6月4日 ～ 継続中	電気学会 高電圧技術委員会 1号委員
2019年12月1日 ～ 継続中	電気学会 高圧配電線の雷リスクマネジメント手法の構築に向けた課題調査専門委員会
2020年11月25日	東北地域電力研究交流会
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020 年 4 月～2021 年 3 月	就職指導委員会	

VI その他特記すべき事項

東北電力受託研究 「東北地域における合理的な雷害対策に関する研究」 期間 2020 年 10 月 1 日～2021 年 2 月 26 日
--

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業）担当している全ての講義を、パワーポイントを活用したスライド方式で実施した。スライドの文字を大きくし、見やすい図の作成を心掛けた。 自身の研究分野に関わる内容として、電磁気学では雷、パワーエレクトロニクスでは電力系統に関わる内容を紹介した。	前期は非対面授業であったため、試験を公正に実施することの難しさを感じた。
（実験） 前期は非対面授業で実施できるよう、学生宅に実験キットを配布し、内容を吟味した。	非対面の実験は一見理解しているように思えたが、提出されたレポートより、対面に比べると理解度は低いと認識した。
（ゼミナール・卒業研究・演習） プログラミングによる解析と実験をバランスよく組み合わせた内容とした。	前期は非対面授業が続き、プログラム演習の進展が遅れた。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	教授	氏名	前田 敏輝	就任年度	1990（平成2）年度
----	------------	----	----	----	-------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 フレッシュマンセミナー、食環境特別科目Ⅰ、物理学、運動と波動、食品レオロジー、水環境の物理学、化学実験、食環境学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、食品工学実習、食環境学実験Ⅰ・Ⅱ、卒業研究
2.大学院担当科目 修士課程 応用光学特論、光物性学特論、応用物性学特論Ⅰ、博士課程 物質光工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
原子力災害時における石巻市広域避難計画の手引き（大学構成員編、石巻市民編）	共著	2021（令和3）3月	共創研究センタープロジェクト事業、「原子力災害時における避難計画の教育と危機管理教育」教材冊子	福島美智子、 <u>前田敏輝</u> 、 山崎達也	p. 1－24	無
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020 (令和 2) 年 10 月 14 日	高大連携事業 専修大学北上高等学校総合科目講師「食品の科学の中の物理学」
2020 (令和 2) 年 10 月 28 日	石巻市立桜ヶ丘高等学校体験授業講師「マヨネーズと水あめ、どちらが固い？」
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018 (平成 30) 年 4 月～継続中	食環境学科主任	
2018 (平成 30) 年 4 月～継続中	理工学部教務委員会委員	
2018 (平成 30) 年 4 月～継続中	理工学部教員資格審査委員会委員	
2012 (平成 24) 年 4 月～継続中	放射線障害予防委員会委員	
2020 (令和 2) 年 4 月～2021 (令和 3) 年 3 月	物質機能工学専攻主任	
2014(平成 26) 年 4 月～継続中	放射線取扱主任代理者	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 2020（令和2）年度の担当講義はすべて非対面形式で行った。Zoomでの授業を基本としたが、スライドでのプレゼンを主体とする授業と、ノートアプリによる板書形式授業とを使い分けた。 今年度も「大福帳.js」というWebアプリケーション（交換日記型の双方向コミュニケーションツール）を、授業中のクイズや授業後のミニッツペーパーに活用した。学生への「返信」を丁寧に書くことで、学生からの書き込み量も次第に増え、授業中の疑問点などを率直に述べてくれるようになった。	Zoomを用いたオンライン授業は、受講生一人一人に語りかけるようなスタイルが奏功してか、毎回の授業後の感想では「理解できた」「分かりやすかった」とのコメントが多かった。しかし、試験の結果からみる理解度は昨年度までに比べて低くなった。オンライン授業は「わかった気」にさせるが、本当に理解できているかは丁寧な確認が必要である。従来以上に、簡単な演習を多く取り入れて、その都度理解の定着を図る必要がある。
（実験） 実験テーマ「放射線の計測」において、コロナ対策として、実際に機器を操作しデータを測定する「実験」の部分を可能な限り削減し、それにかえて、エクセルやRなどの統計ツールを用いたデータの解析を充実させた。データの解析においては、グループワークを通じて相互に教えあえるような環境づくりをおこなった。	実験の中から実際に手を動かす時間が減ったことは大きな問題である。指示通りにデータ解析やレポート執筆ができたとしても、実験で行った操作や取得したデータそのものの意味について実感を伴って理解する機会も減ってしまっていると感じる。作業の代わりに模擬体験を取り入れるなど、コロナ対応を万全にしながら教育効果を高めるための工夫や教材開発が必要である。
（ゼミナール・卒業研究・演習） コロナ対応のため、学生が在宅で卒業研究を進められるよう、テーマと研究の手順を工夫した。チャットソフトSlackとオンライン会議ソフトZoomを用いて、むしろ大学に来ているときよりも高頻度で、自宅にいる学生とのあいだで打合せが可能となった。また実験データや文書のやり取りも簡単になり、学生指導が効率的に行えた。卒業研究と就職活動の両立をめざす学生には有効であった。	Slack、Zoomの利用により、教員からの指示、学生からの質問などが、リアルタイムで気軽に行える。しかし、学生にとってこうしたオンラインのやりとりは日常会話のように感じるためか、質疑応答に緊張感が損なわれるのが難点だと感じた。メリハリのある活用方法を工夫する必要がある。
（その他特記すべき事項） 専修大学北上高等学校の生徒を対象に高大連携事業「総合科目」の授業を実施した。 石巻市立桜ヶ丘高等学校の生徒を対象に模擬授業を実施した。	演示実験を取り入れた授業を行った。例年は一部の演示実験で生徒たちにも加わってもらったが、コロナ対策観点から今年度は割愛し、事前に作成したムービーを見てもらった。今後は、コロナ対策に配慮した演示実験の方法やデモ用教材の開発を行いたい。

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	理工学部 生物科学学科	職名	教授	氏名	松谷 武成	就任年度	2003（平成15）年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 海洋動物発生学、無脊椎動物学、海洋動物発生学、卒業研究、生物科学実験Ⅱ・Ⅲ、生物科学演習Ⅱ・Ⅲ、生物科学実習Ⅱ、フレッシュマンセミナー
2.大学院担当科目 海洋生物増殖学特論、無脊椎動物生理学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項無し		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項無し		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項無し		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項無し		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項無し			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項無し						
【論文】						
特記事項無し						
【その他】（報告書など）						
特記事項無し						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項無し						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項無し			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020 年（令和 2 年）10 月 15 日	石巻市水産物地方卸売市場運営協議会（会長）
2021 年（令和 3 年）1 月 22 日	石巻赤十字看護専門学校入学試験（問題作成、採点）
2021 年（令和 3 年）2 月 5 日	宮城県水産高校－発表会および評議員会（評議員）
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項無し	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020 年（令和 2 年）4 月 1 日～	2020 年度（令和 2 年度）学生部長	

VI その他特記すべき事項

特記事項無し

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 知識を得るだけでなく、その知識を体系的に理解し整理できることを目指している。	講義で与える知識の必要最小限は何かを常に検討する
（実験） 実験の意味を理解したうえで、実験結果を解析して評価できる実験を行わせる。	実験計画も作成指導できることが望ましいと考えている
（ゼミナール・卒業研究・演習） 解決すべき問題を的確に捉え、そのために何が必要かを考えることができるように指導	特記事項無し
（その他特記すべき事項） 特記事項無し	特記事項無し

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	教授	氏名	水野 純	就任年度	2016（平成 28）年度
----	------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 工作実習 I、工作実習 II、制御工学 I、制御工学 II、精密加工学、メカトロニクス、ロボット工学、国際体験研修、機械工学実験 V、機械工学演習 II、卒業研究
2.大学院担当科目 メカトロニクス工学特論、高機能機械要素学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020 年（令和 2 年）9 月 30 日	指導しているロボット研究会を第 11 回国際イノベーションコンテスト（iCAN'20）国内予選大会に出場し、優勝した。
2020 年（令和 2 年）10 月 29 日	指導しているロボット研究会を第 11 回国際イノベーションコンテスト（iCAN'20）国際大会に出場し、Second Prize を受賞した。
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017（平成 29）年度～2020（令和 2）年度	国際交流センター長	2021（令和 3）年度より再任
2018（平成 30）年度～2020（令和 2）年度	外国人留学生担任	2021（令和 3）年度より再任
2013（平成 25）年度～2020(令和 2)年度	学生部委員	

VI その他特記すべき事項

特になし。

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）非対面授業の中で液晶ペンタブレット使用は大変好評であった。液晶画面に特殊なペーパーライクフィルムを張り付けることにより紙に鉛筆で描いたような描き心地を実現する。従って、黒板やホワイトボードに板書するより文字も綺麗に書けることが可能であり、学生たちからは対面授業形態に戻ったときもペンタブレットによる板書をプロジェクターのスクリーンに投影してほしいという意見が多かった。	授業アンケートでは、高い評価が得られたので、次年度も引き続き同内容で取り組んでいく。
（実験）令和1年度の活動報告書と同様に、機械工学実験Ⅲ・Ⅳでは、単軸ロボットの制御実験と垂直多関節型ロボットの制御実験をそれぞれ担当している。これらの内容に関連する制御工学・メカトロニクス・ロボット工学の科目も担当しており、授業内容を実験Ⅲ・Ⅳに反映しており、ロボットを自ら制御することによって機械制御における仕組みの理解が深まったことが実験レポートから確認できた。また、授業科目と実験科目の内容を直接関連づけることによって授業内容の理解も深まった結果となった。	授業内容の理解が深まった結果となった。幸い、対面式で実施できたが、今後社会情勢が厳しくなり、非対面に切り替わる可能性も十分あることから非対面にも対応できるよう準備が必要となる。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 【ゼミナール】該当しない。 【卒業研究】学生が卒業研究で挙げた成果をまとめ、卒業研究発表を行った。聴講者に十分内容が伝わったことと質問に的確に答えられたことは、研究指導が適確であったと考える。 【機械工学演習Ⅱ】授業内容としては、卒業研究テーマに関連した外国語論文を与え、指導教員の下で論文内容を取りまとめ発表会で口頭発表する内容である（シラバスより）。令和1年度の活動報告書と同様に、パワーポイントによって内容をまとめ発表を行った結果、上記の卒業研究について述べたように、聴講者に十分内容が伝わったことと質問に的確に答えられたことは、指導が適確であったと考える。	研究指導が適確であったと考える。幸い、対面式で実施できた期間もあったが、今後社会情勢が厳しくなり、非対面に切り替わる可能性も十分あることから長期間にわたる非対面指導にも対応できるよう準備が必要となる。
（その他特記すべき事項） 特になし。	

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	教授	氏名	宮 寄 厚	就任年度	2006(平成18)年度
----	------------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 微生物学、植物生理学、菌類学、生物学実験(前期・後期)、生物科学実験Ⅱ、生物科学実験Ⅲ、生物科学実習Ⅰ、生物科学実習ⅡA、植物学実習、生物科学演習Ⅰ、生物科学演習Ⅱ、バイオサイエンスコミュニケーションⅡ、バイオサイエンスコミュニケーションⅢ(旧カリ)／生物科学演習Ⅱ(新カリ)、生物科学演習Ⅲ、特別科目Ⅳ、卒業研究
2.大学院担当科目 微生物生理学特論、発生生理学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
フィコミセス・ニテンス	単著	2020（令和 2）年8月	日本菌類百景 第68項（八坂書房）	日本菌学会編	77	無
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2019(令和元)年4月1日～継続中	日本菌学会東北支部会事務局代表
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020(令和2)年4月1日～	理工学部生物科学科主任	4年目
2020(令和2)年4月1日～	主任教授協議会委員	
2020(令和2)年4月1日～	資格審査委員会委員	
2020(令和2)年4月1日～	保育士・教員養成センター委員	
2020(令和2)年4月1日～	教務委員会委員	
2020(令和2)年4月1日～	留学生支援教員	生物科学科1年次3名

VI その他特記すべき事項

入試問題チェック者、オープンキャンパス学科紹介（動画版）、推薦入試等面接担当（2回）、学生の進路に関する面談（含休・退学面談8件）、キャリア設計サポート教員（後期15回、3年目）、学科改組ワーキンググループオブザーバーのちコース世話人、生物科学科新任人事責任担当

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 学科固有科目として微生物学（2 年次前期）、植物生理学（2 年次後期）、菌類学（3 年次後期）を担当し、第 1 回授業時にシラバスについて丁寧に解説（前期はコロナ禍で Zoom による非対面）した。教科書は用いず、その科目に必要なと思われる領域を選択した内容で Zoom による解説（微生物学）、またはパワーポイント資料（植物生理学と菌類学）を作成してプリント配布および学習支援システム CoursePower に資料をアップした。資料内容は見直し毎年改良している。学習状況をチェックする目的で毎回出席を確認した（前期は Zoom アクセスログを使用し、後期は時短効率化・正確さを図るため、授業用教員アドレスへ必要事項を送信する方法）。	資料の学習支援システムへの事前アップは、学習効果が期待されることから、数日の余裕をもったアップを心がけたい。試験答案是返却して状況を概説することで授業のフィードバックを実践しており、この作業は継続する。次年度も本試験不合格者に対しては再試験を実施して対応する。
（実験） 生物学実験（2 年次前期・後期）、生物科学実験 II（3 年次後期）を担当している。テキストの工夫として、スムーズな作業の進行を図るため手順確認チェック欄を付けてある。補足する内容をプリントで配布して解説することで、実験への理解度やレポート作成を支援した。実験中は常に学生の質問に対応し、操作に気を配るよう心がけた。	全てのレポートを添削・コメント付けして返却することで、授業のフィードバックを実践しており、この作業は継続する。今年度はループリックの導入によるより客観的な評価を実践できなかったもので、次年度には導入実践を図りたい。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究の内容は、学生と十分に話し合った上で決定した。卒業研究の経過内容を発表する演習は毎週定期的に開催し、進捗状況をチェックして必要事項を指導した。発表会の近くでは、定時外にも十分な時間をとって対応した。口頭発表・ポスター発表（今年度は中止）に加え、卒業論文の提出を課すことで、種々の発表形式に対応できるよう指導した。	卒研究生 4 名のうち 2 名は、精神的不安定性（1 名は就職活動の不調によるダメージ）が強く現れたため退学（1 名は休学退学）となり、学生対応の難しさを痛感した。今度同様事態には、保護者および保健室を介したカウンセリングへの適切なタイミングを図りたい。次年度も、学生の興味に加え、就活・生活リズムに合わせた卒研テーマの選定を行なっていきたい。
（その他特記すべき事項） 主任（4 年目）として、コロナ禍、ガイダンスに始まり、履修・メンタル相談の対応、進路に関わる面談（8 回）、オープンキャンパスでの学科紹介（今年度は動画撮影）、学科会の調整・実施（不定期 5 回）等に尽力した。ポータルから学習支援メールを配信した（130 通）。留学生支援教員として活動した。	次年度も主任（5 年目）を継続することから、他教員との役割分担および R4 年度からの新生物科学科を考えた適切な学科会運営を進めたい。広報活動が重要となることから、ホームページからの発信力を強化していきたい。

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	教授	氏名	安田 隆	就任年度	1998(平成 10)年度
----	--------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 電磁気学ⅠA，電磁気学ⅠB，電磁気学Ⅱ，半導体デバイス工学，フレッシュマンセミナー，情報電子工学実験Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ，情報電子工学演習，卒業研究
2.大学院担当科目 光情報デバイス工学特論，光半導体デバイス工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 高校生向け授業	2020(R2) 年 7 月 8 日	宮城県石巻好文館高等学校にて、「情報技術を支える半導体デバイス」というタイトルで授業を実施。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Crystal Orientation of Cubic NiO Thin Films Formed on Monoclinic β -Ga ₂ O ₃ Substrates	共著	2020 (R2) 年 5 月	Physica status solidi (b) 257 (2020) 1900669.	Shinji Nakagomi, Takashi Yasuda, Yoshihiro Kokubun	1900669	有り
ゾル・ゲルディップ法による NiO のエピタキシャル成長	共著	2021(R3) 年 3 月	石巻専修大学研究紀要第 32 号		pp55-59	無し
【その他】 (報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
ゾル・ゲルディップ法による Co 添加 NiO のエピタキシャル成長	共同	2020(R2) 年 9 月	第 81 回応用物理学会秋期学術講演会(2020 秋)	安田 隆, 白嶋賢仁, 壺 岐智行		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動 (芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017(平成 29)年 4 月～継続中	応用物理学会東北支部役員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017(平成 29)年 4 月～	情報電子工学科主任	
2014(平成 26)年 4 月～	理工学部教務委員	
2019(令和 1)4 月～	留学生担当	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）前期はコロナの影響で、ほぼオンライン授業となったので、教材をすべてスライドにするために多くの時間を費やした。パソコンやタブレットを使う受講者に、一部スマートフォン受講者が混じるので、教材作成は強い制約を受けた。また学生の通信環境と受講者数による制約のために、双方向にカメラ映像を送ることができず、どうしても一方向授業にならざるをえない。タブレットを使って、黒板機能を付加するなど、工夫は凝らしたが、学生の反応を捉えられず、スムーズに授業を行うことはできなかった。	オンライン授業を実施するのであれば、学生の IT, ネットワーク環境の整備が不可欠である。少なくとも、すべての学生が高速ネットワークに繋がったカメラ・マイク付のパソコンまたはタブレットを使える環境を整える必要がある。
（実験）学生実験の一部を写真などの映像資料と送付データにより、リモートで実施したが、これは困難を窮めた。	オンライン実験が実施可能なテーマは限られている。それ以外のテーマは、原則的に実施不可能である。密を避ける実施方法は、工夫できると思うが、学生を自宅から動かさずに実験を実施することはほぼ不可能である。
（ゼミナール・卒業研究・演習）卒業実験は、対面で行うことができたので、学生達は、結晶合成や評価に、積極的に取り組んだ。	学生の状況は、毎年異なるので、その年の状況に応じて、臨機応変に対応することが重要である。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	教授	氏名	山崎 達也	就任年度	2000（平成 12）年度
----	------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 基礎化学 A、基礎化学 B、無機化学、化学環境学、化学実験、食環境学実験 I,II、食環境学実験 III、食環境学演習 I,II、食環境学実習 II、卒業研究
2.大学院担当科目 無機プロセス化学特論、物質工学特別研修 I ， II、有機材料化学特論、物質工学特別演習・実験 I ， II、複合材料化学特論、資源環境化学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
Combination effects of alumina and bismuth oxide supports on CH ₄ /CO ₂ reforming reaction behavior over Pt-Rh/Al ₂ O ₃ -Bi ₂ O ₃ catalysts	共同	2020(令和 2) 年 9 月	化学系学協会東北大会	加藤悠河、末永拓藏、菊池尚子、 <u>山崎達也</u>		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2009（平成 21）年 11 月 27 日 ～継続中	日本吸着学会評議員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020（令和 2）年 4 月～	研究活動等コンプライアンス委員会委員長	
2011（平成 23）年 4 月～	実験廃棄物処理委員会委員長	
2011（平成 23）年 4 月～	分析センター長	
2005（平成 17）年 4 月～	毒物・劇物管理責任者	
2020（令和 2）年 4 月～	石巻専修大学研究推進委員会委員	
2011（平成 23）年 4 月～	放射線傷害予防委員会委員	
2018（平成 30）年 4 月～	人を対象とする研究倫理審査委員会 副委員長	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）1 年次配当の「基礎化学 A,B」については、70-90 名前後の大人数の教育を行ってきた。基礎化学 A はコロナ禍で全面的にオンライン授業を実施した。学生が受け身になることを避けるため、事前に講義プリントを配布すること、およびアニメーションを駆使したパワーポイントによる授業を実施するとともに、講義中にできるだけ多くの演習を行い、理解度を高めるよう努めた。化学が苦手な学生から、化学を得意とする学生まで幅広いレベルの学生に対応するよう心がけたが、問題が易しすぎて退屈する学生がいる反面、講義プリントをダウンロードせず、演習もほとんどできていない学生も少なからずいた。 基礎化学 B においてはほとんどで対面授業が実施されたが、板書が見にくいとの過去の意見を配慮して、パワーポイントによるプレゼンとし、これまで同様、色刷りの資料の配付となるべく多くの演習問題を実施した。 前期の無機化学は web 講義であったが、基礎化学同様プリント配布とパワーポイントによるプレゼンを実施した。web であることを活用していつもよりも活発に質問への応対ができたが、一部の学生はログインするだけの学生もいたようだ。化学環境学は基本的にプリントを配布して対面授業で行ったが、今年度からパワーポイントによる講義とし、化学環境に関する画像などを大きな画面で示すことができたことから、おおむね興味を持って学習していたように思う。	色分けして整理されたプリントの内容については例年通りおおむね高評価だったと言えるが、web 授業では問題演習等では、提出しない（できない）学生へのきめ細かいケアができなかった。相互にコミュニケーションをとれるツールの利用を考えたい。授業時間以外にも質問のメール等があったが、これを気軽に使えるようアナウンスしていきたい。 web 授業の準備は思いのほか負担が多く、週 2 コマの授業のプリント作成とパワーポイント準備で忙殺された。2 年目の今年はいくぶん余裕ができるので、よりきめ細かく、ケアできるように準備していきたい。 1 年生の講義では受講に対するモチベーションを高めることが何より必要であり、対面授業が可能なら対話型の演習などを取り入れていきたい。
（実験）コロナ禍の影響で、化学実験ではグループ実験ができなかったため、人数を絞って実験を実施した。さらに実験中やその後に学生間での相談ができないことを考慮し、実験前の説明や基本的操作や器具の取り扱い方の説明などに力を入れるとともに、実験内容を一部縮小して消化不良にならないように心がけた。また、実験後のデータ処理や考察についても時間をかけて説明してきた。それにもかかわらず、データのまとめ方やレポートの書き方など基本的事項の不備が目立ち、それまでの非対面授業による弊害があったと言わざるを得ない。これまで以上のきめ細かい指導とモチベーションの維持を進める工夫が必要と感じた。 食環境学実験 I,II では、提出されたすべてのレポートをチェックし、学生に訂正指示や書き方の指導などのケアを行っている。最低限のレポートの体裁を整えられない学生、締切を守れない学生が増えてきており、対応策の検討が必要となってきた。	結果の解析や考察など、最後まで取り組んでいた学生には、理解した喜びを感じてもらえたと考えている。ただし、実験の手際が著しく悪い学生、モチベーションが低く、実験を積極的に進めない学生が少なからずおり、1 名の単独実験ではそれが顕著にあらわれ、実験の失敗やレポートの不出来として結果に現れた。まずは、期日を守ること、最低限のフォーマット（作法）守ることなどを徹底するとともに、少し調べればわかることをしない学生、実験をする気のない学生には厳しい対応を取ることも必要と考える。出席すればなんとかなる（なんとかする）といった考えを払拭するよう、学生や教員も考え方をあらためていかなくてはならない。
（ゼミナール・卒業研究・演習）卒業研究については、コロナ禍の影響で研究室活動の開始が 2 ヶ月以上も遅れてしまったが、web でのミーティングなどを実施して、モチベーションの維持を図った。卒業研究は、研究室で継続的に行っているテーマについて、卒研生が熱心に取り組んだ。卒研生の卒業研究は学術的にある程度の成果を上げたが、多くの学会が中止になり、学生自ら発表する機会が減ってしまったことは残念だった。相変わらず実験は熱心に行うものの、結果のまとめや研究の展開ができない学生の指導、欠席の多い学生に対するケアに苦心した。	コロナ禍の中、1 件とはいえ卒研生の研究で学会発表を行った結果は評価できる。これも学生に頑張りのたまものであり、それに助力できたことは喜ばしいことである。やりがいを持って研究を進められるよう、研究目的や方法論等に関するミーティングをさらに綿密に行うようにしていきたい。ただし、卒研生のメンタル面のケアは、研究室だけの努力ではもはや不可能と感じる。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部生物科学科	職名	教授	氏名	依田 清胤	就任年度	2013（平成 25）年度
----	-----------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 基礎生物学 B、生物学、植物機能形態学、植物生態学、生物科学特別科目Ⅱ、生物学実験Ⅰ・Ⅱ、生物科学実験Ⅰ・Ⅱ、生物科学実習Ⅰ・Ⅱ、植物学実習、生物科学演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究
2.大学院担当科目 森林生態学特論、植物生理生態学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 自然科学概論（専修大学北上福祉教育専門学校）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

Ⅴ 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020(令和2)年度～継続中	入試委員会進学サポート奨学生選考委員会委員長	
2020(令和2)年度～継続中	IR推進委員会副委員長	
2020(令和2)年度～継続中	入試委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 大学の Course Power を用いた対面授業と並行して、zoom による遠隔授業を実施した。講義資料は Course Power を活用して事前に配布するとともに、各回の講義終了から二週間は資料の利活用を可能にすることにより、予習・復習を含めた学習効果の改善に努めた。また学習の成果を可視化するため、毎回の講義のなかで小テストを実施するとともに、不定期で追加のレポート課題を提供した。	資料の配布により、学生の知識定着と興味喚起に効果が認められたが、一部の学生については予習・復習の取り組みが少なく、対応策に改善が求められた。毎回の課題提出（小テスト）は教員、学生双方に負担が大きく、今後の運用形態については改善が求められた。
（実験） 該当なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究の実施に当たり、研究室ゼミなどを通じて、また不定期での zoom による遠隔セミナーの実施により、学生相互間での対話の機会を増やし、学習効果の改善に努めた。	学生同士でお互いの研究テーマについて意見交換することにより、各自の学習状況の現状把握がより具体的に行われ、学習意欲・効果の向上が認められた。しかしコロナ禍により野外活動がおおきく制限されてしまったため、十分な卒業研究活動が行えなかった。
（その他特記すべき事項） 該当なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	教授	氏名	佐々木 慶文	就任年度	2001（平成 13）年度
----	--------------	----	----	----	--------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 フレッシュマンセミナー、情報システム概論 IIA、情報システム概論 IIB、情報技術者専門科目 I、情報社会論、画像情報工学、物理学実験 I、物理学実験 II、情報電子工学実験 III、情報電子工学実験 IV、情報電子工学実験 V、情報電子工学演習、卒業研究
2.大学院担当科目 知能情報システム工学特論、画像情報システム工学特論、知能集積システム工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 非対面形式の実験に適した教材の作成	2020(令和 2))年度	運搬性に優れたコンピュータ制御実験教材を作成し、これを用いた非対面形式の専門実験を実施した。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 模擬授業	2020(令和 2))年 9 月 9 日	宮城県志津川高等学校模擬授業：ロボットを動かしてみよう、参加者：生徒 7 名、引率教諭 1 名

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
組み込みシステムにおける深層学習モデル応用の 試み	共著	2021(令 和 3)年 3 月	石巻専修大学研究紀要第 32 号	劉忠達、 <u>佐々木慶文</u> 、川 村暁	pp.153-156	なし
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020(令和 2)年度	宮城県高度情報化推進協議会会員
2020(令和 2)年度	Pepper 社会貢献プログラムソーシャルチャレンジ 石巻市湊小学校(の保健室)に設置する Pepper 向けの保健関連アプリの開発
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2019(令和元)年度～2020(令和2)年度	広報委員会委員長	
2020(令和2)年度	遠隔授業体制整備プロジェクト（プロジェクトリーダー）	
2019(令和元)年度～継続中	（石巻専修大学理工学部学科改組等にかかわる設置検討作業部会2次答申作業部会委員）	実質的には2020(令和2)年9月頃まで。以降は機械工学科高橋先生と情報電子工学科本田先生の2名で活動

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） (1) 授業内の演習においてクラウド上のプログラム開発環境を導入した。PCの所有が前提だが、非対面形式の授業でも、すべての学生がほぼ同じ学習環境で授業を受けられる。また、学習環境を統一することで個別の対応がほぼ不要となり、授業の効率化がはかられた。 (2) 非対面形式の授業への対応として、配布資料やスライドの見直しを行った。	(1) クラウド上のプログラム開発環境を利用するために必要な作業や利用方法などをマニュアル化してLMSなどに掲載しておき、PCの扱いが苦手な学生に対応することが重要と考えている。 (2) 受講生のレベルや内容に関して、現状に合わない資料やスライドが散見された。本年度は必要最小限の対応としたため、次年度以降も改善を継続する。
（実験） 非対面形式の実験に対応した新規実験を検討し、実施した。また、このための運搬性に優れた教材の開発を行った。後期は対面形式の実験で実施したが十分な教育ができることを確認した。	教材は、非対面形式の実験向けに最小構成で作成したため、対面形式の実験向けの改良を検討する。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 前期は、必要な教材を郵送し、非対面形式で授業を実施した。後期は、入構制限期間以外は対面形式で実施した。	後期の入構制限時に学生への対応がやや混乱したため、今後、同様のケースでの対処をあらかじめ検討しておくことが重要である。
（その他特記すべき事項） 2020(令和2)年9月9日 宮城県志津川高等学校模擬授業（ロボットを動かしてみよう、参加者：生徒7名、引率教諭1名）	概ね好評が得られた。コロナ禍で実施した初めての模擬授業であり、様々な側面から適切に実施されたか検証する必要がある。

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	准教授	氏名	鈴木英勝	就任年度	1999（平成 10）年度
----	------------	----	-----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1. 学部担当科目 食品加工学、食品寄生生物学、化学実験 I, II、情報活用 II、食環境演習 I, II, III, 食環境実験 I, II, III
2. 大学院担当科目 海洋生物ミネラル特論, 海洋生物機能学特論
3. 非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。)

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1. 教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む）		
2. 作成した教科書、教材、参考書 1 産地偽装表示を防ぐための科学的マネジメント p184-186 地域マーケティングの 核心—地域ブランドの構築と支持される地域づくり同友館 2 地域ブランド再構築の科学的寒天に基づくブランディング—カツオブランドの再構 築を事例に p212-215 地域マーケティングの核心—地域ブランドの構築と支持され る地域づくり同友館		2019 年 に重版 他の複数大学で教科書として使用
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
	該当者無		

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
論文】						
深海魚を利用したすり身加工品の基礎的研究	共著	2021(令和3)年3月	石巻専修大学研究紀要	鈴木英勝、秋元直輝	113-116	無
宮城県石巻市における水産業の現状に関する一考察：被災企業に対する調査の結果を踏まえて	共著	2020(令和2)年9月	宮城学院女子大学研究論文集	石原慎士、李東勲、鈴木英勝	59-79	有
【その他】(報告書など)						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
石巻専修大学模型研究会 模型展示	地元施設、玩具店	2021年(令和3年)	顧問を務める石巻専修大学模型研究会の模型の展示

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2003（平成 15）年～	日本水産学会東北支部幹事 2003（平成 15）年～ 日本水産学会東北支部連絡調整役（2016 年（平成 28）年～
1994（平成 6）年～	石巻専修大学同窓会幹事
2015 年（平成 27）年～	石巻北高等学校・飯野川高等学校 外部評価委員（学識部門）
2017（平成 29）年～	石巻市河北町まちづくり協議会 専門委員（学識部門）
【その他研究活動上特記すべき事項】	
青森県の菓子製造業者に水産加工廃棄物から抽出した有用成分を使用したお菓子の技術指導。	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2013（平成 25）年～	学生部	
2015（平成 27）年～	高大接続	石巻北高等学校・飯野川高等学校担当
2020（令和 2）年～	個人情報業務責任者	

VI その他特記すべき事項

模型研究会顧問（2015 年～）

Ⅶ 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 新聞の記事を取り入れ、新しい食品や寄生虫の情報を食品加工学・食品寄生生物で学生に伝えた。文字が小さいとの指摘に対して、大型スクリーンを採用した。講義で使用するパワーポイントのフォントサイズを 28 以上に設定した。上記は非対面授業用にも変更した。	文字が小さいという苦情が無くなった。
（実験） 食環境学科でありながら食の実験がほとんどないとの指摘に対して、蒲鉾の食品加工実験を行った。	学生にはおおむね好評を得た。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究の一環として企業とコラボした研究として青森県八戸市の酒造会社と行い、酒粕入り米粉パンとせんべいを製造した。	地元中小企業への地域貢献として評価された。
（その他特記すべき事項） 宮城県石巻好文館高校「3K（きたない、きもい、きけん）でも知ってほしい寄生虫」出前講座 2020 年 7 月 8 日 宮城県石巻好文館高校 総合的な学習時間「甲斐ある人といわれたいむ」分野課題研究（2 年生対象）の一環である個別研究中間発表会に、参加し、助言をした。2020 年 11 月 11 日	受講者から好評を得た。

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	准教授	氏名	高橋 智	就任年度	2006（平成 18）年度
----	------------	----	-----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 材料力学Ⅰ、材料力学Ⅱ、情報活用法Ⅰ、CAD 工学、CAM 工学、フレッシュマンセミナー、機械工学実験Ⅴ、機械工学演習Ⅱ、卒業研究
2.大学院担当科目 材料プロセス工学特論、高機能要素学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 学科教員を対象とした非対面授業の講習会	2020（令和 2）年 4 月 30 日、5 月 1 日	機械工学科教員を対象とした非対面授業（特に Zoom を用いた方法）の講習会を実施した。
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 教育活動の実績に基づく教員表彰（石巻専修大学）	2021（令和 3）年 3 月	学部・学科の教育方法改善として非対面授業への早期対応に取り組んだ成果として表彰された。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
縦渦発生体による狭いダクト内に置かれた突起上の対流熱伝達促進	共著	2021（令和3）年3月	石巻専修大学研究紀要第32号	島田了八、木村光平、 <u>高橋智</u>	49～53	無
【その他】（報告書など）						
カキ殻粉末／PLA 複合材料の強度評価	共著	2021（令和3）年3月	石巻専修大学研究紀要第32号	<u>高橋智</u> 、木村光平	117～120	無
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】 ・公益社団法人 3.11 みらいサポートより奨学寄付金、研究目的「災害学習におけるデジタルファブリケーション技術の利活用」 ・企業からの技術相談 1 件	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020(令和 2)年 4 月 1 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	入学試験委員会 委員	
2020(令和 2)年 4 月 1 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	スポーツ推薦入学試験評価委員会 委員	
2020(令和 2)年 4 月 1 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	IR 推進委員会 委員	
2020(令和 2)年 4 月 1 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	理工学部クラス担任（機械工学科 1 年次）	
2020(令和 2)年 4 月 1 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	石巻専修大学理工学部学科改組等に関わる設置検討作業部会 2 次答申作業部会座長	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 各授業において、学生の反応や習熟度を反映させた授業内容の改良を行い、学習成果の向上を目指した。特に、非対面授業に対応したスライド資料や演習課題の作成に取り組んだ。 (1)材料力学と情報活用法およびCAM工学では、非対面授業において目標とする学習成果を達成できるよう、授業内での例題の解説や演習課題を充実させた。 (2)CAD工学においては、授業の復習資料を配布し、イメージトレーニングや予習復習にも役立つようにした。また、学習した知識の定着・実践を目的とし、演習課題を難易度別に充実させた。	学生の授業理解度および学習意欲の向上を目的とした取り組みを実施しており、授業アンケートから一定の成果が得られていると考える。しかし、授業時間外の学習時間が少ない傾向が見られた。次年度は、より興味を持って予習復習に取り組めるような演習課題の開発に取り組むとともに、新たな指導方法についても検討する。
（実験） 機械工学実験Ⅲ・Ⅳでは、「硬度試験」、「NC 工作機械」、「機械要素」、「ひずみゲージによる測定」を担当した。授業で得られた知識の定着を目指し、授業との関連づけを意識した実験内容とした。一部実験は非対面授業で実施したため、実験動画や資料を新たに充実させ、学習成果を達成できるように取り組んだ。	学生のレポートおよびコメントから、新たに作成した動画や資料は学生の理解力向上に役立っていることがわかる。継続的に、補助資料や実験内容の見直しを行っていく。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究では、自身の研究活動において培った見識や経験を基にした学際的な指導により機械工学関係の人材育成に寄与している。	研究紀要への発表や奨学寄付金の獲得につながる成果もあり、適切な研究指導ができていると考える。次年度は、学生との研究活動を成果（論文等）としてまとめる。
（その他特記すべき事項） (1)3次元CAD資格試験の学内向け資格取得講座の講師および試験実施責任者を担当した。 (2)Pepper 社会貢献プログラム（桜坂高校と連携）を実施した。 (3)石巻市の小学生を対象に出前授業（プログラミング体験）を実施した。 (4)震災伝承交流施設 MEET 門脇（2021年3月8日オープン）に合わせ「石巻市沿岸部の復元立体模型（小型版）」を寄贈した。	(1)受講者5名が2級に合格した。合格率は全国平均並であり、資格取得講座の内容・実施方法については問題ないとする。試験結果を分析し、次年度の講座内容を改良する。 (2)、(3)石巻地域の人材育成に寄与できた。参加者のコメントから、概ね目標通りの成果が得られたと考える。次年度は、コロナ禍における実施方法のあり方を検討し、活動機会を増やしていく。

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	准教授	氏名	辻 大和	就任年度	2020（令和2）年度
----	------------	----	-----	----	------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 生物学、野生動物保護論、生物科学演習 II、基礎理数演習 II、卒業研究
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 高大連携授業ならびに出前授業で講師を務めた。	2020/7/8 2020/11/19	石巻好文館高校 東北学院中学校
2.作成した教科書、教材、参考書 与えるサルと食べるシカーつながりの生物学－，地人書館	2020/7/15	20年にわたる、金華山でのニホンザルの研究成果をまとめた一般書。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項無し		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項無し			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
与えるサルと食べるシカ. 地人書館.	単著	2020/7/15	地人書館	—	1-222	無
【論文】						
Effect of infant pelage colour on infant caring by other group members: a case study of wild Javan lutungs (<i>Trachypithecus auratus</i>)	共著	2021/2/2	<i>Behaviour</i> 158 (3-4)	Trisilo S.P., Widayati K.A., <u>Tsuji Y.</u> (本人)	277-290	有
Differential attraction of large and small tunnelling dung beetles (Coleoptera: Geotrupidae and Scarabaeidae) to native mammal dung in a Satoyama forest in central Japan	共著	In press	<i>The Colleopterists Bulletin</i>	<u>Tsuji Y.</u> (本人), Sawada K., Shiraishi T., Matsubara M., Kosugi J.	In press	有
Interspecific difference in seed dispersal characteristics between Japanese macaques (<i>Macaca fuscata</i>) and sympatric Japanese martens (<i>Martes melampus</i>)	共著	2020/8/28	<i>Folia Primatologica</i> 91(6)	<u>Tsuji Y.</u> (本人), Yanti R., Takizawa A., Hagiwara T.	711-720	有
Effects of Japanese marten (<i>Martes melampus</i>) gut passage on germination of <i>Actinidia arguta</i> (Actinidiaceae): Implications for seed dispersal	共著	2020/4/14	<i>Acta Oecologia</i> 105	<u>Tsuji Y.</u> (本人), Konta T., Akbar M.A., Hayashida M.	103578 (オープン アクセス)	有
Studies on primate crop feeding in Asian regions: A review	共著	In press	<i>Mammal Study</i>	<u>Tsuji Y.</u> (本人), Ilham K.	In press	有
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
農地への依存はニホンザルの種子散布機能を低下させる	共同	2020/12/6	日本霊長類学会	辻大和 (本人), 海老原寛, 立脇隆文, 清野紘典		

農地への依存はニホンザルの種子散布機能を低下させる	共同	2021/3/18	日本生態学会	辻大和（本人）, 海老原寛, 立脇隆文, 清野紘典		
種子散布を哺乳類に依存するオオウラジロノキの発芽と実生の定着	共同	2020/3/18	日本生態学会	齊藤茜, 林田光祐, 辻大和（本人）		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項無し			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020/4/1	日本霊長類学会・英文誌 Advisory Board Member
2020/4/1	日本霊長類学会・監事
2020/4/1	日本哺乳類学会・英文誌編集委員
2020/4/1	日本哺乳類学会・代議員
2020/4/1	国際霊長類学会・Research Committee Member
2020/4/1	ボゴール農科大学・英文誌編集委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項無し	

Ⅴ 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020/4/1	大学紀要編集委員	
2020/4/1	1年生の担任	

VI その他特記すべき事項

- ・2020/11/12 ネットニュース記事 ファニーな見た目でクールに滑空！ どこにも属さねえ孤高の奇獣・ヒヨケザル. ほとんど0円大学・珍獣図鑑(6) 2020年11月12日.
http://hotozero.com/knowledge/animals_006/
- ・2020/8/15 ラジオ番組出演 サルの社会にボスはいない！？～ニホンザルの新常識～ ベイエフエム / The Flintstone
- ・2020/10/25 新聞記事掲載 <東北の本棚>野生生物追い関係探る. 河北新報
- ・2020/9/20 新聞記事掲載 与えるサルと食べるシカ. しんぶん赤旗（日曜版）
- ・2020/9/9 ネットニュース記事 「弱いやつでも挽回できる」サル研究者が説く「オタク式学校生存術」. Withnews 2020年9月9日.
<https://withnews.jp/article/f0200910004qq0000000000000000W08u10101qq000021770A>
- ・2020/8/1 新聞記事掲載 起点は金華山での目撃. 石巻日日新聞
- ・2020/6/19 ネットニュース記事 サル 300頭と引き継いだ「人間の業」、観光客にも隠さず伝える事実. Withnews 2020年6月19日.
<https://withnews.jp/article/f0200619001qq0000000000000000W08u10101qq000021354A?ref=kijiunder>

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）難解な数式を極力排した講義を行った。	スライドの誤字が多かった（発表中に修正することが多くあった）ので、春休みの間に修正したい。
（実験）実物に触れる機会を増やすように意識してプログラムを作成した。	実験に使用した機材が不足することがあったので、来年度は多めに確保したい。
（ゼミナール・卒業研究・演習）分析後のデータの解釈に関しては教員の意見を押し付けるのではなく、学生が自ら考えることができるよう促した。	本学では、研究職でなく一般職を目指す学生が大多数である、という点をよく認識し、卒論での指導をどこまで厳しく行うかについて、再考したい。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	准教授	氏名	奈良 英利	就任年度	2018（平成 30）年度
----	------------	----	-----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 単独で担当した科目（単位認定者ではないものも含む） 細胞組織学、動物解剖学、動物生理学、卒業研究、生物科学演習 II、III、生物科学実験 III、生物科学特別科目 IV 分担科目 自然環境論、生物学実験（前期、後期）、生物科学実験 II、国際体験研修（異文化体験型）、生物科学演習 I、バイオサイエンスコミュニケーション I、II、フレッシュマンセミナー、動物学実習、生物科学実習 I、IIB
2.大学院担当科目 細胞組織化学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 講義資料（細胞組織学、動物解剖学、動物生理学）	2020 年 5 月～ 2021 年 1 月	コースパワーに各回の講義資料を掲載。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 令和 2 年度体験授業	2020 年 10 月 28 日	対象：石巻市立桜坂高校（1 年生：30 人） 「PCR 法を使って牡鹿半島のニホンジカの動向を探ってみた」

【博士論文審査】（修士論文）

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
令和 2 年度	佐川陽佑	ゾウリムシの微小電流状態における走電性に関する研究	副査

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Physiological heating augments the anti-inflammatory reactions during granulocyte/monocyte apheresis: A in vitro study.	共著	2020 年 10 月	Wiley Online Library <i>Ther Apher Dial.</i> On Line にて巻、号なし	Shoichi Nishise, Yuji Takeda, Yasuhiko Abe, Yu Sasaki, Shinichi Saitoh, Hidetoshi Nara , Hironobu Asao, Yoshiyuki Ueno	On Line にてページ番号 なし DOI: 10.1111/1744-9987.1360 0	有り
【その他】（報告書など）						
石巻地方のニホンジカ生息数・動態調査研究報告	共著	2021 年 3 月	石巻市	土屋剛 奈良英利	52-61 ページ	なし
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 （共同の場合のみ記入）		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】 令和2年度 石巻市受託研究（共同代表）	石巻地方のニホンジカ生息数・動態調査 研究費 1000 万円（直接経費：900 万円、間接経費：100 万円）

Ⅴ 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020 年 4 月～2021 年 3 月	生物科学科 2 年次クラス担任	昨年度の 1 年次クラス担任に引き続き
2019 年 4 月～2021 年 3 月	国際交流センター運営委員	
2019 年 4 月～2021 年 3 月	遺伝子組換え実験安全委員会委員	
2019 年 4 月～2021 年 4 月（終了予定）	石巻専修大学理工学部学科改組等にかかわる設置検討作業部会 1 次答申作業部会委員	

Ⅵ その他特記すべき事項

令和2年10月29日 研究活動表彰（通算3回目）

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 座学は全て非対面にて実施。コースパワーに全ての回の講義資料を掲載した。授業に関する質問はメールとコースパワーで随時受け付け、できるだけ速やかに回答した。Zoom の URL を毎回、コースパワーに加え、ポータルでも配信したので、スムーズに授業に入れた。	座学については特に批判的なアンケート回答はなかった。非対面のため前期の講義でシラバスを一部変更することを 1 回目のガイダンスで話したが、その項目の評価が良くなかった。2 回目の講義から履修する学生のことも考慮すべきであった。
（実験） N9 実験室に iBright1500 という新しい機器の導入に尽力した。その機器を使って、研究を行い、学生には卒業研究発表会でその機器を用いたデータを発表してもらった。本学でもこのような実験ができる、ということを学内の教員、学生にアピールできた。	今後は学外にもアピールできるよう尽力したい。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 7 人の卒業研究生の発表、ポスター作成の指導をした。さらに学生達に卒業論文を執筆してもらい、それを監修した。卒業論文は製本し、卒業式の日に学生に手渡した。去年も実施したが、そんなにリアクションはなかったのでそんなものかと思っていたが、今年は私がビックリするくらい学生が喜んでくれたのがよかった。 演習で学生に英語の論文を読んでもらったが、難しかったらしく、全体での演習でそれを実施するのは、学生の精神的負担を考えると、よろしくないと思った。	卒業研究関係は、特に問題はなかったので、今後も今年同様頑張りたい。 英語論文の講読をやめるつもりはない。ただし、やり方を改善すべきであると思った。個別に行う、または個別指導の後、全体発表をしてもらうなどの工夫が必要であると思った。
（その他特記すべき事項） 生物学実験 世話人（2019 年 4 月～）	後期の対面での実験では密にならないような環境の構築に尽力した。

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	准教授	氏名	鳴海 史高	就任年度	1998（平成10）年度
----	------------	----	-----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1. 学部担当科目 化学、有機化学、高分子化学、食品成分の化学、化学実験Ⅰ・Ⅱ、食環境学実験Ⅰ～Ⅲ、食環境学演習Ⅱ・Ⅲ、食環境学実習Ⅱ、卒業研究
2. 大学院担当科目 有機プロセス化学特論、有機材料化学特論、精密合成化学特論
3. 非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1. 教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2. 作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4. その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017(平成 29)年度～継続中	石巻市廃棄物対策審議会、会長
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2019(令和 1)年 11 月～	石巻専修大学理工学部学科改組等にかかわる設置検討作業部会委員	
2020(令和 2)年 4 月～2021(令和 3)年 3 月	図書館委員会委員	
2020(令和 2)年～2021(令和 3)年 3 月	理工学部クラス担任（食環境 1 年次）	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）ほとんどの科目が Zoom による非対面授業となったため、授業への積極的な参加を促すために、授業中に頻繁に演習問題を出題し、チャットで回答させるようにした。	試験の結果を見ると、従来の対面授業よりも、学生の理解度は低い。非対面で授業を行う場合には、授業内容を絞り込み、質問等を受ける時間をしっかり確保する必要があると感じた。
（実験）コロナ禍の中、学生が個別に作業するように実験内容を変更し、しっかりと感染防止対策をしながら対面形式で実施した。	感染防止対策のため、教員と学生、および学生間のコミュニケーションがとりにくくなり、実験科目の教育効果はかなり低下した。きちんとコミュニケーションがとれるような工夫が必要であると感じた。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	准教授	氏名	渡辺 正芳	就任年度	2017（平成 29）年度
----	------------	----	-----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 基礎数学（基礎数学 I）、数学（基礎数学 II）、理工数学、応用数学、解析学、基礎理数演習 I、基礎理数演習 II、フレッシュマンセミナー、生物科学実習 I、生物科学特別科目 IV、生物科学実験 III、生物科学演習 II、生物科学演習 III、卒業研究
2.大学院担当科目 修士課程：数理解析特論、情報数理特論 博士課程：応用解析学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020（令和2）年度	石巻専修大学「中長期ビジョン」行動計画策定プロジェクト構成員	ビジョン1とビジョン2①（主に教育に関すること）の行動計画を策定した。
2020（令和2）年度	遠隔授業体制整備プロジェクト構成員	遠隔授業に対する良い取り組み（授業方法、オフィスアワー、学生へのフィードバック）の波及効果を狙った。
2020（令和2）年度	生物科学科1年次クラス担任	コロナ禍における1年生に対して、丁寧に対応した。 （自己点検・評価の欄に記載）
2019（令和1）年度～2020（令和2）年度	FD委員会委員	
2019（令和1）年度～継続中	ホームページ委員会委員	記事の作成や掲載依頼を積極的に行った。

VI その他特記すべき事項

- ・ダンス愛好会部長：コロナ禍で不十分であったサークル紹介を独自に企画し、実施した。
- ・フィールドワーク愛好会部長：部員の卒業により、2021（令和3）年度から休部
- ・大学案内作成における生物科学科担当（新生物科学科として）
- ・生物科学科卒業研究ポスター発表会の世話人：2020（令和2）年度はコロナ禍のため、ポスター展示会として行った。
- ・オープンキャンパスでの模擬授業：オンラインで学科紹介と模擬授業（ピカチュウの寿命?!～数理生物学入門～）を行った。
他学科の模擬授業に比べて、約4倍の集客を得ることができた。

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 算数・数学を一から学び直しながら、「社会知性の開発」につながるような（教養を深めることができるような）講義を行った。歴史、芸術、心理学、物理・化学・生物・地学など、さまざまな分野と絡めて身近な例を挙げながら授業を行ったことが特色である。たとえば、基礎数学においては次のようなものを挙げた。古代エジプトにおける地球の大きさの計算方法、大学裏山の山頂から見える距離、サグラダファミリアの構造、ピカチュウの寿命、名探偵コナンと落下運動、刺激と感覚の関係、私たちは巨人になれるか？などである。	基礎数学の総合評価は4.7とおおむね良かった。話し方は聞き取りやすかったかの評価は4.9であった（全学の平均は3.9）。特に、しっかり学生に勉強の負荷をかけつつ高評価であったことに注目した。授業以外の勉強時間に注目すると、全学では予習復習ともに週に30分程度や全くしなかったとの回答が何と5割以上であるが、基礎数学では8割程度の学生が週1時間以上復習に時間をかけ、努力をしていた。
（実験） 1年次後期のフレッシュマンセミナーでは生物統計学入門の講義を行った（平均・分散・標準偏差・相関係数・帰直線・対数グラフなど）。また、3年次前期の生物科学実験Ⅰでは、前半で生物統計学の学び直しを行い、後半では数理生態学入門の講義を行った。数理生態学は、1年次の基礎数学・数学で学んだ微分積分の活躍の場でもあり、個体数のコンピュータシミュレーション実験の準備にもなることから、講義の効果を期待したい。	2年次の生物学実験、化学実験および3年次の生物科学実験において、学生がスムーズにレポートなどに取り組めるよう、講義内容と実験内容を有機的に結びつける必要がある。また、1年次の講義では、理系分野に対するレポートの書き方指導を充実させる必要がある。
（ゼミナール・卒業研究・演習） ・「勉強→発表→議論」の流れを通して、考える力や伝える力を養うことを大きな目的として指導を行った。普段のセミナーから分かりやすく伝えることを意識させ、パワーポイントを使ったプレゼン方法を丁寧に指導した。 ・長期休みも含め、数理生物学の自主ゼミを継続して行った。卒業研究発表の本番さながらのプレゼン大会を実施し、成果を試す場を提供した。学生同士が互いに評価し、その後の成長に結びつくようにした。	・研究室独自に行っているプレゼン大会では、学生相互に評価をする仕組み（口頭による指摘だけではない学習成果の可視化）を導入する。 ・3年次には数学関係の科目がないこともあり、今後も意欲のある学生を募り、セミナーを実施していく。
（その他特記すべき事項） ・教員志望の学生のために、「教職セミナー」を学生と協力して自主的に行った（模擬授業の実施、個人面接・集団討議の練習、学習指導案の作成、専門科目の試験勉強、卒業生との座談会など）。結果として、自主ゼミ初の卒業生から、3名の教員採用試験合格者が出た。少なくとも学科ができてから初のことであり、評価できる。 ・コロナ禍での1年次の担任（辻、渡辺）として、極めて丁寧な対応を心掛けた。学科独自のネット環境調査、相談窓口の開設、Zoomガイダンスの実施、教職ガイダンスの実施、教員向けZoom練習会・Zoom模擬授業の企画、Zoom懇親会の実施（土日などを使って、個人でも懇親会を数回実施）、対面での交流会の実施、などである。 ・例年、「生物科学科標本チーム」を運営し、透明標本などを作成して石風呂で販売している（共同代表：中川、渡辺）。学生には周知したが、コロナ禍により活動ができなかった。	・2020（令和2）年度からは、新たに2年次、3年次の学生合同で実施中である。学年の隔たりをなくした取り組みや卒業生との連携も行うことで、（自然科学コースを念頭に）より充実したセミナーができるよう取り組みたい。 ・今後もオンライン授業を余儀なくされた場合には、担任として経験したノウハウを引き継げるよう情報共有を積極的に行う。コロナ初年度の学生はイベントの実施や学生間の交流が不十分であることから、新たな企画の実施を検討する。 ・学科内での縦のつながりの場の提供、生物科学科の知名度アップ、正規の授業にはない経験の場の提供を目的とし、今後も継続して行う。

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	助教	氏名	木村 健司	就任年度	2014(平成 26)年度
----	--------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 情報活用法Ⅱ、コンピュータ概論Ⅱ、情報社会論（複数担当者科目）、情報システム概論ⅠB、プログラミング論Ⅰ、物理学実験（複数担当者科目）、情報電子工学演習、卒業研究、情報電子工学実験Ⅲ,Ⅳ（複数担当者科目）、Ⅴ
2.大学院担当科目 ソフトウェア基礎科学特論、情報論理学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
An algorithm for a defensive alliance containing a specified vertex in a tree	共著	2020（令和2）年7月	Proceedings of the 35th International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC)	Kiyoshi Ando, Yoshimi Egawa and <u>Kenji Kimura</u> （本人）	122 – 125	有
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
An algorithm for a defensive alliance containing a specified vertex in a tree	共著	2020（令和2）年7月	35th International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC)	Kiyoshi Ando, Yoshimi Egawa and <u>Kenji Kimura</u> （本人）		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020（令和2）年 10 月から継続中	34 回 回路とシステムワークショップ The 34rd Workshop on Circuits and Systems 実行委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017(平成 29)年 4 月～	図書館委員会委員	
2019(平成 31)年 4 月～	情報電子工学実験 III, IV 世話人	

VI その他特記すべき事項

公益財団法人 トーキン科学技術振興財団 トーキン財団奨励賞 受賞

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 非対面で行った授業は授業内容を録画し、オンデマンド配信も追加で行った。	対面と非対面を組み合わせたハイブリッド授業が実現できれば、学生もどちらか選択できるので、良いだろう。
（実験） 非対面で行った実験は実験内容を録画し、オンデマンド配信も追加で行った。	実験機器を学生自身で用意しなければならなかったもので、電子化しても良いのではと思った。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 非対面でのゼミは、日時の自由がきき、かなり柔軟な対応が出来た。	話した内容の定着率が低かったもので、ゼミも録画したほうがよかったかもしれない。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	助教	氏名	中川 繭	就任年度	2015(平成 27)年度
----	------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1. 学部担当科目 環境と科学、生物科学特別科目Ⅲ、フレッシュマンセミナー、基礎理数演習Ⅱ、生物科学実習Ⅰ、生物学実験、生物科学実習Ⅱ、バイオサイエンスコミュニケーションⅡ、生物科学演習Ⅰ、生物科学実験Ⅰ、生物科学実験Ⅱ、植物学実習、生物科学実験Ⅲ、生物科学演習Ⅱ、卒業研究
2. 大学院担当科目 特記事項なし
3. 非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1. 教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） FD 委員会主催「授業研究会」発表	2021(令和 3)年 1 月 14 日	本学教員を対象に、zoom を用いたビデオカメラを使わないオンライン授業の Tips とオンラインでの課題提出方法の紹介を行った。
2. 作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4. その他教育活動上特記すべき事項 学校法人茂来学園大日向小学校中等部オンラインインタビュー	2021 年(令和 3 年)2 月 18 日	大日向小学校中等部の生徒を対象に、休耕田の活用方法についての講義を zoom で行った。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2016(平成 28)年 4 月 1 日～	遺伝子組換え実験安全委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 3年次前期の専門科目「生物科学特別科目Ⅲ」では遺伝学の授業を行っている。今年度はほとんどオンライン(zoom)でリアルタイムで行い、試験とビデオの視聴(1回)のみを対面で行った。毎回Office365のTeamsを用いて復習用の課題を出し、コメント(必須)と共に提出させることで、学生の理解度を把握すると共に、正答率が低かった問題の解説およびコメントへのフィードバックを授業内で行った。その結果、学生自身が己の理解度を把握し、回を重ねるにしたがい、積極的に授業に参加および質問を行うようになった。出席率については例年とあまり差が見られず、最後に行った独自アンケートでも、非対面であったことに不満を示す学生はほとんどいなかった。 基本教育科目の「環境と科学」は、今年度はすべてオンライン(zoom)で行い、履修学生と最後まで顔を合わせること無く終了したが、毎回、ポータルアンケート機能を用いて復習課題をコメントと共に授業の2日後までに提出させることで、学生の理解度を把握すると共に、質問への敷居を下げ、心理的安全性を図った。コメントや質問に対しては、例年と同様に匿名公開形式でフィードバックを行うことで、学生の授業への参加意識を高めた。最初の回で授業概要と共に、単位認定規準、前年度に履修した学生の授業総括コメントを提示し、授業内容に関心のある学生だけが受講するよう促した。しかし、非対面授業だったため履修登録していない学生は初回に参加できず、2回目以降に追加登録した学生の出席率(定着率)は低かった。試験も非対面となったため、非対面試験に使用するツール(Office365のTeams)の練習に時間をとる必要があった。 1年次後期のフレッシュマンセミナーにて、対面講義でのノートの取り方、実験ノートの取り方、実験レポートの書き方についての授業を行った。前期の授業が非対面だったせいか、例年に比べてノートテイクに不足がある学生が多かった。	今年度はオンラインの特性を生かして、毎回の課題を授業の3日後までに提出としたところ、学生の復習時間の充実と理解度が上がったと感じたので、今後も行っていきたい。 試験の結果は例年に比べあまりよくなかったが、試験の形式(Office365のTeamsで時間内に解答)によるものなのか、非対面授業(オンライン)では理解度が下がるのかは不明である。公平な成績評価を行うためにも、少なくとも試験だけは対面で行う必要があると考える。
（実験） 2年次前期の「生物学実験」は生物科学科以外の学生が対象であるにもかかわらず、非対面開講となり、家庭でもできる生物学実験を考案する必要に迫られた。実験材料の送付や実験テキストの作成は大変だったが、履修学生は概ね楽しんだようで、提出されたレポートの質もそれほど悪いものではなかった。但し、大学生の行う科学実験としては大変物足りないものであり、申し訳なく思った。 3年次後期の「生物科学実験Ⅱ」は最後の1日を残して非対面になったグループがあり、こちらでデータを出してその結果を元にレポートを書かせたが、やはり自分で体験していない実験のレポートを書くのは難しく、良い出来のものは少なかった。	実験授業は対面で行うべきである。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 学生の構内立ち入り禁止期間があったため、卒業研究に使える時間が限られ、学生によって頑張りに大きな差が見られた。学生が来られない間ずっと、実験材料の世話のために毎日大学に来なければならず大変疲弊した。	卒研生も院生と同様に、卒業研究のための最低限の構内立ち入りを認めて欲しい。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	助教	氏名	劉 忠達	就任年度	2016(平成 28)年度
----	--------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 情報活用法Ⅰ，コンピュータ概論Ⅰ，情報ネットワーク，卒業研究，情報電子工学演習，情報電子工学実験Ⅲ・Ⅳ，情報社会論，フレッシュマンセミナー，物理学実験
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Fast Stream Cipher based Chaos Neural Network for Data Security in CAN Bus	共著	2020(令和2)年9月	Advances in Science, Technology and Engineering Systems Journal, vol. 5, no. 5,	Zhongda Liu (本人), Takeshi Murakami, Satoshi Kawamura, Hitoaki Yoshida	63~68	有
組み込みシステムにおける深層学習モデル応用の試み	共著	2021(令和3)年3月	石巻専修大学研究紀要 第32号	劉忠達(本人), 佐々木慶文, 川村 暁	153~156	無
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020(令和2)年4月～2021(令和3)年3月	理工学部情報電子工学科1年生クラス担任	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） オンライン授業を導入した。意欲的に受講できるようにビデオを作成し、多くの実習内容を取り入れた。更に毎回テストと解答を実施していた。	授業アンケートでは、それなりの評価が得られた。次年度は、予習する範囲を徹底的に指導し、事前学習の向上に努める。
（実験） 操作の説明だけではなく、関連授業で学習したこととの関連付けを意識させるとともに基礎知識から応用に向けたステップアップを図るように努めている。	学生と十分にコミュニケーションを取りながら行えた。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 個々の学生と相談の上、学生の興味を引き出し、自主的に卒業研究を行うよう努めている。学生が主役であること常に意識させて自ら物事に進めるように指導した。助役として、プログラミング向上セミナーの開催や問題解決の助言などサポートを行った。	研究に向き合う楽しさを実感し、達成感を味わう事ができた卒業研究になった。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	経営学部	職名	教授	氏名	浅沼大樹	就任年度	2020（令和2）年度
----	------	----	----	----	------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 非営利組織経営論 情報活用法Ⅱ ビジネスと情報 意思決定システム論 経営数学 ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項無し		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項無し		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項無し		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項無し		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項無し			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項無し						
【論文】						
特記事項無し						
【その他】(報告書など)						
特記事項無し						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項無し						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項無し			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項無し	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項無し	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項無し		

VI その他特記すべき事項

特記事項無し

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） オンライン授業の実施に伴い、講義ノートの内容を充実させた。Zoom をなるべく効果的に使えるよう工夫した。	オンライン環境でも学生間のコミュニケーションが円滑に進むように働きかけるべきだと強く感じたので、オン・オフ両方に対応できるよう努めたい。
（実験） 特記事項無し	
（ゼミナール・卒業研究・演習） ゼミナール：主にオンラインで行い、感染拡大防止に努めた。 卒論指導：学生のレベルに配慮しつつ、内容が充実するよう意識して指導を行った。	文章の書き方についての基本的なことをもう少しみ砕いて教える必要があると感じた。来年度はそうようにしていきたい。
（その他特記すべき事項） 特記事項無し	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	経営学部経営学科	職名	教授	氏名	李 東勲	就任年度	2008（平成 20）年度
----	----------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

学部担当科目	ビジネス演習入門、マーケティング戦略論、フレッシュマンセミナー、マーケティング基礎、流通論、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、 チャレンジゼミナール、特殊講義Ⅳ（宮城県沿岸ブロック同友会大学）
2.大学院担当科目	マーケティング論特論、外国語専門文献講読、経営学演習、マーケティング論特殊研究、
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。)	特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む）		特記事項なし
2.作成した教科書、教材、参考書		〃
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		〃
4.その他教育活動上特記すべき事項		〃

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
歴史的観点からみる海苔流通の課題	共同	2020.10.25	日本流通学会第34回全国大会	李 東勲、佐藤陽一		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018(平成 30)年度～継続中	日本流通学会国際交流会委員
2021（令和 3）年 4 月	日本流通学会関東甲信越部会幹事
2012(平成 24)年度～継続中	旧北上川水面利用者協議会 委員長
【その他研究活動上特記すべき事項】 東松島市の主要産業の一つである海苔養殖業は、東日本大震災の復旧までの間に従前の販路を失った影響で、収益性については大震災から 10 年が経過した現在も伸び悩んでいる。さらに、近年食の簡便化や即食化が進んだことで、少量多品種型へと選択が広がり、消費者の低価格志向と高品質高付加価値化への両極分化が追い討ちをかけている。 そこで、東松島市の特産品である「海苔」の魅力を分かりやすくかつ明確に形成し、東松島市だけではなく、国内外に「東松島産海苔の良さ・魅力を広める」ことを達成するために、新製品として「梅海苔ペースト」の開発を東松島市の海苔養殖業者と地元の飲食店経営者とともに取り組み、2020 年 12 月 11 日にプロットタイプを完成させた。 また、2020 年 10 月 25 日に開催された第 34 回日本流通学会全国大会で、大衆食材ともいえる「海苔」を研究対象とし、歴史的な観点から海苔の流通システムの成立と発展段階において発生した諸問題について考察・報告した。そして、今後の海苔生産と流通に関する課題は海苔生産者、系統の団体は本来の機能、能力を確認し、流通市場の開拓、市場形成、加工技術、製品の開発に自己の機能の拡大であることを明らかにした。	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2019(令和元)年 4 月～2020(令和 2)年 3 月	開放センター長	
2017 年(平成 29)年 4 月～2020(令和 2)年 3 月	学生部委員	
2019(令和元)年 4 月～継続中	図書館委員会委員	

VI その他特記すべき事項

--

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 担当科目は、「マーケティング基礎」、「マーケティング戦略論」、「特殊講義Ⅳ」、「流通論」および「ビジネス演習入門」、「フレッシュマンセミナー」である。 「マーケティング基礎」では、マーケティングの基礎知識を教授しながら、なぜ企業や組織においてマーケティング戦略が必要であるか、すなわち企業経営におけるマーケティングの役割を理解するように指導している。 「マーケティング戦略論」では、マーケティング基礎の基礎概念を踏まえながら、個別企業視点からマーケティング戦略の根幹をなす「マーケティングの4Ps」について説明するとともに、事業経営や現代社会における適応方法について教授を行っている。 「流通論」では、商品とサービスの生産から消費に至る流通の仕組みについて解説し、生産者、卸売業者、小売業者のそれぞれのマーケティング戦略について考察しながら、我々の多様で豊かな生活を支える流通の役割と諸機能について教授している。 「特殊講義Ⅳ（宮城県沿岸ブロック同友会大学）」は、宮城県中小企業家同友会沿岸ブロック同友会大学の協力の下、リーダーの「先見性と使命感、決断力」、そして構成員の「コミュニケーション力や問題発見・解決能力、論理的思考力」などを養成することを目的に、産学連携で授業を展開している。 「ビジネス演習入門」は、社会に出てから必要とされるコミュニケーション能力や課題発見・解決能力・論理的思考力などを身に付けるために、企業が新入社員に課するような実践的なテーマで授業を展開している。 「フレッシュマンセミナー」では、30代になった時、常に目標を更新しつつ、生涯にわたって学び続け、自分らしく社会責任を果たして働ける人の育成を目標に、習得すべき読む力、書く力、発想する力といった学習スキルの修得と、他者との関わりの中で汎用的な能力の向上を目指して教えている。	2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って Zoom や Microsoft Teams などを活用した非対面授業を行った。最初の頃は慣れない環境下で、その都度、履修している学生らにその日の講義内容は理解しやすかったか、そして講義のスピードはどうだったかを確認しながら、工夫を凝らして授業を展開した。しかし、画面越しでは履修学生らの意見に基づいた双方向の講義は困難であった。 そこで、本学部の山崎泰央先生を中心に、「オンライン授業研究会」を立ち上げ、様々な方法を勉強しながら、実践的に活用した。例えば、「ビジネス演習入門」では Zoom や Microsoft Teams のマニュアルを作成・配布し、履修学生が無理なく授業に参加できるように配慮した。また、個人で発表動画を撮影して皆が閲覧し、コメントする「Flipgrid」を用いて非対面でありながら、双方向の講義を試みた。その結果、個性豊かな発表動画をアップロードする学生も多く、プレゼンテーション用としては有効であったと思われる。ところが、先生からの問いかけに対する返答、またな学生からの質問は依然として消極的である。今後は、「質問ボード・Trello」を周知して、自ら問題意識を持って積極的に講義に参加するように指導する予定である。 今後も受講生が理解力を高め、他人の前でしっかり自分の意見を分かりやすく論理的に発言する力を身に付けることを目標として、これからも1人でも多くの学生が自信を持って自分の意見を言えるように事例を取り上げながら丁寧に教授していきたい。
（実験） 特記事項なし	

(ゼミナール・卒業研究・演習) ゼミナールでは「マーケティング」の専門知識を確実に習得するために、覚える・知る→理解する→活用・応用するという順を追って展開している。これは、2006(平成 18)年経済産業省によって定義されている「社会人基礎力」、すなわち前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を養成するためでもある。	
(その他特記すべき事項) 特記事項なし	

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020（令和2）年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	大坂 良宏	就任年度	2000(平成12)年度
----	-----------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 財務管理論、財務管理論Ⅰ・Ⅱ、企業論、企業論Ⅰ・Ⅱ、ゼミナールⅢ、テーマ演習Ⅱ
2.大学院担当科目 財務管理論特論、財務管理論特殊研究、企業論特論、企業論特殊研究
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 協同組合秋田市民市場セミナー	2020（令和2） 年10月6日	協同組合秋田市民市場 演題「税制改革とインボイス制度への対応」
秋田県中小企業団体中央会セミナー	2021（令和3） 年3月2日	秋田県中小企業団体中央会 演題「組合の税務会計と租税優遇措置の活用」

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
「コロナ禍における中小企業支援運動」	単著	2020(令和2年) 7月18日	日本中小企業ベンチャービジネスコンソ ーシアム			

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020(令和2)年4月1日~3月31日	石巻市コンプライアンス委員会委員長
同上	中小企業ベンチャービジネスコンソーシアム副会長
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

2019（令和１）年９月１日～2020（令和２）年８月３１日 国内研究（株式会社制度の改革と企業財務の制度論的分析）
--

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） コロナ禍に見舞われたため、授業は ZOOM を通して行った。通常の対面に近い授業となるように、研究室のホワイトボードを利用し、パワーポイントを活用しながら実施した。	企業の歴史的成立過程や会社構造に起因する企業社会の問題、コーポレートガバナンスや企業と環境問題など取り扱うことから、抽象的にならないよう事例をプリントにして配布、図解によって説明を試みた。一層シンプルなパターン化を図りながら達成感を提供したい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 現実の企業社会において要求される能力は、予め用意された解答ではなく、その時々状況を分析把握しながら最適解を導き出すところにある。ゼミナールにおいては、試行錯誤を繰り返しながら持てる力を出し合い、議論を上手く積み上げられるよう環境づくりにつとめ、課題解決型の演習を実施した。	予め報告者、質問者、司会の役割を決めておき、それを交互に務めることによって、課題に対する取り組みがさらに深化できてきたように思う。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	岡野知子	就任年度	2002（平成 14 年度）
----	-----------	----	----	----	------	------	----------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 税務会計Ⅰ 税務会計Ⅱ 税法 税法Ⅰ 税法Ⅱ ゼミナールⅠ・ゼミナールⅡ・ゼミナールⅢ
2.大学院担当科目 租税法特論 会計学演習
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 租税法特講Ⅰ 租税法特講Ⅱ 租税法演習 研究科論文指導（東北学院大学大学院 経営学研究科）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2015 年 1 月～現在	日本会計教育研究学会（理事）
2020 年 4 月～現在	日本会計研究学会東北部会部会長
2020 年 7 月～2020 年 10 月	宮城県土木部指定管理者選定委員会委員（副委員長）
2020 年 7 月～2020 年 10 月	石巻南浜津波復興記念公園指定管理者選定委員会委員 5
2020 年 7 月～2020 年 11 月	石巻行財政推進委員会委員（委員長）
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020 年 4 月～2021 年 3 月	開放センター委員	
2020 年 4 月～2021 年 3 月	経営学研究科資格審査委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）コロナ禍のなかでのオンライン授業として、税法および税務会計の授業については Zoom、コースパワーを使用して対面授業に近い形で実施した。Zoom 上においては、学生に声をだして質問に答えること、チャットを使い学生同士意見交換する等工夫をした。コースパワーでは事前学習と事後学習に利活用し、レポート等の提出、授業のレジュメ等の提示をおこなった。	今後オンラインが利用される授業においては、グループワークにブレイクアウトセッションを利用できるよう工夫していきたい。教員の Zoom 等の利用方法が未熟な点を改善していきたい。対面授業では、感染対策を考えながら、学生の考える力を醸成し、学生自らが考えを発信できる能力をつけるよう課題提案・解決型の授業を行っていく。理論と実務の両面を理解すること、考えたことを実現する学生の育成を目標とする。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習）ゼミナールでは、Zoom でグループアウトセッションを利用し学生同士で簿記のグループ学習等をおこなった。また、税法ではグループごとにパワーポイントを作成し画面共有しながらゼミ生同士ディスカッションをおこなった。	ディスカッションでは、特定の学生のみが参加する場合が多かったように思われるので、全員参加できるよう工夫していく。対面授業となれば多くの学生のディスカッションへの参加が期待できるが、コロナ禍でのグループ学習のあり方の工夫が必要となってくる。
（その他特記すべき事項） ゼミナールの学生（3 年生）が税理士試験科目合格（2 科目）した。1 年次から税理士等の職業会計人の仕事内容についてゼミで話してきたこともよかったのではないかと考えている。特に当該学生と税理士について話し合う時間が多かったので難関国家試験チャレンジへつながったのではないかなと思う。	今後も多くの学生に検定試験、国家試験にチャレンジするよう、相談・指導を徹底していきたい。

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	佐々木 万亀夫	就任年度	1990(平成2)年度
----	-----------	----	----	----	---------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 ビジネスと情報、情報活用法Ⅰ、情報システム演習、情報システム演習Ⅰ・Ⅱ、情報システム管理論、ネットワーク管理論、フレッシュマンセミナー（再）、ゼミナールⅠ、テーマ演習Ⅰ・Ⅱ
2.大学院担当科目 経営情報論特論、情報資源管理論特論、情報資源管理論特殊研究、経営情報学演習（修士課程および博士後期課程）、外国語専門文献研究
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 情報活用法Ⅱ（石巻専修大学人間学部）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017(平成 29)年度～継続中	宮城県石巻商業高等学校評議員
2017(平成 29)年度～継続中	石巻市国民健康保険運営協議会委員
2017(平成 29)年 11 月 1 日～継続中	石巻市市民公益活動推進委員会委員（会長）
2017(平成 29)年度～継続中	特定非営利活動法人いしのまきNPOセンター理事
2017(平成 29)年 9 月 25 日～継続中	公益社団法人みらいサポート石巻顧問
2019(令和元)年 5 月 30 日～継続中	石巻市旧北上川堤防利活用協議会委員（座長）
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017(平成 29)年度～継続中	大学院委員会委員	
2017(平成 29)年度～継続中	石巻専修大学学部長会・大学院委員会合同委員会委員	
2017(平成 29)年度～継続中	大学院入学試験委員会委員	
2017(平成 29)年度～継続中	日本学生支援機構学資金返還免除者学内選考委員会委員	
2017(平成 29)年度～継続中	教員資格審査委員会委員	
2017(平成 29)年度～継続中	大学院資格審査委員会委員	
2017(平成 29)年度～継続中	石巻専修大学研究推進委員会委員	
2019(令和 1)年度～2020(令和 2)年度	経営学科主任教授	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 従来は、表・図・写真などを多く授業で活用するため、プロジェクターを用いてスクリーンに投影しての説明が多かった。今年度は非対面授業であったので、コースパワー上に掲載する資料の内容を昨年度までの配布資料より丁寧に作成した。結果として、例年より授業評価アンケートのスコアが良かった。また、例年通りに、授業の理解度を向上させるため毎回小テストを行っている。	以前は一方通行の授業になっているとの指摘があったが、昨年度は無くなった。今年度は、作成・配布した資料への学生からの好意的なコメントがあり、授業評価アンケートのスコアも向上している。次年度以降は、更に資料の内容や説明を充実しようと考えている。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 2020(令和2)年度のゼミナールおよびテーマ演習では、非対面授業が中心であったため教室での知識修得および課題演習（プレゼンも含む）に終始した	ゼミナールおよびテーマ演習所属の全員が硬式野球部などの体育会系の部活動に入部しているゼミ生がほとんどであるので、対面授業であっても学外の活動のスケジュール調整は困難である。今後は、対面授業・非対面授業にかかわらず学内でのアクティブラーニングを充実する方向に進めたいと思う。
（その他特記すべき事項） 入学前教育の講師として数学の課題の解説を行った。Zoom のホワイトボード機能とペンタブレットを用いて、数式や図形の説明を行った。	ほとんど問題なく授業を行なえたと評価できるが、漢字などの文字の記述にやや難があった。もし非対面授業を行う場合、数学の演習でも同様の機能を利用するので、スキルの向上を図りたい。

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	庄子真岐	就任年度	2010（平成22）年度
----	-----------	----	----	----	------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 地理学、都市論、都市と農村、国際経営論Ⅰ、国際経営論Ⅱ、地域経営論、観光学、地域観光論、観光まちづくり論、アートマネジメント、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、人間文化演習Ⅰ・Ⅱ
2.大学院担当科目 地域経営論特論、国際経営論特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 観光地理（宮城学院女子大学）、地域交流論（宮城大学）、観光ビジネス論（宮城大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
アフターコロナを見据えたウィズコロナ 時代の観光	単独	2021 年 1 月	現代経営研究学会			
総合芸術祭における地域との協働に関す る一考察	共同	2020 年 12 月	日本観光研究学会東北支部会	遠藤なぎさ、 <u>庄子真岐</u>		
コロナ禍の中の修学旅行と震災学習	共同	2020 年 12 月	日本観光研究学会東北支部会	宮原育子、 <u>庄子真岐</u>		
新型コロナウイルスの影響による観光の動向と石巻地域の 課題 (講演)	単独	2020 年 6 月	第 2 回みやぎ観光振興会議石巻圏域会議			
石巻地域が目指す適疎な観光とは (講演)	単独	2020 年 11 月	石巻地域観光フォーラム			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動 (芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2016（平成 28）年 2 月～	宮城県農村振興施策検討委員会委員
2016（平成 28）年 2 月～	みやぎグリーンツーリズムアドバイザー
2018（平成 30）年 4 月～	仙台市総合計画審議会委員
2018（平成 30）年 4 月～	宮城県行政評価委員会部会委員
2020（令和 2）年 4 月～	仙台市公共事業再評価監視委員会委員
2020（令和 2）年 4 月～	仙台市指定管理者選定委員会委員
2020（令和 2）年 4 月～	全国都市緑化仙台フェア基本構想懇談会委員
2021（令和 3）年 3 月～	仙台市勾当台公園再整備検討懇話会委員
2020（令和 2）年 4 月～	みやぎ観光振興会議石巻圏域会議委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018 年度～	教務委員	
2019 年度	経営学部新学科準備部会 部会長	
2019 年度～	IR 推進委員会 委員長	
2020 年度	石巻専修大学「中長期ビジョン」行動計画策定プロジェクト	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 双方向型授業の実践 ・課題レポートの提出、採点・返却、講義内での解説と前回内容の振り返り	前期に実施した「地理学」「観光学」「地域経営論」「国際経営論Ⅰ」については、オンデマンド型の講義であった。講義の重要論点について課題を提出してもらい、その内容を振り返ったが、理解度が図れないところもあった。そのため、後期に実施した「観光まちづくり論」「都市論・都市と農村」「アートマネジメント」においては、リアルタイム型のオンライン講義を展開した。講義中にも理解度を確認するため、簡単な問いを用意し、オンライン上で回答をもらうなどの工夫を凝らした。また、講義内容を復習できるよう講義を録画、1週間ほど講義内容を確認できる環境を整えた。また、講義内、チャット、メール、課題レポート内など質問受付のチャネルを広げた。このことで例年より多くの質問を受け付けることができ、学生の躰きや興味を把握した上で講義を組み立てることができ、学生の理解が深まった。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） ・以下の実践的なプロジェクトプロジェクトに取り組んだ。 リボン・アート・フェスティバル 情報発信 （石巻専修大学庄子ゼミ生がつぶやくリボンアートフェスティバル Facebook 週2回配信） 東日本大震災10年イベント 竹こもれびで鎮魂の祈りと感謝のメッセージ 主催 日本カーシェアリング協会、アイシン・エイ・ダブリュ株式会社提供観光案内ナビ 観光コース設定	ゼミ生は、これらのプロジェクトを通して、地域への理解を深めるとともに専門的な知識を活用した実践力を養うことができた。具体的には、調査スキル、マーケティング能力、プレゼンスキルの向上が図られた。また、現場で活躍されている方々と触れ合うことで社会的なマナーをも身につけさせることができたと考える。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	杉田 博	就任年度	1999（平成 11）年度
----	-----------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 経営組織論、経営管理論、ビジネス演習入門、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、特殊講義Ⅷ（データコーチング演習）
2.大学院担当科目 経営組織論特論、労務管理論特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ICT 利活用による石巻圏域中学校の部活動支援	2021(令和 3)年 3 月 18 日	ソフトバンク主催「スマートコーチ活用事例報告会」で発表
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
『フォレットの解釈学的経営思想』	単著	2021(令和 3)年 3 月 10 日	文眞堂		全 228 頁	
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
「経営方針書の有無による企業の比較分析：宮城県中小企業の事例」	共同	2021(令和 3)年 2 月 27 日	日本経営学会東北部会	工藤周平(本学) 益満環(秋田大学)		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017(平成 29)年 5 月～継続中	経営学史学会理事・東北部会長
2018(平成 30)年 9 月～継続中	経営哲学学会理事・東北部会長
2018(平成 30)年 10 月～継続中	日本マネジメント学会会報委員・北海道東北部会副部会長
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017(平成 29)年 4 月～継続中	経営学部長	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）コースパワーと Zoom を併用した。毎回、コースパワーでミニレポートの提出を求めた。	授業評価アンケートでは概ね高評価を得た。次年度は、さらに双方向型授業を展開したい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 他大学との合同研究発表会を Zoom で実施した。 9 月：2 年生主体：青森公立大学、千葉商科大学、大阪商業大学との合同（グループ研究発表） 2 月：3 年生主体：順天堂大学、朝日大学、日本女子体育大学との合同（卒論プロポーザル発表）	例年は合同での合宿を開催している。本年度はコロナ禍によりオンライン開催となった。今後は、年度内に対面/非対面の両方を取り入れるなどを検討している。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	関根 慎吾	就任年度	1993（平成5）年度
----	-----------	----	----	----	-------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 簿記基礎 ビジネスと会計 会計学 財務諸表論 コンピュータ会計 フレッシュマンセミナー ビジネス演習入門 商業科教育法
2.大学院担当科目 簿記論特論 会計学原理特論 会計学演習 簿記論特殊研究 会計学特殊研究 会計学演習
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） ・授業動画の作成公開 ・Microsoft Teams 上での授業問い合わせフォームの作成 ・予習復習教材の作成公開	2020 年 5 月 ～2021 年 1 月	・全授業について、動画を作成し、オンライン環境での学習整備を整えた。 ・受講方法の指示や、質問や意見を随時受け付けるために、授業ごとにフォームを作成し、対応した。 ・学習時間確保の観点から、授業内容に即した予習復習教材を作成し、取り組ませた。
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
『森田哲彌学説の研究』	共	2020 年 5 月	中央経済社	安藤英義・新田忠誓編著	113-131	無
【論文】						
ブロックチェーンが顕在化させる会計測定の意味	単	2020 年 8 月	森山書店『會計』第 198 巻第 2 号		14-27	無
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020 年 5 月 25 日～6 月 1 日	第 2 回石巻市総合計画審議会(書面開催)
2020 年 8 月 3 日	第 3 回石巻市総合計画審議会
2020 年 8 月 27 日	第 4 回石巻市総合計画審議会
2020 年 11 月 18 日	石巻市公務災害補償等認定委員会
2020 年 12 月 1 日	第 5 回石巻市総合計画審議会
2021 年 3 月 4 日	第 6 回石巻市総合計画審議会
2021 年 3 月 8 日	石巻市公務災害補償等認定委員会
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
令和2年4月1日	学生部委員会	継続
〃	FD委員会	継続
〃	保育士・教員養成センター委員会	継続

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） リモート授業用の動画作成 リモート授業環境下での学習時間確保のための予習復習教材の作成	動画とテキストのバージョンの不一致から受講生に混乱を招いたので点検する。 アンケート結果からは、自習時間の確保が達成できたことが確認できた。今後はより内容の精査によって、効率的な学習と学習成果の目に見える化が必要と考えている。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 商業科教育法における模擬授業をリモート環境下での実施	リモート環境下での授業体験を通じて、対面での授業方法との違いを検討する時間を確保したい。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	日野 博明	就任年度	1989(平成元)年度
----	-----------	----	----	----	-------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 プログラミング基礎、プログラミング論、プログラミング論Ⅰ、プログラミング論Ⅱ、アルゴリズム論、ビジネスシミュレーション論、データベース論、情報活用法Ⅱ、ゼミナールⅠ、テーマ演習Ⅰ、テーマ演習Ⅱ
2.大学院担当科目 シミュレーション論特論、経営統計学特論、経営情報学演習、シミュレーション論特殊研究、経営統計学特殊研究、経営情報学演習
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） アルゴリズム論で、前回の課題の解説を行った。	2019 年 9 月	課題の解説を行い、理解を深めていけるようにした。
2.作成した教科書、教材、参考書 アルゴリズム論講義プリント	2019 年 9 月	前年度から若干の見直しをした。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2016（平成28）年4月～	宮城県東松島高等学校評議員
【その他研究活動上特記すべき事項】	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017（平成29）年4月～	人を対象とする研究倫理委員会委員長	
2018（平成30）年4月～	共創研究センター運営委員運営委員	
2007（平成19）年4月～	高大接続研究事業 東松島高等学校担当	
2017（平成29）年4月～	大学院資格審査委員会委員	
2018（平成30）年4月～	情報教育研究センター委員	
2020（令和2）年4月～	石巻専修大学経営学研究編集委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 毎回、前回提出の課題レポートの解説を行い、学習成果の向上を目指した。	例題を丸写しするだけではないことに気付いた学生が見受けられた。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 新2年生に算数、数学の初歩をプリント等で確認させた。	すべての苦手意識が抜けているわけではないが、コロナの影響で自宅でのレポート作成となったため、昨年以上に取り組めるようになってきた。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	丸岡 泰	就任年度	2012（平成 24）年度
----	-----------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 いしのまき学、国際経済論、産業観光論、ゼミナール I、テーマ演習 I
2.大学院担当科目 国際比較経営論特論、開発経済論特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 国際観光（宮城学院女子大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む）		
2.作成した教科書、教材、参考書		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4.その他教育活動上特記すべき事項		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
【論文】						
【その他】(報告書など)						
丸岡泰「侍事業家による水力発電発祥の地、三居沢(仙台市)」	単著	R.03.03	CESNA『エネルギー安全保障』第3号		47-48	無
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
令和2年4月～令和3年3月	日本観光研究学会常務理事・国際委員会委員・東北支部長
令和2年4月～令和3年3月	慶長使節船ミュージアム企画運営委員会委員
令和2年4月～令和3年3月	NPO 法人北東アジアエネルギー安全保障センター（CESNA）理事
【その他研究活動上特記すべき事項】	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
令和2年4月～令和3年3月	大学院経営学研究科長	
令和2年4月～令和3年3月	経営学研究科教員資格審査委員会議長	
令和2年8月～令和3年3月	経営学研究科改善検討委員会座長	
令和2年4月～令和3年3月	経営学部教員資格審査委員会委員	
令和2年4月～令和3年3月	大学院委員会委員	
令和2年4月～令和3年3月	学部長会・大学院委員会合同委員会委員	
令和2年4月～令和3年3月	入学試験委員会委員	
令和2年4月～令和3年3月	日本学生支援機構学資金返還免除者学内選考委員会委員	
令和2年4月～令和3年3月	進学サポート奨学生選考委員会委員	
令和2年4月～令和3年3月	紀要編集委員会委員	
令和2年4月～令和3年3月	キャンパスハラスメント防止委員会委員	
令和2年4月～令和3年3月	研究活動等コンプライアンス委員会委員	

令和2年4月～令和3年3月	研究推進委員会委員	
令和2年4月～令和3年3月	学校法人専修大学個人情報保護委員会	
令和2年4月～令和3年3月	石巻専修大学創立30周年記念事業委員会委員	
令和2年4月～令和3年3月	新型コロナウイルス感染症対策本部会議委員	

VI その他特記すべき事項

--

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）新型コロナへの対応として石巻専修大学・宮城学院女子大学でリモート授業を実施した。「いのまき学」「国際経済論」「産業観光論」「国際観光」とともにICレコーダーとパワーポイントとCoursePower（宮城学院女子大はUNIPA）を使用した授業を行った。	「いのまき学」は約380名の授業であり1年生がほとんどだったため、当初の2週間に約200通のメールを学生から受信し、返信せねばならなかった。外部講師を依頼している授業のため、日程の変更を行った際の連絡と調整が大変だった。急遽授業の開始を遅らせた令和2年度に比べ、令和3年度はシラバスに遠隔を想定した授業運営方法を記載している。
（実験）	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 日本観光研究学会東北支部でゼミI学生3班が各1件、テーマ演習I学生1人が1件の計4件の発表	
（その他特記すべき事項）	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	三森敏正	就任年度	2009（平成 21）年度
----	-----------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 法と社会、法と人権、民法Ⅱ、企業組織と法、株式と法
2.大学院担当科目 会社法特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) ビジネス法規（仙台白百合女子大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
平成30年4月1日	実践経営学会理事
令和元年10月1日	専修大学緑鳳学会幹事
令和2年4月1日	石巻市情報公開・個人情報保護審査会会長
令和2年4月1日	石巻市行政不服審査会副会長
令和2年4月1日	石巻地域水道事業団情報公開・個人情報保護審査会会長
令和2年4月1日	石巻地区広域行政事務組合情報公開・個人情報保護審査会会長
令和2年9月18日	女川町情報公開・個人情報保護審査会副会長
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
令和元年4月1日	学校法人専修大学個人情報保護委員会委員	
令和2年4月1日	経営学部資格審査委員会委員	
令和2年4月1日	自己点検・評価運営委員会委員	
令和2年4月1日	経営学研究編集委員会委員	
令和2年4月1日	個人情報保護会議議長	

VI その他特記すべき事項

今年度は、緊急事態宣言、新型コロナウイルス感染症予防などのため、例年発表等を行っている研究会等が相次いで中止となり、十分な研究活動ができなかった。

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 非対面授業への準備の準備に追われる日々であった。	非対面授業であっても、対面授業と同様の満足感を学生に持たすことができるように努力したい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 前期は非対面であり、十分な教育活動ができなかったが、後期は通常の授業がほぼできたので、特段問題は無い。	特に学生から改善要望等はないので、従来通りで行いたい。
（その他特記すべき事項） 非対面授業の準備等に追われ、また、相次いで研究会、学会等が中止となり十分な研究活動ができなかった。	今年度分も次年度は教育、研究を充実させる必要がある。

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	湊 信吾	就任年度	1989（平成元）年
----	-----------	----	----	----	------	------	------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 プログラミング応用（旧カリ：情報システム演習Ⅲ）、オペレーティングシステム論、子どもとマルチメディア、情報システム設計論、マルチメディア通信論、通信ネットワーク論、ゼミナールⅠ、テーマ演習Ⅰ、テーマ演習Ⅱ （全学に関わるもの）キャリア開発 （教職に関わるもの）情報科教育法
2.大学院担当科目 情報ネットワーク論特論、情報システム構成論特論、情報ネットワーク論特殊研究、情報システム構成論特殊研究、経営情報学演習
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 人文情報処理（東北大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
COVID-19 下における情報処理授業の持続可能な 開発	単著	2021 年 3 月	石巻専修大学 経営学研究 32 巻		1 頁 - 8 頁	なし
【その他】 (報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動 (芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2007 年 4 月～	情報処理学会
2020 年 8 月、12 月、1 月	石巻市環境審議会
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018 年 4 月～	全学教務委員会委員長	
2018 年 4 月～	石巻専修大学障がい学生支援委員会委員長	
2020 年 4 月～2021 年 3 月	研究助成専門委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）コロナの影響下、すべての授業は Zoom を使ってリアルタイムで行われた。事前にテキストを公開し学生の理解を助けた。	対面の授業に比べ、メール、チャット、ズームを通じて学生からの質問が多かった。メール、チャットなどは今後の授業に取り入れていくべきだろう。 演習系の科目でソフトウェアの操作を説明することが難しい場合があった。通常はテキストで解決できるはずだが、学生が所有する PC での設定が影響している場合には問題を解決することが難しいことがわかった。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習）コロナの影響下、すべての授業は Zoom を使ってリアルタイムで行われた。次の二つの方式で行った。 ・課題を出し、期限までにレポートを受け取り、評価を行ってから Zoom を使って解説を行った。事前にテキストを公開し学生の理解を助けた。 ・学生にテーマを与え Zoom で発表を行ってもらった。それに対し、質疑応答、コメントを加えた。通常のゼミと同じような授業が行えた。	発表形式におけるゼミではほとんどの学生が出席していた。 課題を出す方式のゼミでは半分以上の学生が提出し、課題の説明において Excel を使用して説明を行うなどの工夫を加え、学生が飽きないように努力した。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	経営学部経営学科	職名	教授	氏名	茂木 克昭	就任年度	2007（平成 19）年度
----	----------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 金融論、国際金融論、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ
2.大学院担当科目 金融論特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。)

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む）		
2.作成した教科書、教材、参考書		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4.その他教育活動上特記すべき事項		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
【論文】						
【その他】（報告書など）						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
【その他研究活動上特記すべき事項】	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2019 年度～2020 年度	FD 委員会委員	
2019 年度～2020 年度	就職指導委員	
2019 年度～2020 年度	図書館委員	

VI その他特記すべき事項

--

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） コロナ禍により、授業を ZOOM を用いたウェブ授業で実施した。	対面・非対面方式のいずれのやり方でも、効果の上がる授業に取り組みたい 特に板書の見やすさを心掛けたい。
（実験）	
（ゼミナール・卒業研究・演習） コロナ禍により、ゼミナールを ZOOM を用いたウェブ授業で実施した。	対面・非対面方式のいずれのやり方でも、効果の上がる授業に取り組みたい
（その他特記すべき事項）	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	山崎 泰央	就任年度	2010 年（平成 22 年）年度
----	-----------	----	----	----	-------	------	-------------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 アントレプレナーシップ、復興ボランティア学、総合科目Ⅰ、ビジネス演習、ビジネス演習入門、フレッシュマンセミナー、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、チャレンジゼミナール、フィールドワークⅠ・Ⅱ、インターンシップ実践、経営史Ⅰ、ベンチャー経営論Ⅰ
2.大学院担当科目 経営管理論特論、経営管理論特殊研究
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 1-1 フレッシュマンセミナー 1-1-1 受講生を対象にしたオンライン環境に関する調査 1-1-2 オンライン授業相談会 1-1-3 Teams を利用したオンデマンド+リアルタイム非対面授業の実施	2020 年 4 月 20 日 2020 年 5 月 4 日～5 日 2020 年 5 月 13 日～8 月 19 日	非対面授業となったので、学生のオンライン学習環境を事前に調査し、負担岡たちの授業設計の基礎資料とした 学生のオンライン授業への不安解消のため、Teams 会議をつかった授業相談会を実施した 前期のフレッシュマンセミナーの授業はオンデマンド+リアルタイムで進行した。オンラインツールに慣れていない受講生の利便性を考えて、Teams によるワンストップサービス化を目指した。 授業のオンデマンド部分は、15～20 分程度の学習メソッドの講義動画と演習課題で構成した。リアルタイムは、グループ学習で演習の作成物を共有するために、Teams 会議を使った。

		毎回の授業の最後には、その日の目的の達成度やできたことを振り返る「リフレクションシート」を課題としていた。リフレクションシートは Teams の課題機能を使って配布するとともに、同機能にあるループリックをつかって学生に採点基準を公表していた。
1-1-4 Zoom と Teams を用いた非対面リアルタイム授業	2020 年 9 月 30 日～ 2021 年 1 月 27 日	後期のフレッシュマンセミナーは非対面リアルタイムで進行した。授業連絡、教材の配布、出席・課題の管理は、前期と同様に Teams によるワンストップサービスを提供した。さらにグループ学習の補助として、2～3 年生の学生に SA で参加して貰った。 リアルタイム授業は Zoom で実施した。授業は、その日の学習内容について話し、個人の演習の時間を取って、演習の成果物をグループで共有するというのが大まかな流れだった。 グループ学習ではブレイクアウトルーム機能を使った。グループ学習では SA と教員が手分けをして、担当するクラスとグループを決めて、机間巡回のようにブレイクアウトルームを回って、H 名試合の様子を確認した。課題については前期と同様に Teams の課題機能を使ってリフレクションシートや課題を配布するとともに、ループリックで採点をしていた。
1-1-5 授業担当者「振り返り会」の実施	2020 年 5 月 12 日～ 2021 年 1 月 27 日	フレッシュマンセミナーとビジネス演習入門では、授業終了後に一時間程度、担当教員で授業の進運営や学生の様子などを共有し、問題があれば対処について相談をしていた。フレッシュマンセミナーは後期からは SA にも参加して貰って、各々の担当したグループの様子などを共有した。 振り返りは授業が終わってから 15 分後に Zoom とオンラインホワイトボードの Jamboard を使って実施していた。
1-1-6 対面授業における SA の活用	2020 年 9 月 30 日～ 2021 年 1 月 27 日	SA はリフレッシュマンセミナーのグループ学習の局面で、特に力を発揮した。ブレイクアウトルーム数が増えると、ブレイクアウトルームの巡回が行き届かなくなるが、SA が分担して担当してくれたので、ルームの巡回をもれなくできた。

1-1-7 復興ボランティア学のオンデマンド授業による実施	2020年5月12日～8月18日	復興ボランティア学は復興支援に関連する組織のリーダーによる講義を10回設定していた。担当講師には対面か非対面かわからない状況の時から、講義動画を収録し提供可能かどうか打診をしていた。非対面授業化の決定後、動画収録は不可能と答えた講師については、過去の収録動画の利用許可を取り、動画を授業用に編集した。 授業はオンデマンドで進行した。オンラインツールに慣れていない受講生の利便性を考えて、Teamsによるワンストップサービス化を目指した。 オンデマンドであっても授業時間中に受講する習慣をつくるために、最初の5回の授業までは、授業の始まりと終わりに Teams 会議を使ってリアルタイムで解説やまとめをおこなった。その他にも、授業に関する質問やトラブルシューティング専用のチャンネルを設けて、それらへの対応を一元的にできるようにした。
1-1-8 非対面授業におけるアクティブラーニングの実施	2020年9月29日～2021年1月26日	アントレプレナーシップは非対面リアルタイム授業で実施した。授業は Zoom で実施し、授業に関する連絡や資料の配付は Teams でおこなった。例年は対面授業なので、グループ学習では毎時間、グループ討議と発表を繰り返していた。オンランの場合でも、ほぼ同じような方法で授業ができるように工夫した。 授業全体の構成から考え直した。最初にオンラインでも使える、話し合うための「共通言語」的な方法が必要だと考えた。そこで「教育のための TOC」のメソッドの1つ「ロジック・ブランチ」を採用した。ロジックブランチは箱と矢印を使った単純な方法で、論理や思考をロジカルに組み立てることができるので、オンラインであっても議論を「見える化」できると考えた。
1-1-9 ゼミナール活動におけるオンラインワークショップの開発と実施	2020年4月16日～	山崎ゼミが全国の大学等で開催してきた「復興ボランティア学ワークショップ」は、感染症対策のため実施が不可能となった。ワークショップ活動

		を継続するために、1年間かけてオンラインワークショップを構築した。 前期はファシリテーションについて学ぶと共に、フューチャーセッションで用いられる手法をオンラインに移植する実験をした。 後期は、前期で学んだことを活かして、オンラインワークショップの開発を行った。 「フィッシュボウル」を使ったワークショップは、Jamboard を利用して、山崎ゼミが独自にオンラインに移植した方法を用いた。この方法で、2020年9月5日、12月5日、12月12日に「コロナ後の大学の未来を考える」オンラインワークショップを実施した。 「ストーリー・リーディング」は、復興ボランティア学ワークショップの第二部をオンライン版に移植した。このワークショップは「被災地から未災地へ伝えたいこと～復興ボランティア学オンラインワークショップ」として2021年1月23日と3月13日に実施した。
1-1-10 Teams「オンライン授業研究会」の開設	2020年5月3日～9月9日	遠隔授業について、1人で考えていても大変なので、お互いの取り組み、授業レポート、困りごとなどを共有する場を Teams 上につくり、経営学部教員に呼びかけた。非対面授業について手に入れた有用な情報や、実践してよかったことなどを投稿し、情報提供をした。
1-1-11 復興ボランティア学アーカイブ用サイトの開設	2020年11月8日～	8年間継続してきた復興ボランティア学について、より多くの人に知ってもらうため、アーカイブサイトを開設した。
2.作成した教科書、教材、参考書		
2-1 学生用授業教材		
フレッシュマンセミナー「学修ハンドブック」の監修	2020年5月19日	協力企業のアルマクリエーション社の石ヶ森氏が作成した、フレッシュマンセミナーで学習する4つの学習メソッドの解説をまとめたハンドブックを、本学の学生に適合するように内容を監修し、学生に提供できる形に編集した。
フレッシュマンセミナー「Read For Action 読書」授業スライドオンライン版	2020年6月30日	対面授業で使っていた Read For Action 読書のグループ学習授業用スライドをオンライン用に改編した。
フレッシュマンセミナー「前祝いの法則」スライド及び「未来インタビューシー	2020年10月6日	

ト」の作成 ビジネス演習入門「Flipgrid 投稿マニュアル」の作成	2020 年 8 月 17 日	対面授業で使っていた「前祝いの法則」授業用スライドおよび、同授業で使う「未来インタビューシート」をオンライン用に改編した。 「自分プロジェクト宣言」動画を学生に投稿して貰うために、教育用動画投稿ツール Flipgrid への動画投稿および動画へのコメントをつける方法をマニュアルにまとめ、提供した。
アントレプレナーシップ「ロジカルシンキング 1～3」スライドの作成	2020 年 10 月 2 日～ 10 月 20 日	教育のための TOC メソッドの「ロジック・ブランチ」と「CLR」について授業用スライドを作成し、学生に提供した。
2-2 動画教材 2-2-1 作成した動画教材		
ビジネス演習入門「ガイダンス」動画	2020 年 5 月 11 日	ビジネス演習入門の目的、進め方を解説
ビジネス演習入門「授業で使う Teams」動画	2020 年 5 月 11 日	授業で使う Teams のチャネルの使い方を解説
フレッシュマンセミナー「ガイダンス 1,2」動画	2020 年 5 月 13 日	フレッシュマンセミナーの目的、進め方を解説
フレッシュマンセミナー「マインドマップ実演」復習用動画	2020 年 5 月 24 日	マインドマップでインタビューのライブ作成動画を復習用に制作
フレッシュマンセミナー「ポジティブな噂話」復習用動画	2020 年 9 月 30 日	自己理解のためのワーク「ポジティブな噂話」の復習用動画
フレッシュマンセミナー「フューチャーマッピング」復習用動画	2020 年 10 月 14 日	「フューチャーマッピング」実践編の復習用動画
フレッシュマンセミナー「Read For Action 読書法」復習用動画	2020 年 10 月 21 日	「Read For Action 読書」実践編の復習用動画
フレッシュマンセミナー「エンパシーライティング」復習用動画	2020 年 10 月 29 日	「エンパシーライティング」実践編の復習用動画
フレッシュマンセミナー特別講演「質問型コミュニケーション」復習用動画	2020 年 11 月 11 日	青木毅氏のオンライン講演収録動画を編集し復習用に提供
アントレプレナーシップ「ロジカルシンキング 1～3」復習用動画	2020 年 10 月 6 日～ 2020 年 10 月 20 日	教育のための TOC の手法の復習用動画
復興ボランティア学「ガイダンス」動画	2020 年 5 月 12 日	復興ボランティアの目的、進め方を解説
復興ボランティア学「オンライン授業の進め方」動画	2020 年 5 月 12 日	復興ボランティアのオンライン授業進め方を解説
復興ボランティア学「これまでと学生たちの復興支援活動」動画	2020 年 5 月 18 日	2014 年当時の本学学生による復興支援活動の紹介
復興ボランティア学「変わりゆく復興 1」動画	2020 年 6 月 23 日	「つむぎや」の動画を使って課題用動画を作成
復興ボランティア学「変わりゆく復興 2」動画	2020 年 7 月 21 日	収録した子供支援者座談会を課題用に編集
復興ボランティア学「私たちのできること」動画	2020 年 8 月 18 日	講座のまとめと最終課題について動画で解説

2-2-2 監修した動画教材		
フレッシュマンセミナー「マインドマップ Part1~6」動画	2020年5月24日～5月28日	マインドマップの指導用動画の内容構成をアルマクリエイションの石ヶ森氏とともに監修
フレッシュマンセミナー「Read For Action 読書 Part1~4」動画	2020年6月11日～6月20日	Read For Action 読書の指導用動画の内容構成をアルマクリエイションの石ヶ森氏とともに監修
フレッシュマンセミナー「フューチャーマッピング Part1~8」動画	2020年7月6日～7月27日	フューチャーマッピングの指導用動画の内容構成をアルマクリエイションの石ヶ森氏とともに監修
フレッシュマンセミナー「エンパシーライティング Part1~4」動画	2020年8月5日～8月12日	エンパシーライティングの指導用動画の内容構成をアルマクリエイションの石ヶ森氏とともに監修
2-2-3 編集および配信最適化した動画教材		
復興ボランティア学「石巻市社会福祉協議会」授業用動画	2020年5月26日	過去の年度の授業の収録動画を事業用に再編集し、配信用に最適化
復興ボランティア学「チーム王冠」授業用動画	2020年6月2日	提供された動画を授業に適した形に編集し、配信用に最適化
復興ボランティア学「311 みらいサポート」授業用動画	2020年6月9日	リアルタイムのオンライン授業を復習用に編集し、配信用に最適化
復興ボランティア学「あしなが育英会」授業用動画	2020年6月16日	提供された動画を授業に適した形に編集し、配信用に最適化
復興ボランティア学「にじいろクレヨン」授業用動画	2020年6月30日	事前に Zoo で収録した動画を授業に適した形に編集し、配信用に最適化
復興ボランティア学「プレーワーカーズ」授業用動画	2020年7月7日	提供された動画を授業に適した形に編集し、配信用に最適化
復興ボランティア学「コドモ・ワカモノまち ing」授業用動画	2020年7月14日	提供された動画を授業に適した形に編集し、配信用に最適化
復興ボランティア学「ビヨンド and HOYA PAI」授業用動画	2020年7月28日	過去の年度の授業の収録動画を事業用に再編集し、配信用に最適化
復興ボランティア学「荒浜のめぐみキッチン」授業用動画	2020年8月4日	提供された動画を授業に適した形に編集し、配信用に最適化
復興ボランティア学「3.11 メモリアルネットワーク」授業用動画	2020年8月11日	提供された動画を授業に適した形に編集し、配信用に最適化
2-3 教員用教材		
Zoom ブレイクアウトルーム事前割当マニュアルの作成	2020年6月2日	Zoomのブレイクアウトルームの使い方と事前割当のやり方についてマニュアルにまとめ、授業で活用した。
フレッシュマンセミナー「クラスデザインシート」	2020年9月13日～11月3日	フレッシュマンセミナーは複数教員で担当するため、オンライン授業の内容とタイムスケジュールを事前に周知するために作成
オンライン授業チェックリスト	2020年11月4日	オンライン授業を実施する際に必要なチェックポイントをリスト化した

3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 IK 報告会「高大の連続性を確保するアクティブラーニング手法の調査研究」	2020 年 10 月 7 日	県立高校での探究授業と、第 3 回アクティブラーニングフォーラムの取り組みと成果について報告をした。
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
インタラクティブ・ティーチング 実践編 1 学び を促す授業設計・クラスデザインの作法と事例集	共著	2021 年 3 月	河合出版	中村 長史、栗田 佳代 子 編著	61～67 頁	無
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
その「起業支援」はうまくいかない 創業者を本気で育てよ	単著	2021 年 2 月	Wedge 3 月号 (33 巻 3 号)		40～43 頁	無
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2015（平成 27）年 7 月～	宮城連携復興センター理事
2016（平成 28）年 1 月～	移動支援 Rera 理事
2019（令和元）年 9 月～	地域活性学会理事
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

Ⅴ 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020 年 4 月～2021 年 3 月	図書館委員会委員	

Ⅵ その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 今期はオンライン授業となったが、オンラインのメリットを活かした授業づくりができた。	対面授業となっても、オンライン授業で培ったスキルを活用し、ICT の利用をすすめていく。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） オンラインであっても、状況に応じて最善の方法をとることができた。	対面授業となっても、オンライン授業で培ったスキルを活用し、ICT の利用をすすめていく。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	工藤 周平	就任年度	2015（平成27）年度
----	-----------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 企業組織とマネジメント、フレッシュマンセミナー、経営戦略論、経営戦略論Ⅰ・Ⅱ、生産管理論Ⅰ・Ⅱ、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ
2.大学院担当科目 経営学特論、経営学演習
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 工藤周平『基礎からの経営学（第3章全社戦略）』見吉英彦（編）みらい。	2020（令和2）年4月1日	経営戦略論の1つの領域である全社戦略に関する基本事項について教科書を執筆し、その教材を企業組織とマネジメントや経営戦略論の授業科目で使用した。学生は予習や復習、全社戦略について思考を発展させる際の拠り所として教科書を使用した。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 Kudo, S., "ICT Human Resource Development for New Business Model," <i>International Webinar</i> , STEKOM University.	2021（令和3）年3月12日	ビジネスの発展に資するICT人材をどのように教育・育成していくのかについて石巻専修大学で実施している課外活動や企業の取り組みについて国際ウェビナーで講演を行った。発表を基に質疑応答が行われ、ビジネスのためのICT人材育成について考えを深めた。
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
『基礎からの経営学』（第3章全社戦略）	共著	2020（令和2）年4月	みらい	見吉英彦（編者）	51～67	
【論文】						
レゴマインドストーム EV3 を用いたプログラミング教材の開発	単著	2021（令和3）年3月	石巻専修大学研究紀要（第32号）		121～130	無
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
経営方針書の有無による企業の比較分析：宮城県 中小企業の事例	共同	2021年2月	日本経営学会東北部会	工藤周平（本人）、益満 環、杉田博		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020（令和2）年4月1日～2021（令和3）年3月31日	令和2年度 復興庁クラウドファンディング支援事業外部審査委員
2018（平成30）年7月1日～2021（令和3）年3月31日	石巻地方広域水道企業団経営審議会委員
2018（平成30）年11月1日～2021（令和3）年3月31日	石巻市病院運営審議会委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020（令和2）年4月1日～2021（令和3）年3月31日	経営学部教務委員長	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） （１）マインドマップやフューチャーマッピングを導入し、アクティブラーニングによる学習成果の向上を目指した （２）日本を中心とする代表的な企業の事例を活用するということや、極力最新の企業の取り組みを紹介しながら基礎的な経営学の理論を説明することを心がけた （３）授業科目について最低限知っていなければならない知識を示した配布資料をパワーポイントで作成し、さらに考えを発展させるための課題を課すことで授業の学びを深めることを心がけた	非対面授業が中心であったため、アクティブラーニングによる学習効果は低かったと考える。次年度の対面授業ではアクティブラーニングを通じて学習効果を上げることを目指す。基礎的な経営学の理論を説明し、学生の課題を確認したが、非対面授業であったため、教室で学生とコミュニケーションをとりながら授業を進めるということができなかった。次年度は学生とコミュニケーションをとりながら、授業中に単にこちらから説明するだけでなく教室で学生が自発的に考えながら授業を受けられるように工夫したい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） （１）ゼミナールでは、経営戦略の基礎的な枠組みを説明しながら、それら枠組みを用いて地域の問題や自分の興味のある経営現象について分析できるように指導を行った （２）ゼミナールでの教育研究活動では、企業経営における情報通信技術の活用に関心をもち、富士通コンピュータテクノロジーズ社の OB で構成される家族ロボット教室の会との高大産連携プロジェクトを想定して、ロボットの操作やプログラミングの方法について学習した （３）ゼミナールで、調査したことを実際にパワーポイントにまとめて発表してもらい、またレポートや卒業論文を作成する際の基本的な流れや注意事項の説明を行いながら、プレゼンテーションや卒業論文作成のための作法について指導を行った	学生の毎回の発表状況から、プレゼンテーション資料のデザインや内容について学生の能力が高まったと考えている。またレポートの内容も指導前よりも改善されたものが提出されていた。卒業論文もある程度の分量を書くことを指導し、またまとめかたの指導を行うなどして、学生が課題についての調査する能力を身に付けた。しかしながら、Zoom を使ったリアルタイムの非対面授業が中心であったため直接的なコミュニケーションを十分行うことができなかった。次年度は、対面授業を中心に学生とコミュニケーションをとり、学生の様子を確認しながらゼミナールや卒業研究の指導を行う。
（その他特記すべき事項） （１）専修大学北上高等学校にて高大接続授業を行った。 （２）石巻商業高等学校にて高校生に対して模擬授業を行った。 （３）石巻専修大学にて石巻市立桜坂高等学校の体験授業を行った。	高校生を対象にしていることから、高校生にとって身近でイメージしやすい情報マネジメントの領域の事例を取り上げるように工夫した。難しい数式や理論の説明は避け、最近注目されている ICT を活用した新しいビジネスの事例を平易な表現で説明できた。

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	准教授	氏名	関口 駿輔	就任年度	2015（平成 27）年度
----	-----------	----	-----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 経済と社会、経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、経済理論、経済学入門、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ
2.大学院担当科目 企業経済学特論、経営学演習
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） Teams 及び Zoom を利用して、常時質問を受けられるようにした。	2020（令和 2） 年度	
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 2020（令和 2）年度公共選択学会学生の集いに引率	2020（令和 2） 年 12 月	全国約 30 のゼミナールが参加する論文発表討論会にゼミ生を引率した。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
区域別地方行政サービス停止基準の試案～東北6 県の基礎自治体歳出に着目して	単著	2020（令和 2）年3月	公共選択 第75巻			招待
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020（令和2）年度	日本計画行政学会論文審査小委員会幹事
2020（令和2）年度	日本計画行政学会学術賞幹事
2020（令和2）年度	日本公共選択学会幹事
2020（令和2）年度	石巻市都市計画審議会委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 公益財団法人栢森情報科学振興財団研究助成（100万円）、公益信託山田学術研究奨励基金（50万円）	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020（令和2）年度	経営学部教務委員、ホームページ委員長、共創研究センター委員、留学生担任	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） Teams 及び Zoom を利用して、常時質問が受けられるようにした。	質問から回答までの時間をさらに短くするよう努力する。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 公共選択学会学生の集いに参加	最優秀賞や優秀賞を受賞できるよう、事前の研究指導を徹底する。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	准教授	氏名	田村 真介	就任年度	2008（平成 20）年度
----	-----------	----	-----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 管理会計論、原価計算論、経営分析、商業簿記、フレッシュマンセミナー、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、ゼミナールⅢ
2.大学院担当科目 管理会計論特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 令和 2 年度授業研究会	2021(令和 3)年 1 月 14 日	非対面で授業を実施した管理会計論における工夫や留意している点について発表した。
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020(令和2)年5月～2021(令和3)年3月	石巻市行財政改革推進委員会
2020(令和2)年4月～	日本会計研究学会東北部会事務局
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020(令和 2)年度	教務委員会委員	
2020(令和 2)年度	入試委員会委員	
2020(令和 2)年度	国際交流センター運営委員会委員	
2020(令和 2)年度	高大接続研究事業担当（石巻商業）	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） (1) 管理会計論：オンデマンド型の授業形態を取り、配布資料をもとに各自で進めてもらう形とした。 (2) 原価計算論：Zoom によるオンライン形式で授業を実施した。 (3) 商業簿記：Zoom によるオンライン形式で授業を実施した。	(1) 授業アンケートの結果、資料の読みやすさが平均点以下であった。配布資料の読みやすさは授業内容の理解に影響を及ぼしたと考えられるため、文章量（不必要な部分がなかったかどうか）や図の見やすさなどを工夫したい。 (2) 対面授業時に実施していたグループワークをオンライン上で再現できなかったため、グループワークを実施しなかった。オンラインに対応したグループワークを検討したい。 (3) 対面授業時に実施していたグループワークを個人用に組み替えて対応したため、グループワークを実施しなかった。オンラインに対応したグループワークを検討したい。
（実験）	
（ゼミナール・卒業研究・演習） ゼミナールではプレゼン力、調べる力、考え抜く力、チーム力を養うことに重点を置いている。ゼミナールのテーマである管理会計を学ぶにあたっては、管理会計の対象となる企業の経済的事象に対する各ゼミ生の関心に基づいて掘り下げることができるようにしている。また、岡野ゼミナールと合同で、簿記能力の向上と日商簿記検定の合格者を増やすことを目指して、日商簿記検定合格プロジェクトを実施している。	ゼミナールのほとんどはオンラインで実施した。チームで動く体制づくりが不十分であったため、チーム活動の機会が少なくなってしまった。オンライン上でのチーム活動の改善を図りたい。合同ゼミナールでは日商簿記検定 3 級の合格者を輩出している。プロジェクトにおいて簿記の学び方を経験しているため、プロジェクト外においても検定合格を目指して自学を進めることができている。ゼミナールと同様にオンライン形式であったが、少

	人数チームを編成し、Zoom のブレイクアウトルーム等を活用することでオンライン上でも学び合いが行える場を提供することができた。
(その他特記すべき事項) (1) 専大北上高校高大連携授業で第 2 回授業を担当した (2020 年 8 月 26 日)。 (2) 桜坂高校体験授業を担当した (2020 年 10 月 28 日)。 (3) 令和 2 年度高大連携事業での石巻専修大学経営学部授業およびゼミナール体験について商業科 1・2 年生・普通科 2 年生を対象に実施した (2020 年 12 月 1 日)。 (4) 専修大学北上高校で 1 年生を対象にオンライン (Zoom) で出前授業を行った (2021 年 2 月 5 日)。 (5) 石巻商業高校で 2 年生を対象に令和 3 年度に向けた高大接続研究事業 (単位認定講義のガイダンス) を行った (2021 年 3 月 9 日)。	(1) 会計の初学者に、情報をつくり出し、活用する会計の重要性が伝わるように、会計 (原価計算) を題材としたグループワークを中心に授業を実施した。その重要性について現在社会で行っていることと関連付けて考えるまでには至らなかったため、今後は取り入れたい。 (2) 実在する企業の活動を題材にクイズ形式でビジネスを学べる内容としたが、本学の学びとの関連性をよりもたせるべきであった。 (3) 授業体験では管理会計と税務会計をテーマに授業を実施し、管理会計を担当した。ゼミナール体験では Zoom を使用しながらゼミ生と高校生の交流を図った。ゼミ生の日常を知ってもらうことで本学に対する高校生の興味を引くことができた。高校生側は教室単位で参加したため、個々人が交流する機会を設けることができなかったことが改善点である。 (4) 簿記や会計について学ぶ意欲を引き上げるため、「有価証券の取引」や「交通費の取引」等の分かりやすい事例をもとに簿記・会計の役立ちを考えてもらう参加型の授業を行うことができた。Zoom によるオンライン形式での実施であったため、高校側 (教室単位で Zoom 参加) の場の雰囲気がわからないため、進捗が難しく、改善点が見えにくいということがわかった。 (5) 過年度参加者の体験談を用いながら、高校生のうちに大学の講義を受講する意義について理解してもらう機会となった。今年度高大接続研究事業でオンライン授業を受けた高校生の体験談を聞く機会を設けるべきであった。

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	経営学部・経営学科	職名	助教	氏名	渡 邊 壽 大	就任年度	2019（平成 31）年度
----	-----------	----	----	----	---------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 基礎統計学、統計学、地域産業論、地域産業と観光、情報活用法Ⅰ、コンピュータ演習、ゼミナールⅠ～Ⅲ、フレッシュマンセミナー、外国語講読
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 社会資本分析（法政大学）（2020（令和 1）年）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 授業への理解度を確保するため、毎回小テストを実施した。	2020(令和 2)年 4 月 -	基礎統計学および地域産業論の授業において、毎回小テストを実施し、学生の理解度の把握に努めた。
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
第8章 内航 RORO/フェリーへのモーダルシフト の可能性	共著	2020 (令和2) 年 8 月	「みなと」のインフラ学 PORT2030の実現のための処方箋	松田琢磨・渡邊壽大(山 縣宣彦・加藤一誠 編)	87-98	査読無
【論文】						
地方コンテナ港のインセンティブ助成の実証分析	共著	2020 (令和2) 年 6 月	物流学会誌(28)	渡邊壽大・川崎智也・松 田琢磨	141-148	査読有
石巻港への外航クルーズ船寄港に関する一考察	単著	2020 (令和2) 年 3 月	石巻専修大学経営研究(31)		93-97	査読無
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
石巻港のクルーズ利用に関する研究	単独	2020 (令和2) 年 8 月	IS 研究報告会			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020 年 4 月 1 日 - 2020 年 3 月 31 日	経営学部教務委員会委員	
2020 年 4 月 1 日 - 2020 年 3 月 31 日	就職指導委員会委員	
2020 年 4 月 1 日 - 2020 年 3 月 31 日	入試問題作成	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 基礎統計学、地域産業論の授業で毎回小テストを実施し、学習成果の向上を目指した。また質問があった際には、毎回次の授業で全体に対して解説を行ったが、この取り組みは受講生からも理解が深まるというコメントを得た。	授業アンケートでは、学内平均より高い評価を受けたが、次年度は学生の自主性を促すよう教材を工夫する。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） ゼミナールでは実学を重視するため、外部の専門家を招聘し、学生が学習している内容が社会でどのように活かされているのかを実感できるようにした。	今年度は新型コロナウイルス感染症のために現場にでかけることができなかったため、外での活動増やすよう努める。
（その他特記すべき事項） (1) 東北学院中学生に対して授業を行った。 (2) 志津川高校生に対して授業を行った。 (3) 専修大学付属北上高校への出前授業を行った。	受講者の多くから肯定的な評価を受けたものの、授業レポートからは一部理解ができなかった受講者がいた。次年度は中学生、高校生にわかりやすい内容の授業内容とするよう工夫する。

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	助教	氏名	佐藤 平国	就任年度	2020（令和 2）年度
----	-----------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 情報活用法Ⅱ、特殊講義Ⅱ、マーケティング基礎、地域観光論、外国書講読、フィールドワークⅠ・Ⅱ、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Bayesian Estimation for Identifiable Topic Models with Latent Dirichlet Allocation	単著	2021（令和2）年3月	SSRN, Machine Learning eJournal, Vol.4, No.41 (https://dx.doi.org/10.2139/ssrn.3721769)		7th, pp.1-24	無
【その他】（報告書など）						
識別可能な LDA トピックモデルのベイズ推定法	単著	2020（令和2）年9月	統計関連学会連合，2020 年度統計関連学会連合大会公演報告集		pp.225	無
消費者行動研究のための識別可能な LDA トピックモデル	単著	2020（令和2）年10月	消費者行動研究学会，第 61 回消費者行動研究コンファレンス（オンライン）報告要旨集		pp.12-15	無
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
Nonlinear Estimation and Visualization with a Neural Network in Online Review Analysis	単独	2020（令和2）年6月	INFORMS Marketing Science			
識別可能な LDA トピックモデルのベイズ推定法	単独	2020（令和2）年9月	統計関連学会連合			
消費者行動研究のための識別可能な LDA トピックモデル	単独	2020（令和2）年10月	消費者行動研究学会			
海外発表助成報告	単独	2020（令和2）年12月	日本マーケティング・サイエンス学会			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】 石巻専修大学 IS 奨学研究員（2020 年 7 月～）「メディアの影響力と消費者行動に関する研究」 科学科研費助成事業採択課題（2020 年 9 月～）「機械学習の識別可能性の探求と消費者行動分析への応用」 以下の研究部会またはセミナーに参加： 日本商業学会関東部会（年数回）、日本マーケティング・サイエンス学会計算科学研究部会（年数回）、日本行動計量学会 2020 秋の行動計量セミナー（2020 年 11 月 14～15 日）・第 23 回春の行動計量セミナー（2021 年 3 月 27～28 日）	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020（令和 2）年 5 月～2021 年（令和 3）年 3 月	入試問題（数学）出題者	

VI その他特記すべき事項

推薦入試面接担当、大学入学共通テスト監督補助

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 質問や相談には授業内だけでなく個別にも対応したり、評価の基準や配点を詳細に伝えたりすることで、オンラインでも学生の心配や不安をできる限り軽減できるように配慮をした。	学生が連絡やお知らせなどを確認していないか、それらの内容を十分に理解できていない可能性がある。また、オンラインということもあり実際の出席を確認することができないため、成績にかかわる重要事項を聞いていない可能性がある。課題の提出率の悪い学生については、教務委員の先生方とも連携をとって早期に対応するようにしたい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 学生個々人の関心に合わせて毎回の授業内容を計画したり、適当な教科書等を貸し出したりすることに加えて、卒論指導では研究室で対応するなど、学生一人一人に合わせて時間を確保し指導を行った。	まったく出席しない学生や、出席していても自分の関心がまったくわからないといって課題に取り組まない学生がいる。ほかの先生方からゼミナールの様子をお伺いしながら、対応について考えていきたい。
（その他特記すべき事項） 石巻好文館高等学校への出前授業	送られてきた感想から要点が十分に伝わっていない部分があると感じたため、資料や講義の中で各セクションや全体のまとめを解説するようにしたい。

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	恵原 貴志	就任年度	1993（平成 5）年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 基礎物理学 A（基礎物理学、物理学Ⅰ）、物質とエネルギー、くらしの安全学、情報活用法Ⅰ、人間環境学、人間文化基礎演習（基礎総合演習Ⅱ）人間文化演習Ⅰ、人間文化演習Ⅱ、人間文化入門
2.大学院担当科目 固体物理学特論、磁気デバイス工学特論、物質工学特別研修Ⅰ、物質工学特別研修Ⅱ、物質工学特別演習・実験Ⅰ、物質工学特別演習・実験Ⅱ 固体物性工学特論、物質物理工学セミナー、物質機能工学博士特別演習・実験
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。)

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 人間文化学科 FD 活動：R2 年度前期の非対面式授業の振り返り、での発表	令和 2 年 9 月 24 日	発表題目：コンピュータなしでコンピュータの演習を行った記録 対面指導なしで機器の操作方法を指導した記録
4.その他教育活動上特記すべき事項 令和 2 年度 石巻専修大学 教育活動表彰	令和 3 年 2 月 12 日	

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】 プラズマ CVD 装置のコントロールソフトウェア関連の修理が完了した。	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）非対面授業の実施に大変腐心した。特に、パーソナルコンピュータ(PC)を所有していない学生に PC を用いずに PC の使用方法を教えるという、教育者としての経歴での最大難度の課題に取り組んだ。	新型コロナウイルスの流行の終息を切に希望するが、今年度も非対面となった場合は PC 貸し出し制度の利用を徹底させたい。
（実験）演習の一環で、実験をしないで実験の指導をするという、教育者としての経歴での最大難度の課題に取り組んだ。	新型コロナウイルスの流行の終息を切に希望するが、今年度も非対面となった場合は、ライブカメラにより私が行う実験の中継を行いたい。
（ゼミナール・卒業研究・演習）非対面での指導を行ったが、対象学生が卒業年度ではなかったもので、知識の伝授という形に徹し、問題なく行えた。	特になし
（その他特記すべき事項）新型コロナウイルスの流行と、非対面授業の負荷の大きさにより、研究活動が一年間停止してしまったことが残念である。	新型コロナウイルスの流行の終息を切に希望するが、今年度も流行が続く場合は、自宅で実験を行う方法などを模索する。

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	大縄 道子	就任年度	2005（平成17）年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 中等教科教育法（英語）Ⅰ、中等教科教育法（英語）Ⅱ、総合英語演習Ⅱ、英米文学講読入門、人間文化演習Ⅰ、人間文化演習Ⅱ、フレッシュマンセミナー、英語B、英語翻訳入門Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2019(平成 31)年度～継続中	日本多読学会 理事
2018(平成 29)年 8 月～2020(平成 2) 年 7 月	日本多読学会 紀要編集委員長
2020(平成 2)年 8 月～継続中	日本多読学会 紀要副編集委員長
【その他研究活動上特記すべき事項】 ・単著の論文「信念に従って生きるー『からすが池の魔女』と 1950 年代のアメリカ社会」が、英語圏児童文学学会 50 周年記念論文の佳作を受賞	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018(平成 29)年 4 月～	保育士教員養成センター運営委員	
2018(平成 29)年 4 月～	言語専門教育センター委員	
2019(平成 30)年 4 月～	IR 推進委員会委員	
2019(平成 30)年 4 月～2021 (令和 3) 年 3 月	入試委員会委員	
2019(平成 30)年 4 月～2021 (令和 3) 年 3 月	広報委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） (1) 英文多読・多聴の授業を継続的に行っている。今年度はオンラインのプログラムを活用して多読、シャドーイング、ディクテーション活動を実施し、毎週提出される3つの課題に対して個別にコメントを返した。学生自身の交流と面白い本の情報交換を兼ねて、ビブリオバトルも3回実施した。 (2) オンライン授業の工夫。すべての講義で毎回授業時間に双方向での授業を実施し、学生に参加意識を持たせた。パソコン・プリンターを所持していない学生に授業の資料をすべて郵送、これまで口頭で説明していたこともできるだけパワーポイントにまとめて画面共有するなど、オンラインでも理解しやすく取り組みやすい授業をこころがけた。	(1) 授業がない日にも英語に触れる機会を作ることができたが、多読については読書量、モチベーションともに、例年より低くなってしまった。読みやすい本の存在と個別のアドバイスの重要性が改めて実感できたため、次年度はこの2点を特に充実させたい (2) オンラインであることを意識し、よりゆっくり、はっきり話す必要がある。学生が受け身にならず参加できるような問いかけをしたり、ブレイクアウト機能の活用などを通して交流の機会をより増やしたりしたい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） (1) ゼミⅠでは受講生各自の関心に応じた資料を用意し、学生による発表と質疑応答、レポートのための文献調査、アウトライン作成、レポート執筆などを行った。 (2) ゼミⅡでは3名の卒業論文作成を個別にサポートし、アウトライン、卒業論文、口頭発表用資料それぞれに対して丁寧な添削と指導を行った	(1) 卒業論文作成に向けて基礎的な知識や技術を向上させることができた。各自の関心を優先させているため1つのテーマを深掘りしにくいという問題があるため、発表を課した資料以外の文献も継続して読んでもらう仕組みを考えたい。 (2) それぞれのテーマで充実した研究を行うサポートができた。今後は、添削に頼らずに学生が自らわかりやすい文章を書けるようになるための指導についても考えたい。
（その他特記すべき事項） (1) ゼミの4年次生の英語の個人指導を2年次から継続できた。 (2) ゼミの3年生（希望者）を中心に、正課外授業として、毎週1回英語検定や旅行英語の指導を行った。 (3) 春休み中2～4年次のゼミ生(希望者)対象に50日間毎日ディクテーションを行う「ディクテーション50Days」を企画実施。提出されたディクテーション1つ1つに毎回コメントを返した。	(1) 本人たちの努力と人間教育学科の先生方ご指導のおかげもあり、教員採用試験を受験した2名とも現役で合格することができた (2) 参加していた経営学部3年生が「総合旅行業務取扱管理者」試験に合格 (3) 参加した8名全員が50回のディクテーションを完遂し、リスニング力を中心に英語力全般を向上させることができた

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	教授	氏名	近藤 裕子	就任年度	2013(平成 25)年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目：音楽文化論、初等教科教育法（音楽）、ピアノ実技とソルフェージュⅠ、ピアノ実技とソルフェージュⅡ、子どもの歌と伴奏法Ⅰ、子どもの歌と伴奏法Ⅱ、音楽、保育内容（音楽表現）、幼児と表現（音楽）、人間教育研究基礎、人間教育研究Ⅰ、人間教育研究Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
新型コロナによるオンデマンド音楽授業の可能性 ー保育士、幼稚園・小学校教諭養成校の試行ー	共同	2020（令和 2）年8月	東北芸術文化学会 第26回大会	石巻専修大学非常勤講師 鈴木純乃 藤井朋美、 石巻専修大学臨時雇員 田 村美織		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

「2020（令和2）年度 教員活動報告書」は4月1日～8月31日迄の記載。 9月1日より在外研究のため、1年間イタリアに滞在中（ボローニャ音楽院）。

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 新型コロナで「音楽実技」が不可欠な全ての音楽授業【初等教科教育法（音楽）、ピアノ実技とソルフェージュⅠ、ピアノ実技とソルフェージュⅡ、子どもの歌と伴奏法Ⅰ、子どもの歌と伴奏法Ⅱ、音楽、保育内容（音楽表現）、幼児と表現（音楽）】がオンデマンドになり、学生が「ピアノを弾く」ことも「歌を歌う」ことも全くできなくなった。 非常勤講師や臨時雇員の協力のもと、「Twitter」「YouTube」などで学生とコミュニケーションできる環境を整え、『学生との心の通った授業』をめざして奮闘し難局を乗り越えた。 この経緯は2020（令和2）年8月、東北芸術文化学会 第26回大会「新型コロナによるオンデマンド音楽授業の可能性—保育士、幼稚園・小学校教諭養成校の試行—」で共同発表した。	他大学でも大きな課題となっているが、非対面授業で音楽授業を行う限界を感じた。学生が、現場に出てすぐに必要となる「ピアノ演奏」や「歌唱の実技」は対面でなくては指導が難しい。今後、大学にもご理解いただきながら、飛沫感染を防止するためのパーテーション、消毒などの徹底をはかり、対面授業で音楽授業が再開できることを願っている。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） ・石巻かほく（9月1日掲載）『会えない代わり「真心」贈る』 定期的に訪問していたデイサービスが新型コロナのために訪問できなくなったことを契機に、ゼミ生2名がお年寄りの欲しいものを聞き取り、アクリルタワシを50個編んでカードと共に一人一人にプレゼントした。 その模様をオンライン（Zoom）で結び、お年寄りと交流した。初めて編み物に取り組んだゼミ生は、感謝の言葉や、涙を流しているお年寄りの姿を見て、安堵と共にさらに学びを深くした。	ゼミの学生は、新型コロナのために今まで経験したことのない「オンライン交流」で緊張していたが、社会との接点を持つことによって、自分たちの取り組んでいる課題や、今後の目標などをあらためて考え、言葉で伝えたり、身体で表現することができるようになった。 その他にも当初計画していた保育所との交流が中止になるなどしたが、今後 YouTube 作成などで、直接訪問できなくても交流できるツールを準備したいと考えている。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	教授	氏名	笹原 英史	就任年度	1996（平成 8）年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 人間学概論、教育原理、地域・学校連携論、教職課程論、教育方法論、特別活動の指導法、教育実習事前事後指導、中学校・高等学校教育実習、人間教育研究基礎、人間教育研究Ⅰ・Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） マルチメディアなどのデジタル化教材の使用。ミニットペーパーを用いた継続的かつ意欲的な授業への参加の工夫、ワークショップ的学習の導入。	2020 年 4 月 ～	この業績については、以下の論文等で公表している。（「道徳指導法」におけるグループによる模擬授業の導入に関する考察」石巻専修大学教育会教科教育（初等・中等）研究部会報第 2 号補遺, pp. 37-42, 2012 年 4 月ほか）該年度前より、左記内容については注力しているが、今後とも努力傾注する。
2.作成した教科書、教材、参考書 講義用教材（指導案事例集、教育・教師について考える小説・映画資料）の作成	2020 年 4 月 ～	当該年度前より、左記内容については注力しているが、今後とも努力傾注する。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
ファンダメンタルエデュケーションに関する事務局文書について	単著	2001年3月	石巻専修大学『研究紀要』第32号		pp.81-87	なし
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2019 年 5 月より	石巻市社会教育委員として、石巻市の社会教育政策の立案に携わった。
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2019 年 4 月～	保育士・教員養成センター長	
2018 年 4 月～	紀要編集委員会委員長	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 引き続き、パワーポイントによるデジタル化教材を使用した視覚的な授業実践、スライドの内容の分かりやすさに留意した。本年度においてもマルチメディアやデジタル化教材を使用した授業実践、小課題・確認課題を頻繁に提示し、ディスカッションや模擬授業などのワークショップ的要素を取り入れるなどして学生の興味を喚起し、理解を深めるよう努めた。	評価結果をもとに、パワーポイントによるデジタル化教材を使用した授業実践、マルチメディアやデジタル化教材を使用した授業実践の実施、小課題・確認課題を頻繁に提示することで、授業内容の理解と定着の促進に注力したい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 体験型の学習活動や模擬授業の実施、学生による課題研究発表など、いわゆるアクティブラーニングの機会を頻繁に設けるよう努力している。	学生のレポート内容や取り組み姿勢などを評価しながら、左記の方策をより徹底したい。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	教授	氏名	指方 研二	就任年度	1998(平成 10)年
----	-------------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 基礎物理化学、基礎化学 A、生活環境科学、物質とエネルギー、理科、初等教科教育法（理科）、保育内容環境、幼児と環境、幼児教育実習Ⅰ、幼児教育実習Ⅱ、保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅱ、人間教育研究基礎、人間教育研究Ⅰ、人間教育研究Ⅱ
2.大学院担当科目 応用反応化学特論、構造化学特論、物質工学特別研修Ⅰ（物質基礎）、物質工学特別研修Ⅱ（物質基礎）、物質工学特別演習・実験Ⅰ（物質基礎）、物質工学特別演習・実験Ⅱ（物質基礎）、界面物理化学特論、応用反応化学特論、機能性物質設計工学セミナー、物質機能工学博士特別演習・実験
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む）		特記事項なし
2.作成した教科書、教材、参考書		特記事項なし
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記事項なし
4.その他教育活動上特記すべき事項		特記事項なし

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
		審査担当なし	

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
1994(平成 6)年～現在	電気化学会東北支部幹事
1998(平成 10)年～現在	表面技術協会東北支部幹事
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2013 年～現在	実験廃棄物処理委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） Zoom による非対面の授業において理解の定着を図るため、講義冒頭で前回の内容の振り返りの時間を設けた。	学生から内容が多くて進行が速いという指摘を受けた。今後 Zoom で講義を行う場合は、講義内容を pdf ファイルなどであらかじめ配布するように努める。
（実験） 非対面授業のため、取り組みはなかった。	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 該当者なし	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	佐藤 利明	就任年度	2013（平成25）年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 社会学概論、地域社会論、社会調査論、社会調査の基礎、社会調査演習、社会調査実習、地域調査法、人間文化入門、人間学入門、人間文化演習Ⅰ・Ⅱ、社会学の世界
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） オンライン授業の科目における毎回の講義ファイルの作成と課題の提示。		課題は正解か不正解かを問わず提出することで出席を確認し、正解については成績評価の基礎点として位置付けた。
2.作成した教科書、教材、参考書 毎回作成の講義ファイルは、当該科目のテキストを構想して作成。		講義ファイルを作成したのは、社会学概論、地域社会論、社会調査論、社会学の世界の各科目。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 石巻専修大学高大連携授業（於・専修大学北上高等学校）	2020 年 10 月 21 日	・「地域資源で地域活性化－昔話・伝説・そば－」の題で3年生に授業を行った。 ・「私たちは名優である・・・？－社会・人生を社会学から考える－」の題で2年生に授業を行った。
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
4代・徳十郎とその時代―戦前・戦中期のMむら―	単著	2021(令和3)年3月	石巻専修大学、『石巻専修大学研究紀要』(32号)		131-140	無
【その他】(報告書など)						
資料集 四代・徳十郎といえ・むら―戦前・戦中期の山間地農村―	単著	2020(令和2)年12月	石巻専修大学人間学部人間文化学科地域社会研究室		総頁数 77	無
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020（平成 31）年 4 月 1 日	人間力育成センター運営委員会委員	
2020（平成 31）年 4 月 1 日	共創センター運営委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） ・「社会調査実習」のみ対面授業が実施できたが、他はオンライン授業なので、学生の関心、モチベーションを如何に持続させるかの工夫を試みた。	・課題を理解し、適切に対応することの重要性の認識を高め、文章作成能力の向上を図ること。
（実験） ・「社会調査実習」において、エクセルを使用してのデータの集計・分析の指導を行った。	・学生の P C 使用環境によるテクニックの差異の克服。
（ゼミナール・卒業研究・演習） ・卒業研究において、テーマを踏まえた情報収集・資料の収集と分析等の指導を行い、執筆についての具体的な指導を行った。	・従来の本ゼミのフィールドワーク手法が出来なかったので、コロナ下でのその可能性を模索する必要がある。
（その他特記すべき事項） ・ゼミ学生の就職活動の助言と指導。特に、ゼミ生の 2 学生は公務員志望であったので、1 次試験の作文対策として計 10 回の作文練習と添削を実施した。	・出願書類の点検、面接のアドバイスなど、就活の成果に結びつく個別的導の必要性。

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	教授	氏名	佐藤 正恵	就任年度	2013（平成25）年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 保育の心理学（保育心理学Ⅰ）、保育心理学Ⅱ、教育相談の理論と方法、臨床心理学概論、特別支援教育（中等）、障がい児・者心理学、家族心理学、心理アセスメント基礎実習、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（施設）、幼児教育実習Ⅰ、幼児教育実習Ⅱ、人間教育研究基礎、人間教育研究Ⅰ、人間教育研究Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2019(平成 31)年 4 月～2021(令和 3)年 3 月	人間学部人間教育学科主任	
2019(平成 31)年 4 月～2021(令和 3)年 3 月	人間学部学科主任教授協議会員	
2019(平成 31)年 4 月～2021(令和 3)年 3 月	教員資格審査委員会委員	
2019(平成 31)年 4 月～2021(令和 3)年 3 月	人間学部教務委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、認定心理士の資格取得のための必修科目等、授業数は多かったが、初めての遠隔授業ということで、学生にわかりやすい授業内容や資料作成等に努力した。	授業評価アンケートは総じて平均を上回るものもあり、概ね評価しうる結果であった。「保育の心理学（保育心理学Ⅰ）」では、内容の難しさが指摘されたことから、内容の吟味やわかりやすい資料作成に努めたい。時世や学生の志向等は同じではないので、今後も柔軟に授業を組み立てていきたい。
（実験） 特記事項無し	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 4 年生 3 名、3 年生 6 名（内 1 名は編入生）のゼミ指導を行った。4 年生はゼミ成果物を仕上げることで、このうち大学院進学希望者（1 名）には卒論作成を目的とした指導を行った。	卒論指導は義務ではないが、学生のニーズに沿った対応が行えたという点では評価しうるものであったと考える。
（その他特記すべき事項） 非常勤講師の授業支援：初めての遠隔授業でスキル不足等による不安が大きい非常勤講師に対し、授業時も含め支援を行った。	仕方がないことであったと思うが、時間的、心理的に大きな負担であった。できれば大学としての支援システムがほしいと感じた。

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	教授	氏名	佐藤 幹男	就任年度	2014（平成 26）年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 教職概論、教職概論（中等）、教育制度論、教育制度論（中等）、教育課程論、保育・教職実践演習、人間教育研究基礎、人間教育研究Ⅰ、人間教育研究Ⅱ、保育実習Ⅰ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
戦後改革における戦前の仕組みの戦後への継承の 仕方について一地方教育研究所の成立過程の検討 を通して一	単	2021年2月	近現代日本の地方教育行政と「教員育成コミュニ ティ」の特質に関する総合的研究(Ⅱ)	教育情報回路としての 教育会に関する総合的 研究会		
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
戦後改革における戦前の仕組みの戦後への継承の 仕方について一地方教育研究所の成立過程の検討 を通して一	単	2020年9月	教育史学会			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018 年 4 月～2021 年 3 月	科研費（基盤 B 代表 須田将司）近現代日本の地方教育行政と「教員育成コミュニティ」の特質に関する総合的研究に参加
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017 年 4 月～2021 年 3 月	人間学部長	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）Zoom による授業に戸惑いながらも、提示する資料の工夫や課題の作成、提出、チャットを活用した学生の意見の把握に努めた。	今後、対面授業が可能になった場合でも、オンライン授業を適宜、組み合わせた授業運営のあり方について検討していきたい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 対面による授業が制約され、Zoom を用いてゼミを実施した。コロナ禍により、楽しみにしていた台湾調査旅行が実現できなかった。	オンラインの利用、映像資料の活用など、検討したい。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	教授	氏名	新福 悦郎	就任年度	2017（平成 29）年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 社会、初等教科教育法社会、教育方法論、道德教育の理論と方法、教職実践演習、地域学校連携論、人間学概論、中学・高校教育実習、保育実習Ⅰ、人間教育研究基礎、人間教育研究Ⅰ、人間教育研究Ⅱ、専門教養演習
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 社会科教育論、公民科教育論（東北大学教育学部）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 判決書教材とフィールドワークで学ぶ防災教育	2020 年 8～9 月	大川小学校津波被害訴訟高裁判決を活用した授業を行い、大川小学校への被災校舎を見学して教員養成として防災教育の専門性を高めた。
2.作成した教科書、教材、参考書 『公民科教育と学校教育—人権と法で深める探究のテーマ 78』三恵社	2021 年 4 月	人権と法の視点から 78 のテーマを設定し、公民科教育および学校教育においての授業テキストを梅野正信（学習院大学）・蜂須賀洋一（上越教育大学）の 3 人で作成した。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記事項なし
4.その他教育活動上特記すべき事項		特記事項なし

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
『公民科教育と学校教育―人権と法で深める探究 のテーマ 78』	共著	2021 年 4 月	三恵社	梅野正信・新福悦郎・蜂 須賀洋一	68 頁	無
【論文】						
「判決書教材を活用した安全教育についての事例 研究―相手へのいたずらや嫌がらせ的な事故を防 ぐー」	単著	2021 年 3 月	『石巻専修大学研究紀要』第 32 号、pp.89-100		12 頁	無
「学校事故に関する裁判の事例を教材化した安全 教育の実践的研究～熱中症事故の判決書教材を活 用した授業実践の検討～」	共著	2021 年 3 月	『上越教育大学研究紀要』第 40 巻 2 号	蜂須賀洋一・新福悦郎	10 頁	無
【その他】（報告書など）						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
「判決書教材とフィールドワークで学ぶ防災教育 ―大川小学校津波被害訴訟高裁判決を活用した教 員養成の授業―」	単独	2020 年 8 月 ～9 月	日本学校教育学会 2020 年度研究大会自由研究発表（オンライン）			
「日韓の歴史教科書における植民地関係事項の比 較研究」	共同	2020 年 10 月～12 月	第 69 回全国社会科教育学会・第 37 回鳴門社会 科教育学会全国研究大会 自由研究発表（オン ライン）	梅野正信・新福悦郎・福 田喜彦・真島聖子・白井 克尚・蜂須賀洋一・池野 範男・久留島浩・大浜郁 子・徐鐘珍		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2021 年 3 月	日本学校教育学会編集委員（査読）
2017 年 10 月～現在まで継続	女川町教育委員会教育委員
2018 年 4 月～現在まで継続	石巻市いじめ問題対策連絡協議会 会長
2019 年 4 月～現在まで継続	石巻市子どもの権利推進委員会 会長
2021 年 2 月 5 日	石巻市子どもの権利に関する講演会
2021 年 4 月～現在まで継続	石巻市行政不服審査会委員
2020 年 2 月～現在まで継続	文部科学省人権教育研究推進事業審査委員会書面審査部会審査委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

Ⅴ 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017 年 4 月～現在まで継続	FD 委員会委員長	
2018 年 4 月～現在まで継続	保育士・教員養成センター委員	

Ⅵ その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）本年度は、専門教養演習において、人間教育学科2年生全員に対して事前に判決書教材をもとに学習を深め、大川小学校へのフィールドワークと遺族語り部による体験談を取り入れ、防災教育の工夫を図った。	授業后感想文を読むと、学生の多くは人権感覚を高め、防災についての専門性を高めていくことの重要性を学んでいた。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） ゼミについては、課題テーマの追究と検証を指導し、全員が卒業研究のためのレポートを10頁以上作成して、提出することができた。	ゼミ生1期生として、卒業研究の成果物を仕上げ、レポートを提出することができた。 2期生以後もその成果物を参考にして、同様に提出できるように指導していきたい。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	教授	氏名	照井孫久	就任年度	2014（平成 26）年度
----	-------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 相談援助、人間教育研究Ⅱ、生活構造論、ボランティア論、保育実習Ⅰ（施設）、高齢者福祉論、福祉政策論、社会福祉論
2.大学院担当科目
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。)

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む）		
2.作成した教科書、教材、参考書		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4.その他教育活動上特記すべき事項		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
【論文】						
【その他】(報告書など)						
レジリエントケアリスクマネジメント 実践ハンドブック	単著	2020年4月	清山会医療福祉グループRM研究会		66 ページ	無
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020 年 6 月 1 日	石巻市地域福祉計画策定委員会 委員長
【その他研究活動上特記すべき事項】 宮城県内の 4 カ所の特別養護老人ホームを対象に、ズームを活用しケアに関連するリスクマネジメントの調査研究会を開催した。（6 月、7 月、8 月、9 月、10 月、11 月、12 月、1 月、2 月）	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020 年 4 月 1 日	人間学部教育学科 クラス担任	
2020 年 4 月 1 日	図書館委員会委員	

VI その他特記すべき事項

--

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） ズームによる遠隔講義を中心に授業を行った。毎回グーグルアンケートによる質問・感想等を受け付け、授業の内容に反映させることを心がけた。	
（実験）	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 3名のゼミの受講生に対する研究の指導を行うとともに、卒業レポートの作成を指導した。	
（その他特記すべき事項）	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	西方 守	就任年度	1989（平成元）年度
----	-------------	----	----	----	------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目
哲学—知の起源—(哲学)、倫理学、教育学概論、教育原理(中等)、教育哲学、人間文化基礎演習、人間文化演習Ⅰ、人間文化演習Ⅱ、人間学概論、人間文化入門
2.大学院担当科目
特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。)
哲学(石巻赤十字看護専門学校)

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 新型コロナウイルス感染症の影響で授業は非対面で行うことになり、講義内容をコースパワーの「レポート課題」（「レポート教材」）を使って受講者に提示するために、講義をしているように話し言葉で文章にしてまとめたもの(400 字詰め原稿用紙に換算して 7、8 枚、77 回分)を作成した。	2020 年 5 月 11 日～2021 年 2 月 2 日	前期、教育学概論 15 回分、哲学—知の起源—(哲学)15 回分、教育哲学 15 回分、人間学概論 3 回分、人間文化入門 1 回分、後期、倫理学 14 回分(新型コロナウイルス感染症のため 14 回となった)、教育原理(中等)14 回分(新型コロナウイルス感染症のため 14 回となった)。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 「石巻西高校 1 年生 地域課題探究フィールドワーク」における図書館長としての講話（「大学の図書館」について」「本離れ」と子供を本好きにするには」（井上ひさし）について」「図書館の利用促進」と「図書館の快適さ」について」「穴場」（ジレンマの発信）について）	2020 年 12 月 8 日	石巻西高校 1 年生 2 名に対して「地域に根ざした大学図書館の特徴を活かし、地域住民の利用者が増えるイベントを企画提案せよ！」という課題に関し、図書館長として「大学の図書館」について」「本離れ」と子供を本好きにするには」（井上ひさし）について」「図書館の利用促進」と「図書館の快適さ」について」「穴場」（ジレンマの発信）についての講話(20 分)を行った。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
1979(昭和 54)年 9 月～	東北教育哲学教育史学会
1983(昭和 58)年 7 月～	教育哲学会
1989(平成元)年 7 月～	日本哲学会
1992(平成 4)年 6 月～	日本現象学会
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	東北大学出版会評議員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018(平成 30)年 4 月 1 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	図書館長	
2020(令和 2)年 4 月 1 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	人間学部クラス担任(人間文化学科 3 年次)	
2019(平成 31)年 4 月 1 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	遺伝子組換え実験安全委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 新型コロナウイルス感染症の影響で授業は非対面で行うことになり、講義をしているように講義内容を話し言葉で文章にして（400 字詰め原稿用紙に換算して 7、8 枚）、コースパワーの「レポート課題」（「レポート教材」）を使って受講者に提示し、それを読んで手書きのノートを作ってもらい、それをもとに、毎回 200 字から 400 字くらいで「今日の講義内容をまとめてください」「今日の講義内容に関して考えたことを書いてください」といったレポートを、コースパワー（テキスト入力「回答内容」）を使って提出してもらおうという形式で行った。授業の意図としては、通常の対面授業ではなかなか身に付けにくい読む力と書く力（まとめる力）を付けてもらいたいということで行った。	今回と同じ非対面の形式で行う際には、文章をよりわかりやすい表現にするように工夫したいと考えている。 通常の対面授業に戻る場合は、今回講義内容を文章にすることで自らの講義を振り返ることができたので、そのことを活かしていきたいと考えている。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 人間文化基礎演習では、前期、中根千枝『タテ社会と現代日本』（講談社現代新書）、後期、土井隆義『「宿命」を生きる若者たち』（岩波ブックレット）に関して毎回、頁を指定して読んでもらい、手書きで大事なところを書き写したり、わからないところを辞書などで調べたり、自分の考えを書いたりして、ノートを作ってもらい、それをもとにして「本の内容や考えたこと」を 200 字から 400 字くらいでまとめたものを文章にしてコースパワー（テキスト入力「回答内容」）を使って提出してもらった。 人間文化演習Ⅰでは、前期、大野晋『日本語の年輪』（新潮文庫）、後期、本田由紀『教育は何を評価してきたのか』（岩波新書）に関して毎回、頁を指定して読んでもらい、手書きで大事なところを書き写したり、わからないところを辞書などで調べたり、自分の考えを書いたりして、ノートを作ってもらい、それをもとにして「本の内容や考えたこと」を 200 字から 400 字くらいでまとめたものを文章にしてコースパワー（テキスト入力「回答内容」）を使って提出してもらった。 人間文化演習Ⅱでは、4 名の学生の卒業論文（「学びの共同体とその活用法—佐藤学『学校を改革する』を中心に—」「「習熟度別指導」の問題点と今後の課題—佐藤学『習熟度別指導の何が問題か』に依拠して—」「佐藤学による「学びの共同体」の学校改革—佐藤学『学校を改革する』を中心に—」「「学力」について—佐藤学『学力を問い直す』を手掛かりにして—」）の指導を行った。	本を深く読み取り、本の内容を簡潔にまとめることができるようになったと考えるが、非対面ということで各自の発表の機会を作ることができなかったのも、その点が改善点と言える。 本を深く読み取り、本の内容を簡潔にまとめることができるようになったと考えるが、非対面ということで各自の発表の機会を作ることができなかったのも、その点が改善点と言える。 4 名全員が卒業論文を提出できたので、特に改善点はないと考える。
（その他特記すべき事項） 石巻西高校 1 年生 2 名に対して「地域課題探究フィールドワーク」（「地域に根ざした大学図書館の特徴を活かし、地域住民の利用者が増えるイベントを企画提案せよ！」）で、図書館長として「「大学の図書館」について」「「本離れ」と「子供を本好きにするには」（井上ひさし）について」「「図書館の利用促進」と「図書館の快適さ」について」「「穴場」（ジレンマの発信）について」の講話（20 分）を行った。	熱心に聞いてくれたので、特に改善点はないと考える。

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	根本 泉	就任年度	1994（平成 6）年度
----	-------------	----	----	----	------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 英語 A、エッセイ・ライティング、比較文学論、小学校の外国語活動、外国語、英語文学論(英米文学論)、英語文学研究(英米文学研究)、英語中級講読(旧カリ：地域文化研究(英語圏))、教育総合英語Ⅱ、人間文化演習Ⅰ、人間文化演習Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
『新版 キリスト教大事典』の小項目「ホイッティ ア」を執筆	共著（執筆 項目は単 著）	未定	教文館	日本基督教学会『キリス ト教大事典』編集委員会	1 頁	無（編集 委 員 会 か ら の 執 筆 依 頼 に よ る）
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017 年(平成 29)年度～2020(令和 2)年度	日本キリスト教文学会 役員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020(令和 2)年 4 月～2021(令和 3)年 3 月	教務委員会委員	
2019(令和 1)年 4 月～2021(令和 3)年 3 月	人間力育成センター運営委員会委員	
2020(令和 2)年 4 月～2021(令和 3)年 3 月	令和 2 年度人間学部クラス担任(人間文化学科 1 年次)	
2020(令和 2)年 4 月～2022(令和 4)年 3 月	英語外部検定試験検討委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 1)基本教育科目「英語 A」の授業において、習熟度が低いクラスの担当であったため、英文法の基礎から丁寧に指導した。その結果、授業評価アンケートの自由記述において、多くの学生が、「分かりやすかった」と書いてくれた。 2)専門教育科目「英語文学論(英米文学論)」は、私の専門に最も近い科目であるため、作家ゆかりの地で撮影した写真のスライドや、ネイティブスピーカーによる古い時代の英語の音声なども用いて、学生が文学史に興味を持てるように工夫して授業を行った。	1)「英語 A」の授業評価アンケートにおいて、理解度の数値が平均より低かったことから、授業において学生の練習に当てる時間が少なかったことが分かった。今後は知識が定着するように、説明に時間をかけ過ぎないように、授業の時間配分を改善したい。 2)「英語文学論(英米文学論)」の授業評価アンケートにおいては、学生は教員の熱意を感じ取ってくれてはいるが、内容がよく理解できていないという結果が見てとれる。今後は、より準備を丁寧に行い、ポイントを絞って資料を学生に提示できるように努めたい。
（実験）特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 1)「人間文化演習Ⅰ」（3年次）においては、学生に、授業前に発表のレジュメをメールで送るように指導した。レジュメには、質問も書くように指示してあったため、教員が質問への答えを調べた上で授業に臨むことができ、演習の内容に、より幅と広がりを持たせることができた。 2)「人間文化演習Ⅱ」（4年次）においては、卒業論文作成の指導にあたって、学生が論文中で扱う作品のどの箇所に最も関心があるのかをよく確認し、学生が盛り込みたい内容を尊重するように努めた。その結果、学生は意欲的に卒業論文執筆に取り組むことができた。	1)「人間文化演習Ⅰ」において、学生が扱う作品および作家に関する先行研究について、教員の側での調査が不足していた。次年度の「人間文化演習Ⅱ」における卒業論文作成指導に向けて、十分な準備をして臨む必要があると考える。 2)「人間文化演習Ⅱ」における卒業論文作成の指導で、研究テーマおよび考察のポイントについての指導に多くの時間を割き、学生の執筆とその指導にかかる時間が少なかった。今後は、より早期に執筆に取りかかれるように指導する必要があると考える。
（その他特記すべき事項）特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部人間文化学科	職名	教授	氏名	長谷川 香子	就任年度	1989 年（平成元年度）
----	------------	----	----	----	--------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 言語学概論、英語翻訳入門Ⅰ、異文化コミュニケーション論、特殊講義Ⅱ、特殊講義Ⅳ、英語 A～英語 D、現地語学実習
2.大学院担当科目 「特記事項なし」
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 「特記事項なし」

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） ① 1. <u>言語学概論</u> では、言語学の主要な分野である音声学/音韻論・形態論・統語論・意味論・談話分析を英日語の比較を通し解説し、質疑応答や課題を通し、確実な内容理解を目指した。2. <u>英語翻訳入門</u> では、基本的、英文の翻訳方法について解説し、実践的演習を通し、翻訳力の向上を目指した。3. <u>特殊講義Ⅱ</u> では、英語検定教本と観光英語教本を基に、講読力、語彙力、構文力をしっかり身につけられるよう、解説と重点的演習を通し、英検 2 級と準 1 級取得を目指した。4. <u>特殊講義Ⅳ</u> では、国内外の観光地、外国旅行における英語の基礎知識の修得、実践的観光英会話、及び英語による観光地についてのプレゼンテーションを通し、総合的観光英語知識と技能の向上を目指した。5. <u>英語 A</u> では、英語の基礎的文法と基礎的構文力の養成を目標に授業を行った。オンライン授業の環境を	2 0 2 0 （令和 2） 年 度 （前 期・後期）	① <u>言語学概論・英語翻訳入門Ⅰ、特殊講義Ⅱ、特殊講義Ⅳ、英語 A・B、英語 C の各講義について</u> ：オンライン授業に沿って、教科書の講義内容が分かりやすくなるよう、また、学習効果が高まるよう、解説用にワープロでの資料作成と演習問題の作成を重点的に行った。課題も無理なく提出できるよう、授業内、及び、学習支援システム（コースパワー）を通し、質問等に対し丁寧な解説を心掛けた。 ② <u>異文化コミュニケーション論について</u> ：教科書とハンドアウト資料の講読、クラスディスカッション、個別プレゼンテーション、及び、外国人研究者 2 名（アメリカ人・ドイツ人）を招待し、その国の文化、食生活、生活習慣等について紹介するプレゼンテーションを行ってもらい、プレゼンターらと共に異文化理解のためのディスカッションを実施した。

考慮し、学生が発言しやすいよう、演習の解答については、クイズ形式を取り入れたことにより、学生がリラックスしながら活発に発言を行うことができた。また、リスニング練習と発音練習を取り入れ、総合的英語力の養成を目指した。6. <u>英語 B</u>では、基本的英文講読を中心に授業を行った。オンライン授業を考慮し、学生に直接、日本語訳を求めることは避け、文法と構文の解説、及び日本語訳について丁寧な解説を心掛けた。また、リスニングやスピーキング練習も取り入れ、総合的英語力の向上を目指した。7. <u>英語 C</u>は、英語 A の延長として、上級レベルの英文法と英作文の養成に力を入れた。英作文の課題には毎回、サンプル作文を提示し、学生が、段階的にスムーズ、且つ、確実に英作文力をつけれるよう工夫した。最終課題では、サンプル英作文を参考に、学生が「自己紹介文」や「趣味・特技」、「大学卒業後の抱負」についての自由英作文が書けるようになった。 ②異文化コミュニケーション論：国内外の文化について学び、異文化における相互理解を深め、よりよいコミュニケーションの手立てについて学習することを目標に講義を行った。授業には、アクティブラーニングを取り入れ、学生が活発に発言し、議論する場を作れるよう授業内容を考案した。		
2.作成した教科書、教材、参考書 <u>言語学概論</u>：言語の系統表、主な言語の音素表、主な言語の周波数グラフ、日英語の音素比較表、音声学、音韻論の概説、形態論の概説、意味論の概説、生成文法の統語論の概説のハンドアウトを作成し配布した。<u>英語翻訳入門 I</u>では、教本以外に、英語新聞や英雑誌の記事を利用し、アップデータな情報について、演習問題を作成配布した。<u>特殊講義 II</u>、<u>特殊講義 IV</u>、<u>英語 A</u>、<u>英語 B</u>、<u>英語 C</u>では、学習内容の定着を図り、復習用の演習問題を作成した。		<u>言語学概論</u>では、視覚的にわかりやすくなるよう、各分野ごとにグラフや日英比較表を作成、提示し、詳細な解説を試みた。作成した資料は、すべてオンライン上で学生に提供した。<u>英語翻訳入門 I</u>では、初めは、サンプル日本語訳を提示し、段階的に、学生が自身で訳ができるよう、穴埋め問題や間違い表記問題を作成し、演習を行った。 <u>特殊講義 II</u>、<u>特殊講義 IV</u>、<u>英語 A</u>、<u>英語 B</u>、<u>英語 C</u>では、毎回、授業の終わりに、その日学習した事項について、演習用に作成したプリントを配布し、課題として提出させた。

3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「特記事項なし」		
4.その他教育活動上特記すべき事項 「特記事項なし」		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
「特記事項なし」						
【論文】						
「特記事項なし」						
【その他】（報告書など）						
「特記事項なし」						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
「特記事項なし」						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
「特記事項なし」			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020（令和2）年4月～2021年（令和3）3月	日本英文学会会員
2020（令和2）年4月～2021年（令和3）3月	日本言語学会会員
2020（令和2）年4月～2021年（令和3）3月	JACET（大学英語教育学会）会員
2020（令和2）年4月～2021年（令和3）3月	JALT（全国語学教育学会）会員
2020（令和2）年4月～2021年（令和3）3月	LET（外国語教育メディア学会）会員
【その他研究活動上特記すべき事項】	
「特記事項なし」	

Ⅴ 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2016（平成28）年4月～	図書館委員会委員	
2019（令和1）年4月～	ホームページ委員会委員	
2018（平成30）年4月～	言語教育専門部会副会長	
2015（平成27）年4月～	英語選抜入学試験 主責任者	

Ⅵ その他特記すべき事項

「特記事項なし」

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）毎回、講義用に配布資料を作成し配布した。また、予習・復習のため、演習問題を作成し、配布した。	学生が配布資料を通し、授業内外で活発に質問を寄せたことは、学習の向上に繋がった。
（実験） なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） （人間文化演習 I）前期では、講読した言語学文献についてプレゼンテーションの方法とレポートの書き方を指導し、学期末に学生が選択したテーマについて行った発表とレポートについては、その過程において、実際の資料作成とデータ分析を指導した。また、レポートについては、進捗状況に合わせ、随時、添削を行った。 後期では、異文化研究に関する文献を講読し、その内容について、毎月 1 回、発表を行った。また、学期末に提出するレポートの書き方の指導と添削を随時行った。	文献やデータ収集の方法について、質疑応答や対話を通し、指導できたことが良い発表とレポート作成に繋がったと感じる。来年度は、卒業研究発表と卒業研究論文作成について、丁寧に学生のニーズに対応しながら、指導していきたい。
（その他特記すべき事項） 「特記事項なし」	

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	松崎 俊之	就任年度	1989（平成元）年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 美学、人間学概論、人間文化入門、人間文化基礎演習、現代文化論、地域文化政策論、芸術文化論、メディアアート論、人間文化演習Ⅰ・Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし。
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 美学（東北芸術工科大学）（2020（令和2）年）、芸術の世界（東北大学）（2020（令和2）年）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
色彩特性と物理的特性との関係 V	単著	2021(令和 3 年)3 月	『石巻専修大学 研究紀要』第 32 号		71-79 頁	無
【その他】(報告書など)						
感性(センス)	単著	2020(令和 2 年)12 月	『美学の事典』、丸善出版		100-101 頁	有
美的カテゴリーー美的特性論への展開と日常の美的カテゴリーへの展開	共著	2020(令和 2 年)12 月	『美学の事典』、丸善出版	青木孝夫、 <u>松崎俊之</u> (本人)	110-111 頁	有
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
音の知覚と音の美的感受ー音響美学序説	単独	2020(令和 2 年)8 月	東北芸術文化学会第 26 回大会			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017(平成 29)年 7 月～継続中	東北芸術文化学会副会長
2018 年(平成 30) 7 月～継続中	東北芸術文化学会誌『芸術文化』編集委員長
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017(平成 29)年 4 月～	人間力育成センター運営委員会委員	
2017(平成 29)年 4 月～	自己点検・評価運営委員会委員	
2018(平成 30)年 4 月～	教員資格審査委員会委員	
2019(平成 31)年 4 月～2019(令和 2)年 3 月	研究助成専門委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）それぞれの講義ごとに文献資料および各種視聴覚資料を準備するとともに、それらをもとにマルチメディアパワーポイントファイルを作成することで、学生の理解度の向上に努めた。また学生が事前・事後学習を実施する際の参考資料として、関連ウェブサイトへのリンクを張ったパワーポイントファイルの PDF 版を作成した。	授業アンケートでは概ね良好な評価が得られた。評価の低かった一部の科目については、次年度に向けて改善に取り組み、講義内容を整理するとともにより丁寧な説明を心がけることで学生の理解度を向上させるよう努める。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習）学生の研究テーマに関連する基本的文献資料を収集し学生に提供するとともに、それらの基本文献に関する徹底した講読指導をおこなうことで、学生の卒業研究を後押しした。	学生の研究成果を見るに、ゼミにおける指導内容および指導方法は、概ね評価できるものと考えられる。次年度に向けてさらに改善に努め、個々の学生の資質、能力、問題関心に応じた指導方針と指導計画を策定し、それらをもとにより効果的な指導をおこなうよう努める。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	教授	氏名	柳 明	就任年度	2013(平成 25)年度
----	-------------	----	----	----	-----	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 理科、初等教科教育法（理科）、幼児と環境、幼児教育実習事前事後指導、くらしのバイオサイエンス、自然環境論、生命と地球、細胞生物学、基礎生物学 A（基礎生物学、生物学 I）、フレッシュマンセミナー
2.大学院担当科目 細胞生物学特論、生命科学特別研修Ⅱ、生命科学特別演習・実験Ⅱ
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） FD 委員会主催の授業研究会での報告	2021（令和 3） 年 1 月 14 日	本年度の非対面授業、および授業において工夫している点や気をつけている点などについて報告した。
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 2 年生のメールによる履修指導の実施 2 年生に対する Zoom の使い方の練習会を開催	2020（令和 2） 年 4 月 2020（令和 2） 年 5 月 8 日	2 年生のクラス担任として、すべての 2 年生に対して個別にメールによる履修指導を実施した（対面でできなかったため）。 2 年生のクラス担任として、すべての 2 年生に対して Zoom の使い方の練習会を開いた。教員・学生共に初めての経験で勉強になった。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
宮城県で採集したゾウリムシとミドリゾウリムシ	単著	2021（令和 3）年 3 月	石巻専修大学研究紀要、第 32 号		101-105 頁	無
【その他】（報告書など）						
石巻地域原生生物の有用遺伝子探索に向けた PCR 解析		2021（令和 3）年	令和 2 年度共創センタープロジェクト事業の報 告書			無
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020（令和2）年4月～2021（令和3）年3月	人間学部人間教育学科2年生クラス担任	
2020（令和2）年4月～2021（令和3）年3月	情報教育センター委員	
2020（令和2）年4月～2021（令和3）年3月	人間学部教務委員	
2020（令和2）年4月～2021（令和3）年3月	人間力育成センター運営委員	
2020（令和2）年4月～2021（令和3）年3月	個人情報保護委員会 個人情報業務責任者	

VI その他特記すべき事項

宮城県幼稚園教育実習連絡協議会の当番校としての業務を取り仕切ると共に担当している。ここでは、2020（令和2）年12月から2021（令和3）年5月までの3回の会議の運営・資料作成などを担当する。

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 1. 講義はZoomを使用して、非対面で実施した。 2. 非対面の講義の中で小テストを実施するためにGoogle Formsを使用した。 3. 非対面の講義の中で質問を受け付けるためにGoogle Formsを使用した。	1. Zoomでの講義は、学生の反応がわからないという欠点があるため、次年度は対面で授業を行うことが望ましい。 2. 授業の振り返りとして小テストを実施することは意味があると考えているが、一部の学生はほとんど授業を聞いていないことがわかった。 3. 対面授業の時よりも質問が多くなっていた。対面授業でも質問をしやすくする工夫が必要であると感じた。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 演習科目である「人間教育研究基礎」を受講生に対する、履修指導およびZoomの使い方練習会の開催	2020（令和2）年4月下旬から5月上旬に演習科目である「人間教育研究基礎」を受講する学生に対して、メールで履修指導を実施した（対面でできなかったため）。また、2020（令和2）年5月上旬に「人間教育研究基礎」を受講する学生に対してZoomの使い方の練習会を開いた。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	山内 武巳	就任年度	1998（平成9）年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 運動方法学、運動生理学、食生活論、健康と食生活論、体育、心理学基礎実習、人間文化入門、人間文化演習Ⅰ、人間文化演習Ⅱ、健康科学と身体運動
2.大学院担当科目 運動生体情報学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018（平成 30 年）年～継続中	日本登山医学会社員
2018（平成 30 年）年～継続中	大学バックカントリー研究会理事
2019（令和 1）年～継続中	石巻市スポーツ推進審議会委員
2018（平成 30 年）年～継続中	いしのまき・スマート・プロジェクト実行委員
2019（令和 1）年～継続中	一般社団法人日本セーフティーカヌーイング協会監事
2019（令和 1）年 3 月 31 日～継続中	石巻登山マラソン実行委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2019（令和 1）年 4 月～2021（令和 1）年 3 月	人間文化学科主任	
2019（令和 1）年 4 月～継続中	安全衛星委員会	
2019（令和 1）年 4 月～2021（令和 1）年 3 月	人間学部教務委員会	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） コロナ禍において非対面授業での体育は、運動動作に関するビデオを作成して Youtube にアップロードし、映像を見せながらの授業を中心に行った。講義科目では前期において学生の通信量を考慮して Zoom 等のオンライン授業を避け、テキストを用いたオンデマンド授業を行ったが、授業科目の性格上、数字を扱うことが必須であり、テキストのみでは計算を十分に理解することが困難であったことが授業評価の授業内容の理解度等からわかった。後期授業からは Zoom 等のオンライン授業方式に変更した。	次年度以降、対面の授業を実施することが前提となっているが、本年度に利用した Office365 の Teams や Forms は学生の理解度を毎回授業で把握することができ、今後も有効に利用していきたい。また学生の学修時間を増やす取り組みが必要であると感じている。
（実験） 心理学基礎実習 生理心理学分野の実習を担当しているが、カリキュラムに生理心理学分野の講義科目がないことから、2回の授業だけでは体験的な内容で終わってしまっている。またコロナ禍の対応として対象者との接触を可能な限り避けた実験内容としたため、十分な実験データを取得することができなかったかもしれない。	生理心理学分野の実習を担当しているが、カリキュラムに生理心理学分野の講義科目がないことから、2回の授業だけでは体験的な内容で終わってしまっている。次年度は3回になる予定であり、予習復習の時間を有効利用することで、学生の理解度を高めたい。
（ゼミナール・卒業研究・演習） コロナ禍の対応として Zoom を利用した指導となった。卒業研究では研究テーマの決定や方法論については学生自身の主体性を重んじ、一方で行き詰まった学生や自主性の乏しい学生には個別指導を積極的に行っているが、コロナ禍の対応として人を対象とした実験をすることができず、山内研究室の特徴を十分に発揮することができなかった年度であった。	今年度はコロナ禍の影響により、文献調査のメタ分析が卒業論文テーマとなったが、次年度以降は調査系のテーマだけでなく、実験系のテーマも学生に勧めていきたい。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	輪田 直子	就任年度	2004（平成 16）年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 中国語 AI・AII・BI・BII、キャリア設計、国際体験研修（異文化体験型）、人間文化入門、人間文化基礎演習、中国語中級 I・II、中国語翻訳入門 I・II、中国語コミュニケーション、中国文化論、中国文学論、中国文学研究、地域文化研究（中国）、人間文化演習 I・II
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020(令和2)年10月25日	全日本中国語スピーチコンテスト東北大会 審査員
2004(平成16)年度～継続中	『集刊東洋学』編集顧問
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2006（平成 18）年 4 月～継続中	国際交流センター運営委員	
2019（令和 1）年 4 月～継続中	人間学部教務委員長	
2018（平成 30）年 4 月～継続中	全学教務委員会言語教育専門部会長	
2017（平成 29）年 4 月～継続中	高大接続連携事業担当	

VI その他特記すべき事項

国際交流センター運営委員として、中国・東北電力大学との国際交流の一環として、学生参加の定期的な Zoom 交流会を開催。

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業）新型コロナウイルス感染予防のため、ほとんどの授業を非対面（Zoom）で実施。語学科目のうち初級では、人数も多いため授業時間中の発音確認は最低限に留め、発音音源や練習問題をファイルで提出することを毎回課題とした。その結果、例年に比べ授業以外の学習時間が確保され、学生の学習全体に対する満足度も高く、授業評価も高くなった。語学の中級以上、講義科目でも基本的には Zoom で授業中のファイルやりとりなどを通じ、スムーズな授業が展開できていた。	学生の通信環境、機器の水準にばらつきがあり、授業の体制を整えるのに時間がかかった。また、映像などを用いた授業はオンラインではやはり実施が難しかった。来年度以降も非対面授業の可能性が高いため、これらの環境改善は急がれる。また、Zoom では個人情報保護は考慮しつつも、やはり顔を出してのディスカッションがより深い理解へ必要であると思われる。
（実験）特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習）4 年次の卒論指導は、後期の前半以外、ほぼ個別指導を Zoom で実施。学生の進捗状況に合わせ、時間の制限を設けず授業時間以外にも対応することで、丁寧な執筆指導を実現することができた。3 年次は前期はテキストの輪読を Zoom で実施したが、意見交換は若干やりづらい部分もあり。後期の前半に対面で研究活動を報告し合う機会を持てたことで、各自の研究レベルが向上した。年度末の成果も大部分の学生は次年度につながるものになった。	非対面でのゼミ活動は、力のある学生にはかえって効率的に実施できる部分もあるが、通常に比べどうしても課題を多めにこなす必要も出てくるため、通常授業についていくのに苦慮している学生にとっては負担感も大きくなる傾向がある。より丁寧な指導を心がけたい。
（その他特記すべき事項）特記事項なし	

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	特任教授	氏名	有見 正敏	就任年度	2014（平成26）年度
----	-------------	----	------	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 「算数」「専門職研究」「保育・教育研究」「専門教養演習」「初等教育実習事前事後指導」「初等教育実習Ⅰ・Ⅱ」「人間教育研究基礎」
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2020（令和2）年 10月22日(木)	登米市算数科研修会（登米市立米山東小学校） 「新学習指導要領を踏まえた算数科の授業づくり」と題して講演
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020(令和2)年度 5月22日、7月30日、2月18日	矢本西小学校学校運営協議会委員
2020(令和2)年度 10月30日、1月15日	女川の教育を考える会委員
2020(令和2)年度 7月30日、12月22日	仙台市教員育成協議会委員
2020(令和2)年度 7月 3日、8月19日	女川町教育行政評価委員
2020(令和2)年度 6月12日、6月30日	石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価委員
2020(令和2)年度 2月 5日	石巻市食育推進委員(副会長)
【その他研究活動上特記すべき事項】 「教育改革支援助成」において、「保育士・教員を学生に対する保育士・教員養成センターの役割」のテーマを設定し、教育改革の内容、波及効果、発展性等についてまとめ、今後の展望を示すことができた。	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020（令和2）年度 6月、11月	教育人材育成拠点校連携推進連絡会（保育士・教員養成副センター長）	コロナ感染予防のため中止
2020（令和2）年度 1月	石巻圏域保育・教育人材育成推進協議会（保育士・教員養成副センター長）	コロナ感染予防のため中止

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	改善に向けて
（授業）オンラインでの授業がほとんどであった。現場での演習が出来なかった分、保育や授業の様子は映像を通して理解させた。毎回、振り返りの時間を設け、内容の理解と時次への意欲の喚起に努めた。	問いに対する評価が殆んど4以上であった。中でも意欲的に受講したことが良かった。非対面での授業であったが、効果的にDVDを活用し、保育や授業の雰囲気を感じ取らせることができた。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習）ゼミにおいては、現場で実践することを目標に、研究に取り組ませた。4年生のゼミでは、指導案を作成し実践することができた。「専門教養演習」では、二日間のインターンシップを実施し、そこで学んだことを各自で調査研究をし、冊子にまとめることができた。	4年のゼミにおいては、実践校の先生方から高い評価を受けた。3年のゼミは次年度への見通しを持つことができた。 インターンシップが3年次での教育実習への意欲につながった。インターンシップを引き受けた学校には調査研究した冊子を送り御礼に返ることができた。
（その他特記すべき事項）教員を目指す学生を対象（2年次～4年次）に、週5回、正課外授業（教育法規、教育時事等）を行った。また、長期休業中の2月にも2年次～4年次を対象に教職ゼミナールを実施した。	先生方の協力の基、小学校教諭6名、中学校教諭3名（理科2、英語1）が宮城県の教員に合格した。次年度は、公立保育を目指す学生を対象としたゼミナールも実施していきたい。

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	特任教授	氏名	田中 秀典	就任年度	2014（平成 26）年度
----	-------------	----	------	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 算数、初等教科教育法（算数）、道德教育の理論と指導法、特別活動の指導法、生徒・進路指導の理論と方法、保育実習Ⅰ・Ⅱ、人間教育研究基礎、人間教育研究Ⅰ・Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 生徒・進路指導論【初等】（仙台白百合大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 道德教育の理論と指導法、特別活動の指導法、生徒・進路指導の理論と方法	令和 2 年 3 月 月から随時	コロナ禍にあって ZOOM 授業に対応するため、授業資料のポイントをプレゼン化した。
2.作成した教科書、教材、参考書 道德教育の理論と指導法、特別活動の指導法、生徒・進路指導の理論と方法	令和 2 年 3 月 月から随時	コロナ禍にあって ZOOM 授業に対応するため、授業資料のポイントをプレゼン化し、演習課題もより教育現場に即した設定を行い、学生の理解を深めるよう努めた。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
算数教育ハンドブック	共著	令和2年 予定●延期	学校図書	礪田正美（筑波大） 神林信之（鎌倉女子大）	150 ページ	無
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
令和2年4月～3月	第9期『耕人塾』事務局長として、活動及び事務に専念。
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2019（平成 31 年）4 月 1 日～継続中	石巻専修大学保育士・教員養成センター委員	
2019（平成 31 年）4 月 1 日～継続中	石巻専修大学就職指導部委員	
2019（平成 31 年）4 月 1 日～継続中	宮城県教職員育成協議会採用部会	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 学生の授業内容の理解を深めるために、より多くの事例を交えて、演習的に行っている。 コロナ禍にあって ZOOM での授業に対応するため、資料のポイントをプレゼン化し、要点をまとめた具体的な演習課題に取り組んだ。前年度よりも授業評価が高まった授業があった反面、前年度まで高得点だった「算数」においては、内容が十分学生に伝わらなかったことが残念である。	前年度の授業評価にもとづく改善 （理解数値を高めるための具体的事例を取り入れた演習的授業） 小学校現場における実践的な課題が多いので、模擬授業などを行うが、一人ひとりの学生の課題を整理し、再構成させるまでの時間は不足している。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 算数を窓口に数人のゼミ形式で、教科の指導法を深めていく仕組みを作る。	人間教育研究基礎では、算数好きな学生とともに内容を見直す良い時間となっている。「意味」を大切に学生が入り、昨年度より数段充実している。 人間教育研究Ⅰ・Ⅱにおいては、課題を焦点化したり表現したりできない学生がいて、互いに苦勞した。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	特任教授	氏名	横江 信一	就任年度	2018(平成 30)年度
----	-------------	----	------	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 保育・教職実践演習（幼・小）、初等教育実習事前事後指導、地域と政策、初等教育実習Ⅰ、初等教育実習Ⅱ、フレッシュマンセミナー、キャリア設計 保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱ、幼児教育実習事前事後指導、幼児教育実習Ⅰ、幼児教育実習Ⅱ、人間教育研究基礎、人間教育研究Ⅰ、人間教育研究Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 宮城県志津川高等学校模擬授業 石巻好文館高等学校出前授業	2020(令和 2)年 9 月 9 日 2020(令和 2)年 7 月 8 日	宮城県志津川高等学校 1 年生 7 名を対象に、「p4c」探究の対話で大切な価値を見つけませんか?をテーマにして、多様な考えを引き出すコミュニケーションづくりに関する授業を行った。 総合的な学習の時間「甲斐ある人といわれたいむ」で 2 年生対象に「これから求められる人間関係づくり」をテーマに、多様な価値観を類型化し、他者と折り合いを付けながら合意形成を図る新たなコミュニケーションづくりの在り方を授業として実施した。
2.作成した教科書、教材、参考書		特記事項なし

3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 SDGs 地域課題研究作戦会議	2021(令和3)年3月18日	宮城県石巻西高等学校第2学年のSDGs地域課題研究に向けて担当8名の個別面談を行い、テーマを明確にするとともに今後の活動に見通しを持つことができるようする。
登米市教育委員会第2回初任者研修会	2020(令和2)年11月17日	登米市立小・中学校に所属している29名の小・中・幼稚園初任者対象に「支え合い学びあう学級づくり」をテーマにして講話を行った。
第2回女川町校務等研修会	2020(令和2)年7月29日	女川町立小・中学校教頭、教務対象に「今日的課題を踏まえた管理職選考論文の書き方」をテーマとして、管理職に求められる資質や学校を取り巻く今日的課題に対応した論文作成について講話と演習を行った。
分野別課題研究中間発表会助言	2020(令和2)年7月8日	宮城県石巻好文館高等学校2年次対象の高大接続事業「甲斐ある人といわれたいむ」(総合的な学習の時間)における分野別課題研究ゼミ内発表会(教育・保育・心理学等)で31名の学生に対して講評を行った。
4. その他教育活動上特記すべき事項 教師力向上オンラインセミナー	2020(令和2)年6月27日～2020(令和2)年8月29日	教師になる志がある学生や各小・中学校に勤務している臨時的任用教員を対象として、学校現場の勤務や教員採用試験の受験に対する不安解消に努めるとともに、教職に対する情熱・使命感を高め、教師としての実践的指導力の向上を図った。本学学生、小・中学校講師、現職小中学校教員、担当教員で延べ人数66名参加。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
小学校教員養成に関するプログラム開発	単独	2021(令和3)年3月20日	石巻専修大学研究紀要第32号	石巻専修大学	141～152	無
SDGsの視点に立った総合的な学習の時間の実践に関する一考察	単独	2020(令和2)年11月14日	日本生活科・総合的学習教育学会 令和2年度第29回全国大会山梨 大会 大会紀要	日本生活科・総合的学 習教育学会	281	無
小学校教員の資質向上を図る実践プログラムに関する一考察・教師力向上セミナーの実践を通して	単独	2020(令和2)年9月15日	日本キャリア教育学会第42回研 究大会発表論文集	日本キャリア教育学会	127-128	無
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記 入)		
学級活動における「基礎的・汎用的能力」の育成に関する一考察ー「キャリア・パスポート」の活用事例からー (WEB開催)	単独	2020(令和2)年12月12日	日本特別活動学会			
SDGsの視点に立った総合的な学習の時間の実践に関する一考察 (WEB開催)	単独	2020(令和2)年11月14日	日本生活科・総合的学習教育学会			
小学校教員の資質向上を図る実践プログラムに関する一考察ー教師力向上セミナーの実践を通してー (WEB開催)	単独	2020(令和2)年9月15日	日本キャリア教育学会			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020(令和 2)年 11 月 2 日～継続中	東松島市教育委員会事務事業に関する点検評価有識者
2020(令和 2)年 9 月 30 日～継続中	石巻市障害福祉推進委員会（委員長）
2020(令和 2)年 9 月 29 日	石巻市かもめ学園指定管理者候補者選定委員会（委員長）
2020(令和 2)年 8 月 31 日	石巻市立小中高等学校タブレット端末整備事業プロポーザル選定委員会（委員長）
2020(令和 2)年 4 月 1 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員
2020(令和 2)年 6 月 1 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	宮城県石巻好文館高等学校学校評議員
2020(令和 2)年 5 月 13 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	石巻市小・中学校不登校児童生徒対応協議会委員
2020(令和 2)年 4 月 1 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	東松島市立矢本東小学校学校運営協議会委員
2020(令和 2)年 4 月 1 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	女川町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員
2020(令和 2)年 4 月 1 日～継続中	東松島市小・中学校連携教育推進委員会（副委員長）
2020(令和 2)年 4 月 1 日～継続中	東松島市いじめ問題対策調査委員会委員
2020(令和 2)年 4 月 1 日～継続中	石巻市いじめ問題対策調査委員会委員(委員長)
2020(令和 2)年 4 月 1 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	石巻市震災復興推進会議委員（副委員長）
2018(平成 30)年度～継続中	日本生活科・総合的学習教育学会会員
2018(平成 30)年度～継続中	日本キャリア教育学会会員
2018(平成 30)年度～継続中	日本特別活動学会会員
2018(平成 30)年度～継続中	日本学級経営学会会員
【その他研究活動上特記すべき事項】	
2019(令和元)年 8 月 2 日～継続中 石巻地区学級づくり研究会 会長	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020(令和 2)年 4 月 1 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	保育士・教員養成センター委員	
2020(令和 2)年 4 月 1 日～2021(令和 3)年 3 月 31 日	高大接続研究事業担当(石巻好文館高等学校)	

2020(令和2)年4月1日～2021(令和3)年3月31日	石巻地区高等学校校長会担当	
2020(令和2)年4月1日～2021(令和3)年3月31日	開放センター委員会委員・開放センター教育連携部会長	
2020(令和2)年4月1日～2021(令和3)年3月31日	人間学部クラス担任(人間教育学科2年次)	
2020(令和2)年4月1日～2021(令和3)年3月31日	石巻専修大学剣道部部長	

VI その他特記すべき事項

2020(令和2)年4月1日～継続中	中学・高校生人間力育成「耕人塾」運営委員長(地域のゴミ拾い活動等の社会奉仕活動の実践)
2020(令和2)年4月1日～継続中	いしのまきレクリエーション協会副会長
2020(令和2)年4月1日～継続中	石巻市子ども会育成会石巻支部事務長

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み(工夫や授業アンケート結果への対応など)	改善へ向けて
(授業) Z o o mによるオンライン授業が多かったため、事前に予習課題意識を持たせて授業に参加させ、授業中の質問をチャットで受け付け、ブレイクアウトルームで課題別のグループ(ペア)討議を実施するとともに「振り返りシート」による自己評価を行い、学習成果の向上を目指した。	授業アンケートでは、課題に対する意欲・関心を高めることができ、一定の成果が得られた。次年度は、課題に対するグループ討議の工夫改善により主体的な思考力の改善に取り組む。
(実験) 教職課程における教育実習の事前指導において、ビデオによる理科の模擬授業による実験方法の工夫改善に努め、課題追究意欲の向上を目指した。	仮説・検証の見通しを持ち、授業改善を図ることができた。次年度は、更に模擬授業のV T R視聴分析により課題追究していき主体的な活動に取り組む。
(ゼミナール・卒業研究・演習) (1)人間教育研究基礎では、課題解決の手法を身に付けさせ、コミュニケーション能力の開発を目指した。 (2)人間教育研究Ⅰ・Ⅱでは、見通しを持ったプレゼンテーションができるよう課題シートを活用して学習成果の向上を目指した。	(1)授業参観によるV T R内容の分析を行い、授業づくりの視点研究を深めることができた。熟議の手法を身に付けさせることができた。今後、更に合意形成を図ることができるよう取り組む。 (2)個人毎の発表とグループ討議により成果が得られた。次年度は、実態調査を行い、課題に対する思考力、判断力等の改善に取り組む。

(その他特記すべき事項) 宮城県教員採用試験受験を支援する保育士・教員養成センター主催事業と開放センターの連携による「教師力向上オンラインセミナー」で、現職の臨時的任用教員と学生が合同で一次試験対策と二次試験の個人面接と集団討議対策を実施した。(新型コロナウイルス感染拡大に伴い、Z o o mによるオンラインセミナーを実施)	人間学部人間教育学科7名が宮城県教員採用試験を受験し、5名が二次試験に合格した。今後、本学の学生の小学校教員になるための資質向上に向けて、学校現場に勤務している10年未満の現職教員にも参加を促し、教員採用試験の合格に留めず、「養成・採用・研修」の一体化による実践的指導力の向上を図ることができるようにする。そこで、石巻専修大学開放センター教育連携部会、保育士・教員養成センターと連携し、東部地区小・中学校長会、石巻市・東松島市・登米市・女川町各教育委員会と協働体制で質の高い小中学校教員養成に向けた「教師力向上セミナー(石巻教師塾)」の実践に取り組む。
---	---

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	准教授	氏名	阿部正典	就任年度	2013（平成 25）年度
----	-------------	----	-----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 基礎数学、数学、基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱ、理工数学、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、環境と科学、環境物理学、基礎総合演習Ⅱ
2.大学院担当科目 応用物性学特論Ⅱ
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 理工学部、経営学部、人間学部の基礎的な数学教育として、基礎数学、数学、理工数学、基礎数学ⅠⅡの講義を行った。理工数学においては演習を含めた講義を、その他の数学科目においては課題学習を多く取り入れた講義を行った。今年度は特にすべての講義をオンラインで行うため、全135時間分の講義動画を作成し、動画サイト(YouTube)で講義受講者に限定公開した。	今年度も緊急的に全面的なオンライン講義になることを想定して、すべての講義科目の動画を再検討するとともに、目次などのテキストベースのコンテンツを充実させる。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	准教授	氏名	平川 久美子	就任年度	2013（平成 25）年度
----	-------------	----	-----	----	--------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 教育心理学、発達心理学、心理学基礎実験、心理学基礎実習、保育原理、障害児保育、家庭支援論、幼児理解の理論と方法、人間教育研究基礎、人間教育研究Ⅰ、人間教育研究Ⅱ、保育実習指導Ⅱ、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 母性の性と心理（スズキ病院附属助産学校）（2020（令和 2）年度）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
児童期における「気になる」子どもの行動特徴と 情動発達との関連	共著	2020(令和 2)年 12 月	臨床発達心理実践研究第 15 巻第 2 号	本郷一夫・平川久美子・ 飯島典子・高橋千枝・ 相澤雅文	68-76	有
保育の場における巡回相談の効果―「気になる」 子どもの変化と保育者の関わりの変化に着目して ―	単著	2021(令和 3)年 3 月	石巻専修大学研究紀要第 32 巻		107-112	無
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
幼児期の情動発達と行動特徴との関連に関する研 究 5―表情および言葉による情動表現に影響を及 ぼす要因の検討―	共同	2020(令和 2)年 11 月	日本発達支援学会第 2 回大会	平川久美子・飯島典子・ 高橋千枝・本郷一夫		
幼児期の情動発達と行動特徴との関連に関する研 究 7―情動発達と ADHD 傾向および ASD 傾向と の関連―	共同	2021(令和 3)年 3 月	日本発達心理学会第 32 回大会	平川久美子・高橋千枝・ 飯島典子・本郷一夫		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2013（平成 25）年度～継続中	塩竈市子ども・子育て会議 委員
2015（平成 27）年度～継続中	仙台市保育専門技術向上支援事業 スーパーバイザー
2018（平成 30）年度～継続中	日本臨床発達心理士会東北支部 事務局長
2018（平成 30）年度～継続中	日本臨床発達心理士会 研修委員会 委員
2019（令和 1）年度～継続中	一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構 資格認定委員会 委員
2020（令和 2）年度～継続中	日本発達支援学会 理事
2020（令和 2）年度～継続中	日本発達支援学会 『発達支援学研究』編集委員会 委員（副編集委員長）
2020（令和 2）年度～継続中	石巻市保育専門技術向上支援事業 スーパーバイザー
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017（平成 29）年度～継続中	人間学部クラス担任（人間教育学科 4 年次）	
2017（平成 29）年度～継続中	紀要編集委員会委員	
2019（令和 1）年度～継続中	学生部委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 非対面授業は主にオンデマンド形式で実施し、学生には動画公開期間内に講義動画を視聴し、課題に取り組むよう求めた。通常、対面授業ではパワーポイントに合わせた穴埋め式の講義プリントを配付しているが、前期の授業においては学生の受講環境にかなり個人差があり、プリンタが自宅にない学生も多いと考えられたことから、学生間の不公平感を減らすために資料は配付せずに動画を見ながら各自でノートを取るよう指示した。 対面授業では、従来通りパワーポイントや穴埋め式の講義プリント、VTR を活用し、学生の理解の促進を図った。	前期の授業評価アンケートにおいて「ノートを取ることで内容が頭に入りやすかった」という意見もあったものの、「ノートを取るのに時間がかかった」「資料があったほうが良い」という意見もあったため、後期の授業では、大学で資料を印刷することもできるようになったため、講義プリントを資料として提示し、使用するかどうかは学生の判断に任せることとした。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 「人間教育研究基礎」では幼児教育実習前は教材研究を行い、みんなで同じ教材を作成したり、それぞれが作成した教材を持ち寄りって他の学生の前で実践したりする機会を作った。幼児教育実習後は文献購読を行い、学生が各章を担当して「気になる」子どもの事例を「子どもの姿」「他児（クラス）の姿」「保育者の思い・願い」「保育者の関わり」に分けて時系列に沿って整理し、発表してもらった。	教材研究については、実習前に他の学生の前で実践することで練習になっただけでなく、他の学生の意見からさらにどのような工夫があるとより良い教材になるかなどを考えるきっかけにもなったようだった。 文献研究については、「子どもの姿」「他児（クラス）の姿」「保育者の思い・願い」「保育者の関わり」の関連性を意識しながら事例を整理することは難しい様子だった。普段本を読む習慣がない学生にとっては少し負担が大きかったかもしれないが、保育実習や幼児教育実習での経験を思い浮かべながら理解を深めている様子だった。文献購読を通して見出された保育・教育に関する課題を次年度の人間教育研究Ⅰ・Ⅱでさらに深め、保育・教育に対する自らの考えを構築できるよう指導したい。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	准教授	氏名	永山 貴洋	就任年度	2013（平成25）年度
----	-------------	----	-----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 健康心理学、心理学基礎実験、心理学基礎実習、幼児体育、健康科学と身体運動、幼児と健康、保育内容（健康）、初等教科教育法（体育）、子どもと野外活動、人間教育研究基礎、人間教育研究Ⅰ、人間教育研究Ⅱ、幼児教育実習事前事後指導、幼児教育実習Ⅰ、幼児教育実習Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) スポーツ心理学Ⅰ（仙台医健・スポーツ&こども専門学校）、スポーツ心理学Ⅱ（仙台医健・スポーツ&こども専門学校）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
Exploring learning strategies for creativity: A qualitative study of expert athletes unlearning experiences	共同	2020（令和 2）年10月	25th annual congress of the ECSS (European college of sport science)	KITAMURA、 K.、 NAGAYAMA、 T.、 SAITO、 S.		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2019（令和1）年8月5日	石巻専修大学教員免許講習講師
【その他研究活動上特記すべき事項】 科研費（研究代表者）2018（平成30）年度～2020（平成32）年度 「適応的熟達化に向けた身体技能創造を支援するコーチングモデルの構築」（基盤研究（C））	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2019（令和1）年4月～	入学試験委員会委員	
2019（令和1）年4月～	スポーツ推薦入学試験評価委員会委員	
2019（令和1）年4月～	広報委員会委員	
2017（平成29）年4月～	保育士教員養成センター委員	
2020（令和2）年4月～	人間教育学科1年次クラス担任	
2020（令和2）年10月～2021（令和3）2月	石巻専修大学「中長期ビジョン」行動計画策定プロジェクト代表	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） Google forms によるアンケートを利用した授業改善	非対面授業が中心であったが、Google forms を活用したアンケートを通して、学生の理解度を把握しながら、授業内容の改善に努めた。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） （1）学生が保育・教育に関する課題を見出すことを目的として、「人間教育研究基礎」において文献講読やディスカッションを実施した。 （2）「人間教育研究Ⅰ」、「人間教育研究Ⅱ」において、学生の興味関心に応じたテーマで卒業研究を指導した。	学生は自身の興味関心にもとづき、保育・教育に関する課題を見いだすことができていた。次年度の人間教育研究Ⅰ・Ⅱでは、課題をより具体化して、学生自身が課題を解決できるように指導したい。 学生が社会の諸課題に興味、関心をもち、調査した結果をもとに考察することができるよう、卒業研究を通して指導した。
（その他特記すべき事項） （1）「認定心理士」資格取得を希望する人間文化学科、人間教育学科の学生に対する指導、申請のサポートを行った。 （2）2020（令和2）年9月25日、仙台向山高校アカデミックインターンシップを行った。 （3）2020（令和2）年10月28日、本学にて桜坂高校1年生に対し体験授業を行った。	（1）今年度は、新型コロナウイルスの影響で、一括申請ではなく個別申請を行うこととしたが、卒業後に各自が申請できるように申請書類の準備を支援した。 （2）保育士希望の高校2年生2名の質問に、Zoomを通して回答した。 「子どもの才能について考えてみよう」のテーマで体験授業を実施し、概ね好評であった。

2020（令和2）年度 教員活動報告書

【2020(令和2)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	遠藤 郁子	就任年度	2020(令和2)年
----	-------------	----	----	----	-------	------	------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 日本文学へのいざない、日本文化、日本文学論、日本文学研究、初等教科教育法（国語）、国語、人間文化演習Ⅰ、人間文化演習Ⅱ、人間文化入門
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
石ノ森章太郎萬画の受容と地域の関わりをめぐる 実践研究	単著	2021（令和 3）年3月	『石巻専修大学研究紀要』32号			
【その他】（報告書など）						
宇佐見りん『推し、燃ゆ』——綿棒分の浮力を掴 むしたたかな生	単著	2021（令和 3）年3月	「女性文学会通信」第1号			
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018（平成 30）年度～継続中	日本近代文学会東北支部会務委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） オンライン授業が主となった今年度は、各授業において授業前・授業後の指定課題、振り返りシートを配布し、学生の回答をもとにした授業を展開することで一方通行の授業にならないように工夫した。	振り返りシートなどを活用し、学生の授業理解度などを検討し、場合によって次の時間に補足説明することで、多角的な指導を行うことができた。しかし、回答の紹介が冗長になることがあったので、改善していきたい。
（実験） 特記事項なし。	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 主にオンラインでの個人指導を行い、学生個人の興味関心にできる限り寄り添い、個別にきめ細かい指導を行うように心掛けた。	個別対応によって、それぞれの学生の課題に応じた指導を行い、充実した卒業研究を完成させた。画面共有をしながら添削するスタイルは学生にも好評であったので、今後も取り入れていきたい。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし。	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	准教授	氏名	佐藤 誠子	就任年度	2014（平成 26）年度
----	-------------	----	-----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 心理学—心の科学—，心理学概論，人間学概論，教育心理学（中等），教育相談の理論と方法（中等），生徒・進路指導の理論と方法（中等），学習心理学，心理学基礎実験，心理学基礎実習，幼児教育実習事前事後指導，幼児教育実習Ⅰ，幼児教育実習Ⅱ，フレッシュマンセミナー，人間教育研究基礎，人間教育研究Ⅰ，人間教育研究Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 保育の心理学（会津大学短期大学部）（2020(令和 2)年），教育相談（聖和学園短期大学）（2020(令和 2)年）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 人間教育学科 FD 講師	2020(令和 2) 年 4 月 28 日	非対面授業（オンライン授業）実施に向け，Zoom および Course Power の授業活用方法について事例説明をおこなった。
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
算数授業における割合の問題解決を促進する教授法の効果―「比例関係」と「具体的定義」に着目して―	共著	2020(令 和 2)年 5 月	教授学習心理学研究, 15(2)	蛭名正司・ <u>佐藤誠子</u>	pp.70-80.	有
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
「誘導法」によるルール学習研究(1)―文章教材による知識システム化の教授実験の結果―	共同	2020(令 和 2)年 7 月	日本教授学習心理学会第 16 回年会	<u>佐藤誠子</u> ・工藤与志文・ 進藤聡彦		
「誘導法」によるルール学習研究(2)―「ルール不使用説」の提唱―	共同	2020(令 和 2)年 7 月	日本教授学習心理学会第 16 回年会	工藤与志文・ <u>佐藤誠子</u> ・ 進藤聡彦		
大学生の割合文章題第 3 用法の解決にみられる演算選択―見積もりおよび制限的乗法・除法観との関連―	単独	2020(令 和 2)年 9 月	日本教育心理学会 62 回総会			
課題解決における既有知識の使用に及ぼす大学教育の影響―「誘導法」による分析―	共同	2020(令 和 2)年 9 月	日本教育心理学会 62 回総会	工藤与志文・進藤聡彦・ <u>佐藤誠子</u>		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017(平成 29)年 7 月～継続中	日本教授学習心理学会 編集委員会
2020(令和 2)年 4 月～継続中	日本教授学習心理学会 監事
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

Ⅴ 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017(平成 29)年 4 月～	人間学部教務委員会委員	
2019(令和 1)年 4 月～	人を対象とする研究倫理審査委員会委員	
2020(令和 2)年 10 月～2021(令和 3)年 2 月	「中長期ビジョン」行動計画策定プロジェクト構成員	

Ⅵ その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 非対面授業に対応したスライド資料およびレジュメ資料を新たに作成した。これらは Course Power に一定期間アップし学生の学習機会を保障した。また、授業時間内は Zoom チャットを活用し質問を受け付け、授業後は Google Forms により授業の感想・質問を提出してもらった。授業内容に深く関係する質問や発展的な内容の感想は次回授業の冒頭で紹介した。このことは、学生にとって非対面でも他学生の意見を知る機会につながった。	授業評価アンケートでは、各担当科目とも全体平均以上の評価をいただいた。自由記述では、質問に対する応答や実験等があつて対面授業を受けているようだったとの感想もあり、授業実施の工夫の成果が表れたといえる。次年度も、各回の自身の授業を振り返り、学習目標を達成できるよう授業改善に取り組む。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 人間教育研究Ⅰ・Ⅱでは、学生の興味関心に応じて学生自身にテーマを設定させ、先行研究の検討、質問紙作成、データ収集、統計的分析、論文作成について一から個別指導をおこなった。	テーマ設定からデータ収集・分析、考察、執筆まで学生自身が主体的に取り組み、最終的に 1 つの論文にまとめることができた。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	助教	氏名	杉浦 ちなみ	就任年度	2018（平成 30）年度
----	-------------	----	----	----	--------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 人間文化入門、教育社会学、社会教育論、社会教育実習、フレッシュマンセミナー、人間文化演習Ⅰ、人間文化演習Ⅱ、生涯学習論、社会教育演習
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 （1）高校生を対象とした体験授業① （2）高校生を対象とした体験授業②	2020(令 和 2)年 8 月 22 日 2020(令 和 2)年 9 月 9	本学のオープンキャンパスの一環で、高校生を対象に、地域づくりと社会教育・生涯学習をテーマに模擬授業を行った。（「地域づくりと学習」） 本学の体験授業の一環で、志津川高校一年生の生徒に、模擬授業を行った。大学での学びの紹介として、フィールドワークという調査手法をテーマとした。（「フィ

(3) 専修大学嶋根克己ゼミナール、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学 (USSH) とのジョイントセミナーについての紹介	日 2020(令 和 2)年 11 月 27 日	ールドワークの魅力 歩きながら考える」) 専修大学嶋根克己ゼミナール、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学 (USSH) と本学をオンラインでつないだジョイントセミナーを行った。同セミナーについて、以下の媒体で紹介がなされた。①本学 HP「TOPICS」(2020 年 12 月 10 日)、②専修大学 HP「TOPICS」(2020 年 12 月 3 日)、③ニュース専修(2020 年 12 月号)
(4) 専修大学嶋根克己ゼミナールとの 2019 年度合同ゼミ報告書の作成	2020(令 和 2)年 3 月 (※)	2019 年度の専修大学・嶋根ゼミとの合同ゼミ活動の成果をまとめることを目的に、石巻専修大学学生、専修大学学生とともに、『石巻専修大学×専修大学合同ゼミ報告書—石巻地域のこれまでとこれから：震災・復興の歩み—』(石巻専修大学人間学部人間文化学科社会教育学研究室、2020 年 3 月)を作成した。 (※)印刷が遅れ、昨年度の教員活動報告書に記載できなかったため、今年度の報告に含めた。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
1980年代の「郷土教育」をめぐる論争と実践―鹿 児島県を事例に―	単著	2020(令和 2)年12月	『教育学研究』第87巻第4号		106-118	有
【その他】(報告書など)						
ほころぶ日常のなかで再び音楽に出会う―石巻で の対話から	単著	2020(令和 2)年11月	旬報社、月刊社会教育 64(11)		70-73	無
震災伝承を考える―東北の伝承施設から―	単著	2021(令和 3)年1月	旬報社、月刊社会教育 65(1)		33-38	無
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
石巻地域における自己教育運動の歴史に関する研 究	単独	2020(令和 2)年11月	令和元年度 I S 奨学研究員発表会			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
平成 24 年 6 月～現在	地域文化研究会（会員）
平成 25 年 8 月～現在	社会教育研究全国集会「地域文化の創造と社会教育」分科会（2016 年より同分科会全国世話人）
平成 26 年 5 月～現在	日本社会教育学会（会員）
平成 28 年 5 月～現在	日本音楽教育学会（会員）
平成 28 年 12 月～現在	日本教育学会（会員）
平成 29 年 10 月～現在	『月刊社会教育』編集協力委員
令和 2 年 6 月～令和 3 年 3 月 31 日	岩手県胆沢郡金ケ崎町生涯教育研究センター研究員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018（平成 30）年度～継続	就職指導部委員	
2019（令和 1）年度～継続	人間学部人間文化学科 2 年次クラス担任（2019 年度入学者クラス担任）	

VI その他特記すべき事項

【競争的資金の獲得】 (1) 2020（令和 2）年度石巻専修大学研究助成（個別研究）：地域文化の「伝承」概念に関する理論的研究 【編集協力】 (1) 北田耕也先生追悼集編集委員会編『直指人心―北田耕也先生追悼集』私家版、2020 年 7 月 【社会教育関係者を対象とした研修の実施】 (1) 杉浦ちなみ「公民館の役割について」令和 2 年度金ケ崎町生涯教育研究センター第 2 回研究会、2020 年 10 月 5 日
--

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） 着任3年目の今年度は、新型コロナウイルス感染症が教育・研究に大きく影響した。以下に記す通り、講義科目は主にオンラインで実施するため、授業で使用する資料を見直すとともに、オンライン上だからこそ可能となる授業方法を模索した。演習科目では、前年度までのように学外での演習実施が難しくなり、授業内でのディスカッションがメインとなった。また、2019年度より取り組んでいる専修大学との合同ゼミの活動は、相互訪問は感染症の影響で難しかったが、オンラインの利点を活かし、海外を含む三大学を結んだジョイントセミナーに発展した。次年度以降、今年度の経験を生かしていきたい。 （1）「人間文化入門」（前期）、「教育社会学」（前期）、「社会教育論」（前期）、「生涯学習論」（後期） （2）「人間文化演習Ⅰ」（通年）、「社会教育演習」（後期） （3）「人間文化演習Ⅱ」（通年）	2021年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響は続くことが予想される。講義科目、演習科目ともに、対面・非対面の両方を想定しつつ、授業アンケート等を参考に受講学生の視点にたった教材・資料の改善・開発を行いたい。 講義に使用するためのパワーポイント資料、レジュメをオンライン授業に対応するよう作成した。オンライン上だからこそ、共有しやすくなった資料もあることは発見であった。また、遠方の方にゲスト講師を依頼することが可能となり、学生からも好評であった。 いずれも少人数の演習型授業である。文献購読を通じてテーマについての理解を深めるとともに、各自が感想や疑問点を表現し、議論することを大切にしたい。オンライン上での議論は、進行の上ではスムーズになる良さもあるが、非言語レベルのコミュニケーションがはかりにくい。全ての回とはいかなくとも、対面での実施を一部取り入れることが望ましく、非対面で実施する場合も、更なる工夫が必要である。 卒業論文の指導では、履修者の進捗に応じてアドバイスを行いつつ、共同での議論を重視しながら仕上げてきた。今年度はオンラインで進め卒論の原稿など資料共有がしやすくなった良さを感じた一方で、全てをパソコン等でや

(4) 専修大学嶋根克己ゼミナール、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学（USSH）とのジョイントセミナー	り取りするのは大変なことが多く、紙媒体などのアナログツールを用いるメリットも痛感した。皆が手に取れる距離に本がある環境もまた重要であったことに気付かされた。また、受講者同士が集まることで卒業研究への意欲が高まる面もあるのではないか。今後の状況によって、非対面授業が基本となった場合も、対面での実施も可能ならば取り入れられると良い。 「人間文化演習Ⅰ」「人間文化演習Ⅱ」の授業の一環として、専修大学人間科学部嶋根克己教授、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学（USSH）とのジョイントセミナーをオンラインで実施した。今年度は「SDGs」をテーマとし、それぞれの大学から学生が発表をし、相互交流、相互学習を図った。
(実験) 特記事項なし	
(ゼミナール・卒業研究・演習) 上述の通り、ディスカッション等を取り入れながら授業を行った。学外でのフィールドワークは新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。	今年度の経験を活かしつつ、受講者の特徴に応じて引き続き内容や進め方について工夫し、質の向上を目指す。学外授業や交流活動は学生から特に好評で、実施への期待が大きい。難しい状況が続くが、次年度以降、実施の可能性を探りたい。
(その他特記すべき事項) 特記事項なし	

2020（令和 2）年度 教員活動報告書

【2020(令和 2)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	助教	氏名	目黒 志帆美	就任年度	2018（平成 30）年度
----	-------------	----	----	----	--------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 英語 A、英語 B、教育総合英語 I、総合英語演習 I、フレッシュマンセミナー、人間文化演習 I、人間文化演習 II、英語 D、英米文化論
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 英語 A1、英語 B2（東北大学全学教育）、アメリカ文化形成論 II（東北大学大学院国際文化研究科）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 目黒ゼミ主催「ブラックライブズマター運動を考える」（オンライン講演会）の実施	2020 年 6 月 ～12 月	2020 年にアメリカで起きた人種差別への抗議運動をきっかけに、アメリカの人種についての学びを深める目的のもと、専門家による講義を全 3 回 Zoom で開催した。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
『フラのハワイ王国史―王権と先住民文化の比較 検証を通じた19世紀ハワイ史像』	単著	2020 年 10 月	御茶の水書房			有（科研費 出版助成の 採択を受け 刊行）
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
「石巻で考える『危機』と『希望』と『国際文化』」 (特集平野健一郎受賞者に聞く、受賞者は今)	単著	2021 年 3 月	『インターカルチュラル』（日本国際文化学会） 第 19 号、		47・51 頁	無
【学会発表】	単独・ 共同の別	発表年月	学会の名称	発表者名 (共同の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2020 年 7 月～	日本国際文化学会、編集委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2020 年 4 月～	学生部委員会	
2020 年 4 月～	人間文化学科 3 年生クラス担任	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や授業アンケート結果への対応など）	改善へ向けて
（授業） オンライン授業においては、Zoom を使用したリアルタイム型のほか、Youtube を用いた動画配信型の授業も行った。Teams や LINE 等のツールを利用した学生との連絡体制の構築など、様々な方法を積極的に導入した。 「英米文化論」の授業では、ちょうどアメリカ大統領選挙の最中であったため、Zoom 授業中に大統領選挙の開票結果をリアルタイムで視聴することで現代アメリカ社会についての学生の関心を高める工夫を施した。 常識にとらわれず、総じてオンラインの強みを活かせる授業と教育のありかたを模索した。	Zoom の利用については十分に機能を活かしきれなかった点が改善点として挙げられる。ブレイクアウトルームを活用するなどして、オンライン上での学生のアクティビティ活発化により工夫が必要だったと感じる。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 目黒ゼミ主催「ブラックライブズマター運動を考える」を Zoom で全 3 回開催した。アメリカで生じた人種差別抗議運動をきっかけに、アメリカの人種の歴史、差別を生む社会的構造などについて専門家を招いての講演とディスカッションの場を設けた。	Zoom だからこそ遠方の研究者の協力を得ながらのゼミ活動が可能になったことは、大きな発見だった。今後ともこのような取り組みを実施したい。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	